

第11回キャリア教育
優良教育委員会、学校及びPTA団体等
文部科学大臣表彰

平成30年1月11日（木）

文 部 科 学 省

第11回 キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等の取組内容（推薦理由）

— 目 次 —

<北海道>

北海道平取高等学校・・・1

<青森県>

大間町立奥戸中学校・・・1

八戸市立小中野小学校・小中野中学校

地域学校連携協議会・・・2

<岩手県>

盛岡市教育委員会・・・2

遠野市立遠野中学校・・・3

岩手県立岩谷堂高等学校・・・4

<宮城県>

大崎市立三本木中学校・・・5

宮城県名取高等学校・・・5

<秋田県>

大仙市教育委員会・・・6

能代市立鶴形小学校・・・6

横手市立横手北中学校・・・7

秋田県立稲川支援学校・・・8

<山形県>

山形県立庄内総合高等学校・・・8

「米沢チャレンジウィーク」実施協議会・・・9

<福島県>

棚倉町教育委員会・・・10

福島市立松陵中学校・・・10

西会津町立西会津中学校・・・11

<茨城県>

筑西市立河間小学校・・・11

茨城県立明野高等学校・・・12

曲がり松商店街 活性化委員会・・・12

<栃木県>

宇都宮市立昭和小学校・・・13

栃木県立茂木高等学校・・・13

<群馬県>

みなかみ町立新治小学校・

みなかみ町立新治中学校・・・14

明和町立明和東小学校・

明和町立明和西小学校・

明和町立明和中学校・・・15

渋川市立渋川南小学校・

渋川市立豊秋小学校・

渋川市立渋川中学校・・・17

<千葉県>

千葉県立松尾高等学校・・・19

<東京都>

荒川区教育委員会・・・19

江戸川区立松江第四中学校・・・20

立川市立立川第五中学校・・・21

東京都立農芸高等学校・・・21

学校法人豊昭学園 昭和鉄道高等学校・・・22

学校法人明昭学園 岩倉高等学校・・・22

東京都立府中けやきの森学園・・・23

<神奈川県>

川崎市教育委員会・・・23

神奈川県立平塚農業高等学校初声分校・・・24

一般社団法人

神奈川県ビルメンテナンス協会・・・24

<新潟県>

湯沢町教育委員会・・・24

佐渡市立金井小学校・・・25

糸魚川市立糸魚川東中学校・・・25

新潟県立柏崎工業高等学校・・・26

Good Job つばめ 実行委員会・・・27

<富山県>

富山市立新庄中学校・・・27

富山県立滑川高等学校・・・28

富山県立八尾高等学校・・・29

<石川県>

石川県立小松工業高等学校・・・29

<福井県>

坂井市立三国中学校・・・30

福井県立坂井高等学校・・・30

福井県立嶺南西特別支援学校・・・31

<山梨県>

山梨市立笛川中学校・・・31

<長野県>

坂城町教育委員会・・・32

佐久穂町立佐久穂小学校・

佐久穂町立佐久穂中学校・・・33

長野県飯田OIDE長姫高等学校・・・33

<岐阜県>

高山市教育委員会・・・34

岐阜県立東濃高等学校・・・35

岐阜県立多治見北高等学校・・・35

<静岡県>

- 磐田市立豊田中学校・・・36
- 静岡県立小山高等学校・・・37
- 学校法人松薫学園 焼津高等学校・・・38

<愛知県>

- 大治町教育委員会・・・38
- 設楽町立田峯小学校・・・39
- 北名古屋立天神中学校・・・40

<三重県>

- 四日市市立山手中学校・・・41
- 津市立美杉中学校・・・42
- 三重県立南伊勢高等学校南勢校舎・・・42

<滋賀県>

- 大津市立真野北小学校・・・43

<京都府>

- 亀岡市立西別院小学校・・・43
- 京都府立久美浜高等学校・・・44
- 学校法人明德学園 京都明德高等学校・・・46

<兵庫県>

- 丹波市立東小学校・・・46
- 西宮市立今津小学校・・・47
- 兵庫県立尼崎工業高等学校・・・48

<奈良県>

- 奈良県立五條高等学校・・・48

<和歌山県>

- 和歌山県立紀伊コスモス支援学校・・・49

<鳥取県>

- 南部町教育委員会・・・49
- 鳥取県立鳥取商業高等学校・・・50

<岡山県>

- 備前市立日生中学校・・・51
- 岡山県立林野高等学校・・・51

<広島県>

- 坂町立坂小学校・・・52
- 呉市立広南中学校・・・53
- 広島県立大崎海星高等学校・・・53

<山口県>

- 萩市立明倫小学校・・・55
- 山陽小野田市立厚狭中学校・・・56
- 山口県立西京高等学校・・・56

<徳島県>

- 鳴門市第一中学校・・・58
- 徳島県立鳴門渦潮高等学校・・・58

<香川県>

- さぬき市立さぬき南小学校・・・59

- 坂出市立坂出小学校・・・59
- 香川県立高松商業高等学校・・・60

<愛媛県>

- 松野町立松野中学校・・・61
- 愛媛県立西条高等学校・・・61

<高知県>

- 高知県立佐川高等学校・・・62

<福岡県>

- 岡垣町教育委員会・・・62
- 福岡県立玄洋高等学校・・・63
- 福岡県立八女工業高等学校PTA・・・63

<佐賀県>

- 佐賀市立芙蓉小学校・・・64
- 佐賀市立芙蓉中学校・・・65
- 佐賀県立牛津高等学校・・・65

<長崎県>

- 長崎県立中五島高等学校・・・66
- 長崎県立長崎工業高等学校・・・66
- 長崎県立佐世保工業高等学校・・・68

<熊本県>

- あさぎり町立深田小学校・・・68
- 菊陽町立菊陽中学校・・・69
- 宇土市立網田中学校PTA・・・69

<宮崎県>

- 日向市立大王谷学園
(大王谷小学校・大王谷中学校)・・・70
- 宮崎県立都城西高等学校・・・71

<鹿児島県>

- 霧島市立木原小・中学校・・・71
- 枕崎市立立神中学校・・・72
- 鹿児島県立蒲生高等学校・・・72

<沖縄県>

- 那覇市立曙小学校・・・73
- 那覇市立壺屋小学校・・・74
- 読谷村立古壑中学校・・・75
- 読谷村立古壑中学校PTA・・・75

<仙台市>

- 仙台市立荒巻小学校・・・75

<横浜市>

- 横浜市立老松中学校・・・76

<京都市>

- 京都市立洛陽工業高等学校・・・77
- 京都市立伏見工業高等学校・・・77
- 特定非営利活動法人
アントレプレナーシップ開発センター・・・78

<大阪市>

大阪市立咲くやこの花高等学校・・・・・・・・・・ 78

<神戸市>

神戸市立真陽小学校・・・・・・・・・・・・・・ 79

<熊本市>

熊本市立一新小学校・・・・・・・・・・・・・・ 80

熊本市立川尻小学校・・・・・・・・・・・・・・ 80

<北海道> (種別：学校) 北海道平取高等学校

推薦理由

当該校では、生徒が主体的に取り組む実践的な態度と創造的な能力を育成し、地域に貢献する人材育成に取り組んでいる。具体的には、選択科目「フードデザイン」において、平取町の特産品のトマトを生産しているトマト農園と連携し、トマト農園経営者による講義、トマトの苗植えから収穫の体験、地場産物を使用した試作調理、地場産物を活用した「ふるさと給食『ニシパランチ』」試食会において、町内の小・中学校等に出向き、児童生徒等に対して「地産地消」「食の安全・安心」「町内の特産品」について説明するなどの活動を行っている。さらに、平取町及び地域の団体（びらとり農業協同組合、平取商工会議所等）などと連携して、トマトクラブ（部活動）の生徒が地場産物を活用して開発したレシピを「ニシパの恋人ランチ」として町内の飲食店のほか、「ふるさと給食『ニシパランチ』」として町内小・中学校の学校給食などに提供している。当該校は、平成27年度から北海道教育委員会の指定事業「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」の指定を受け、地域の未来を担う人材を育成するため、地方自治体や地域の産業界など関係機関、団体の支援を受けながら、小学校、中学校、高等学校間の体系的なキャリア教育に取り組み、学校全体でキャリア教育の充実を図っている。地域の団体等と連携した教育活動の結果、調理や栄養に関する専門的な知識を学ぶために大学等に進学する生徒や、地元の農業協同組合や飲食店等に就職して地域産業の発展に寄与する生徒を輩出している。

○主な教育実践

<平成25年度>

- ・特産物を活用した新レシピ開発及び試食会の開催
- ・「ふるさと給食『ニシパランチ』」レシピづくり及び平取中学校にてレシピ等の説明実施

<平成26年度>

- ・特産物を活用した新レシピ開発及び試食会の開催
- ・町内小中学校給食レシピづくり及び弥生保育所、二風谷小学校にてレシピ等の説明実施
- ・えりも町の観光施設「風の館」にて開発したレシピの試食、販売の実施
(町民税1%まちづくり事業活用)

<平成27年度>

- ・特産物を活用した新レシピ開発及び試食会の開催
- ・「ふるさと給食『ニシパランチ』」レシピづくり及びバチラー保育園と平取中学校にてレシピ等の説明実施
- ・「ニシパの恋人ランチ」メニューの開発及び町内飲食店へメニューの提供

<平成28年度>

- ・特産物を活用した新レシピ開発及び試食会の開催
- ・「ふるさと給食『ニシパランチ』」レシピづくり及びびね内保育所、平取小学校、平取中学校にてレシピ等の説明実施
- ・「ニシパの恋人ランチ」メニューの開発及び町内飲食店へメニューの提供

<青森県> (種別：学校) 大間町立奥戸中学校

推薦理由

当該校は、平成28年度からキャリア教育の充実を掲げ、推進体制を整備するとともに、教育活動全体を通して様々な取組を行っている。その取組の一つとして、平成26年度から実施している函館市への遠足をキャリア教育に位置付け、地元自治体と協力し、大間町のPR活動を行っている。

本活動は、将来大間町を担う人材として地元の良さを再認識するとともに、PR活動を通して、社会性を身に付けることを目的の一つとして、総合的な学習の時間の活動とも関連付けて実施している。また、人口減少を課題とする大間町の活性化を図るため、町役場の職員と協力して取り組んでいる。具体的な取組は次のとおりである。

【取組】

「大間町PR・函館遠足」

- 平成28年度

- ・大間町漁業協同組合の中の農産物担当部署と連携した職場体験（オコッペいもっこ（三円薯）の栽培）の実施及び収穫した奥戸いもを、函館市内で配布した。

○ 平成 29 年度

- ・近隣の青森ヒバ専門店からの御厚意で譲り受けたヒバのチップを小袋に入れ、消臭剤チップとしてPRチラシとともに配布した。配布の際には「感謝」という文字のハンコを押したメッセージカードを添えて配布した。
- ・五稜郭タワーで全校生徒（34名）による「奥中ソーラン」の演舞と大間町職員による「海鳴り太鼓」の演奏を同町のゆるキャラとともに披露し、大間町をPRした。
- ・生徒会事務局が「函館FMいるか」のラジオ番組に出演し、大間町をPRした。

帰校後の生徒感想文には、コミュニケーションの大切さを知る良い機会となったことや、他の地域を訪れることで改めて地元の良さを理解できたことなどの記述があった。また、PR活動により他県の観光客からお礼の手紙が学校に届き、そのことも生徒の達成感につながり、地元の良さについて改めて考える機会となった。

当該校における取組は、「推薦要領」の推薦の観点③「地元企業や自治体等と連携し、地域課題の解決に取り組むなど、児童生徒の地元への理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れている学校」に該当すると考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<青森県>（種別：団体）八戸市立小中野小学校・小中野中学校地域学校連携協議会

推薦理由

八戸市立小中野小学校、八戸市立小中野中学校とも、青森県教育委員会における「平成 26・27 年度あおもりで『生きる・働く』を学ぶキャリア教育実践活動事業」の研究指定校となったのを契機に、キャリア教育推進の体制づくりや、キャリア教育の視点による教育活動が行われ、現在も継続した実践が行われている。

当該団体は、両校の教育活動に積極的に関わり、様々な支援を通して、キャリア教育に関わる活動を支えている。具体的な取組は次のとおりである。

【取組】

- ・地域出身の職業人の講話等を行う「コナチュウ未来への架け橋講座」（中学校）、「ようこそ！となりの先生」（小学校）での企画や講師との交渉等を当該団体の事務局である地域密着型教育コーディネーターが進めている。
- ・中学校の「グッジョブウィーク（社会体験学習）」や「パパママ体験学習」、小・中学校での「総合的な学習の時間」での地域の人と関わる活動においても同様に支援を行っている。
- ・両校では、これらの教育活動や各教科での学習等をキャリア教育の視点で関連付け、「キャリアノート」を活用しながら進めている。
- ・両校では、当該団体での地域諸団体との連携を図りながら、地域・家庭・学校が協働してキャリア教育を推進している。

当該団体における取組は、「推薦要領」の推薦の観点①「学校の教育活動に積極的に関わり、キャリア教育の充実に寄与しているPTA団体等」に該当すると考え、キャリア教育優良団体として推薦するものである。

<岩手県>（種別：教育委員会）盛岡市教育委員会

推薦理由

「キャリア教育」を、子供の社会的自立を目指す盛岡市の教育の中核を成すものと位置付け、地域の関係者が参画する会議体「盛岡市キャリア教育推進協議会」を設置し、各学校がキャリア教育を円滑に推進するために必要な支援体制の充実に努めている。

「盛岡市キャリア教育推進協議会」の概要

(1) 組織

【会長】教育長

【副会長】教育部長、盛岡市中学校長会代表

【事務局】学校教育課

- 【委員】・教育次長 ・盛岡商工会議所代表 ・ジョブカフェいわて代表 ・盛岡青年会議所代表
・盛岡市建設業協同組合代表 ・盛岡工業クラブ代表 ・盛岡市社会福祉協議会代表
・岩手中央農業協同組合代表 ・盛岡公共職業安定所代表 ・盛岡市PTA連合会代表
・盛岡市商工観光部長 ・盛岡市保健福祉部長 ・盛岡市小学校長会代表
・盛岡市教育研究会進路指導部長

(2) 目的と5つの推進方策

関係機関が連携し、学校、企業、保護者、行政等の共通理解と協力の下で、小・中・高の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。(平成19年設立)

- ① 小・中・高等学校段階における組織的・系統的なキャリア教育の推進
- ② 教員の資質・能力の向上
- ③ 企業等の協力を促す環境整備
- ④ 学校、産業界、関係行政機関等の連携強化及び基盤整備
- ⑤ キャリア教育に対する社会全体の理解の促進

(3) 主な取組

- ◆9年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育推進のため、小・中1校ずつを研究委託校とし、実践を全小中学校へ周知している。
- ◆「職場体験学習受入・キャリアアドバイザーリスト」を作成・配布し、学校のニーズと各事業所の受入の円滑なマッチングを推進している。
- ◆「啓発リーフレット」を作成・配布し、キャリア教育に対する地域・保護者の理解促進を目指している。

<岩手県> (種別：学校) 遠野市立遠野中学校

推薦理由

1 キャリア教育の特徴

総合的な学習の時間において、「遠野人学習」を掲げ、人との関わり合いを通して、地域に学び、自ら課題を見付け、主体的、創造的に問題解決や探究活動に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えられるようにすることをねらいとしている。

2 取組の重点

- (1) 地域の教育力を生かし、地域の人材の協力を得ながら、生きた教材と向かい合わせ、体験を通じた学習により、地域の良さを発見させる。
- (2) 他者との関わりの中で、実際に学びを生かして行動するなど、働きかけのある学習にしていき、自らの生き方を考えさせる。
- (3) 職業体験、地域学習という要素を生徒の興味・関心を生かす形で取り入れた学習を展開する。

3 関係機関との連携

行政との連携、地域との連携、企業との連携を位置付け、協力依頼、連携した取組、指導依頼、発信先等として様々な連携の場を設定している。

4 具体的な取組【遠野を盛り上げるプロジェクト】

地域の文化施設、福祉施設、産直、商店街、農家などと連携し、遠野の産業や文化を活性化させるためのテーマを各自で設定し、地域の方々と協働で計画実践、発信することに平成26年度から継続して取組んでいる。取組推進に向けて、地域企業である「遠野みらいづくりカレッジ」によるコミュニケーション力の向上を目指した学習も行っている。

※ 生徒は、自分の夢や地域の未来について考え、取り組んだことや考えたことを将来に生かしたいという思いにまでつながっている。また、取組に関わっていただいた方々から、「地域の活性化となった」等の声もたくさん届いており、様々な成果を挙げている。

＜岩手県＞（種別：学校）岩手県立岩谷堂高等学校

推薦理由

当校は、全国初の総合学科設置校の一つとして学校設定科目「産業社会と人間」の学習内容を構築するとともに、地域・産業界との連携を主体的に図り、キャリア教育を組織的・系統的に行っている。その主な実践例を次に示す。

1 「産業社会と人間」（1年次）

(1) 職場見学

職業理解、望ましい勤労観・職業観の醸成、進路に応じた主体的な科目選択の力の育成を目的とし、次の4コースから興味・関心に応じて1コース選択させ見学させる。

- ア 農業研究センター → 醤油・味噌醸造会社
- イ 清掃事業所 → ホテル → 服飾縫製工場 → 県立病院
- ウ 乳酸菌飲料工場 → 生鮮卸売市場 → 半導体デバイス製造工場
- エ 社会福祉施設 → スーパーマーケット → 鋳造工場

(2) 学校見学

上級学校の理解、学習意欲の向上を目的とし、次の11コースから興味・関心に応じ1コース選択させ体験的に学習させる。(国立大学は共通とし、4学部から選択)

共通 国立大学（人文社会科学部、理工学部、教育学部、農学部から選択）

選択 私立大学・短期大学、専門学校（商業系、介護福祉系、理美容系、調理系、薬業系、保育系、看護系、情報技術系、幼児教育・介護福祉系）、県立産業技術短期大学校

2 「総合的な学習の時間」（2年次）

(1) 職業人の話を聞く会

職業理解を目的とし、次の10コースから興味・関心に応じ2コース選択させ聴講させる。

保育士、美容師、販売員（セレクトショップ）、飲食店従業員（カフェ）、公務員（消防士、事務職員）、製造員、介護福祉士、看護師、ホテル従業員

(2) 社会人講師講演会

望ましい勤労観・職業観の醸成、自己の在り方・生き方を考察させることを目的とし、講話を聴講させる。

3 「総合的な学習の時間」（3年次）

(1) 卒業研究

担当学年・教科によらず全教員が担当し、キャリア発達に応じたテーマ設定から自己の在り方・生き方の決定に至るまでの一連の流れを指導する。

(2) 卒業研究発表会

校内発表会で選出されたグループが地域の公共ホールを会場として発表を行うことを通して保護者や地域による同校の教育活動の理解を図るとともに、生徒のキャリア発達を促す。

4 地域と連携した産業教育の推進

(1) 生物生産系列（農業）

実習のPRを兼ねた収穫物の戸別訪問販売、地域の販売会社による新型農業機械の実演。

(2) 産業工学系列（工業）

県立産業技術短期大学校との連携による技能講習、国道事務所と連携した工事現場見学。

(3) 流通情報系列（商業）

地域の商店街「蔵まち」における実践的販売実習、産業界・学術機関・官公庁・金融業界の連携による食産業の振興組織「南いわて食産業クラスター」に高校として初加入。

(4) 生活・福祉系列（家庭・看護・福祉）

家庭クラブにおける地域の保育園児との交流と花壇作り。(生物生産系列の花苗を活用)

上記の取組は、「いわてキャリア教育指針」に合致するものであり、本県のキャリア教育の推進に大いに貢献しているものと考え推薦するものである。

＜宮城県＞（種別：学校）大崎市立三本木中学校

推薦理由

◇地域と協働した「三中キャリアセミナー」の継続的な実施

- ・当该校では、本県で推進する「志教育」の一環として、全学年生徒を対象とする「三中キャリアセミナー（少人数編制の社会人講話）」が継続的に実施されている。
- ・本セミナーは、主として総合的な学習の時間を活用して実施される体験学習であり、今年で3年目の実施となる。
- ・生徒が将来を考えるための手がかりや、社会に出るに当たっての大切な姿勢を、様々な職種の方々との「出会い」を通して学ぶ場として開催されている。
- ・大崎市三本木地域を中心に様々な職種の約30名のボランティア講師を招き、「仕事に対する思い・人生観」「その職に就くために必要な力と方法」「自分の人生を決めたターニングポイント」等の講話や、少人数グループの生徒たちとの語り合いを行っている。年間45分の講座を、延べ90講座開催している。
- ・学校と地域をつなぐ組織である「三本木と学校をつなぐ会」を地域の有志の方々で立ち上げ、本校のキャリアセミナーの講師や就労体験学習の就労先等をコーディネートする役割を担っている。
- ・多様な職種の講師との話し合いから、生徒たちは普段あまり触れることのない職業について理解を深めたり、身近な存在以外の大人の「生き方」「人生」に接することで社会に対する視野を広げたりしながら、将来に対する夢や希望を膨らませている。

＜宮城県＞（種別：学校）宮城県名取高等学校

推薦理由

当该校は、県南東部に位置し普通科・家政科を有し地域の人材育成を担ってきたが、東日本大震災に伴う移転先としても急激に変化する地域との連携を模索してきた。平成28年度において、宮城県教育委員会志教育推進事業（岩沼地区）の指定に伴い、岩沼西小学校とともに携わることを好機に、志教育の観点から従前の各校の諸活動を捉え直し、同地区に在籍する児童生徒を校種を越えて育成することを目指し、小中高の積極的な連携を想起・実践に取り組み、他地区の範例となった。現在も、小中高が連携し持続的に活動し、将来において、地域に貢献できる人材の土台づくりに努めている。

小高連携事業

① 岩沼西小学校をきれいにし隊

小学校1・2学年の大掃除を、家政科1学年が赴き協働する。児童の視点に立つ補助を考えることにより、異年齢集団との関わり方・果たす役割を学んだ。

② 吹奏楽部による芸術鑑賞会

小学校1～3年生対象の芸術鑑賞会に吹奏楽部が赴き進行・楽器紹介等、そのすべてを生徒が運営し、親近感のある観賞会となり楽器・音楽への興味・関心を引き出した。

中高連携事業（抜粋）

① 岩沼西中学校アルカス運動

両校の生徒会役員及び地域防犯協会・警察が協力し、児童生徒健全育成「アルカス運動」を展開、規範意識や地域との関わり方について考える好機となった。

② 国際理解講演会「ルワンダ講演会」

ルワンダ内戦（1994）を経験した同国出身者を招聘し、全校生徒及び岩沼西中学校生徒会役員に講演いただき、わが国の平和維持・国際貢献の在り方について考えた。

小中高連携事業

岩沼西小学校あいさつ運動

同小学校の「月例あいさつ運動」に、岩沼西中学校生徒会と当該校生徒（同中学校出身と野球部）も参画。地域における初中等教育機関の連携を発信した。

岩沼市・企業連携

共同商品開発「岩沼とんちゃん丼」・販売

岩沼市・(株)ローソンと家政科食物専攻が協働し、地元食材を用いた商品（弁当）を開発し、市民まつり・市長表敬・店頭販売を行ない、郷土のPRに貢献した。

高校単独事業（キャリア教育関係）

- ① 職業体験学習（2学年）
- ② 上級学校訪問（2学年）

<秋田県>（種別：教育委員会）大仙市教育委員会

推薦理由

大仙市は平成17年3月に8市町村が合併して誕生し、合併当初から市内全ての中学校で職場体験学習に取り組むなど「地域に根ざしたキャリア教育」を推進している。また、平成28年度には「地域活性化に寄与できる人材」とその能力を伸ばす教育として「大仙教育メソッド」を立ち上げ、中学校区単位における特色ある取組を一層推進している。その基盤となる三つの力（「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」）を支え、深めるのが家庭・地域との連携であり、「積極的なつながり」である。学校のカリキュラムの中で、地域と関わる活動は多いが、児童生徒が市全体を視野に入れ、学校と家庭・地域・企業をつなぎ、地域の役に立ちたいという思いを育て、地域が一つになって児童生徒の育成の気運を高める必要があると考えた。

「大仙ふるさと博士育成」事業は、大仙教育メソッドを推進するための各学校の共通ツールの一つである。

○「大仙ふるさと博士育成」事業について

1. 事業のねらい

地域行事への参加や企業・施設等での見学・体験など、地域と関わる活動を通じて、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す。

2. 事業の概要

- (1) 対象 大仙市内の児童生徒（小学校3年生～中学校3年生）
- (2) 訪問先 企業、文化財、施設、異校種、公民館主催の行事、地域行事等
- (3) 訪問日 土曜日、日曜日、祝日、長期休業等及び訪問先で定めた日
- (4) 事業の流れ
 - ① 訪問・体験先リストの作成、イベント情報等の提供（教育委員会）
 - ② 訪問先への申込み（児童生徒、保護者、学校）
 - ③ 「ハローパスポート」を持参し訪問（児童生徒）
 - ④ 学校へ報告書を提出し、活動内容に応じたポイントの認定（学校）
 - ⑤ ポイントに応じて「大仙ふるさと博士」に認定（教育委員会）

3. 事業の成果

事業開始から1年経過した現在、当該市の約3割の児童生徒が「大仙ふるさと博士」に認定されている。児童生徒は地域に根ざして努力している企業がたくさんあるということを知る一方で、受け入れた企業からは事業を通して「地域づくり」「人づくり」を学校等と連携して進めていきたいという声が多く聞かれた。

<秋田県>（種別：学校）能代市立鶴形小学校

推薦理由

当該校の学校教育目標は「ふるさとと共に生きる 心豊かでたくましい子どもの育成」である。コミュニティ・スクール（以下、C・Sとする。）の機能を生かし、地域のひと・もの・ことを基に地域との双方向による連携・協働により、自他に認められる経験を重ね、ふるさとを愛し支えていこうとする子どもを育てるための体験活動の充実を図っている。

また、総合的な学習の時間や各教科等と関連させた環境教育の時間を活用して、ふるさとのよさや課題に気づき、地域に貢献しようとする意識を高められるよう「つるがたの光をはなて！～鶴の恩返し隊！出動～」という合い言葉で、学習活動に取り組んでいる。

1 キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習のテーマ

ふるさとと共に歩む学校教育の推進 ～ふるさとに学び、郷土の一員としての自覚をもつ子どもの育成～

2 ねらい

地域の伝統や文化、豊かな自然を生かして、地域と連携・協働しながら（双方向連携）、子どもたちの活動を支援する地域の人々との関わりを通して、ふるさとを愛し、支えていこうとする子どもの育成を目指す。

3 具体的な活動（3つのふれあい10の実践）

(1) 「鶴の恩返し隊」

- ① JR鶴形駅舎清掃活動（今年度22年目）…隔週水曜日の朝の活動
- ② 町内クリーンアップ…雪解け後の5月
- ③ 少年警火団活動（火の用心）…毎週月曜日

(2) 地域の特産物等の栽培・生産・販売

- ① 「そば」「椎茸」「さつまいも」「じゃがいも」「かぼちゃ」の栽培・生産、花壇・畑の土作り
- ② 「鶴形そば」の研究…毎年テーマを決めて調査・研究・発信
- ③ 地域の「そば祭り」に全校で参加…育てたそばを使った製品販売

(3) モリアオガエルの観察と生息環境の調査・保全

(4) 森林環境学習（茂谷山登山、たちこうべ登山、学校林観察）

(5) クラブ活動

・クッキング（そばクレープ） ・グラウンドゴルフ など

(6) おもてなし会食会…地域の方を招待し、感謝の食事を提供・会食

(7) 地域の行事、伝承行事への参加

・野菜作り（5月～8月）・祭典（9月） ・そば祭り（11月） ・地藏焼き（2月）

4 成果と課題

- (1) C・S、鶴寿会(老人クラブ)を始め、自治会、婦人会、鶴形まちづくり協議会、地域行事各実行委員会等との緊密な連携による体験活動は、子供が自信をもつ場となり地域貢献の意識が育ってきている。
- (2) 人と関わることの楽しさを積み重ねることにより、他校との交流においても自分から働き掛ける姿や、他の人のよさに気付き真似たり取り入れたりしようとする姿が見られ、自分自身を見つめ考えるようになってきている。
- (3) 「地域を学習と結び付けてよく学んでいる」「地域の一員としての自覚をもって今後の発展を願っていることがよく分かる」など、「子供が地域の元気の源」といった地域からの評価が得られている。
- (4) 教職員の異動に関わらず、気軽に相談したり活動したりできる関係が学校と地域の間に構築されており、保護者の安心感と教職員の意欲につながっている。
- (5) 児童数減少により学校が極小化する中で、今後も子供が地域を支えていこうとする自覚がもてるよう、取組方法等に工夫・改善が必要である。

<秋田県>（種別：学校）横手市立横手北中学校

推薦理由

3年生の修学旅行においては、東京都内の複数の商店街で「横手の魅力PR活動」を実施している。これは、総合的な学習の時間に「横手」という自分のふるさとに興味・関心をもち、課題を追究し互いの考えを学び合ったり、地域の人たちの思いや自分たちの思い・願いを伝えたりする活動を通して、社会の一員として主体的に関わっていこうとする態度や地域への思いを深めようとする生徒の育成を目指し、3年間の系統的計画的な活動により、その具現化を図るために位置付けられる活動である。

1 主な活動内容

- 1年：「横手のよさを再発見しよう」のテーマで横手を元気になっている人や活躍している人、魅力を創り出している人たち取材し、その方々の生き方や思い、存在感等について、自分の考えをまとめる。
- 2年：平泉への学習旅行では横手との共通性や違いを見付け、地域での職場体験活動では横手の特産物などへの理解を深めたり、地域で生活する方々の思いを知ったりしながら、横手の魅力について考えてPRする活動を立案する。
- 3年：修学旅行では東京都内の複数の商店街の方々や横手市出身者で構成する「かまくら会」の会員の皆さん、そしてJA秋田ふるさと営農部、横手市の商工観光部横手の魅力営業課の皆さんの協力を得て、新宿区

早稲田大隈通り商店街、墨田区キラキラ橋商店街、豊島区巢鴨地藏通り商店街で、シイタケやアスパラ、わらびなどの旬な野菜と山菜、りんごやぶどうのジュース、いぶりがっこなどの横手の特産品の販売、観光情報を盛り込んだ自作のチラシ配布などの体験活動を半日日程で行う。

2 主な地域との連携

・横手市商工観光部横手の魅力営業課 ・横手観光協会 ・JA秋田ふるさと ・横手市内諸事業所

3 その他

当該校は統合5年目を迎えたが、統合前は3校で実施していた「かまくら接待」「盆踊り隊」「サケ稚魚放流活動」「ささら舞」等の伝統行事や伝承芸能への参加も教育活動に位置付けることで、地域の理解、愛着、誇りを育んでいる。

<秋田県> (種別：学校) 秋田県立稲川支援学校

推薦理由

当該校は、平成27年度に秋田県教育委員会から「特別支援学校職域開拓促進事業」の推進校に指定されたことを機に、開校から30年に渡って築き上げてきた地域との連携による職業教育を土台とし、更なる充実を図るため、新たな職域の開拓と開拓先事業所との連携による職業教育の実践を行っている。また、高等部においては、日頃から地域の行事に積極的に参加し作業学習製品等の販売活動を通して地域を学ぶとともに、生徒自身がやりがいや緊張感、責任感、プロ意識等をもって作業に臨む姿勢を育成してきた。これら一連の教育活動により、高等部卒業生の一般就労希望者全員が進路実現を果たした。

この実践を平成28年度秋田県キャリア教育研究協議会において生徒自らが実践発表を行い、特別支援教育関係者のみならず、小・中・高等学校のキャリア教育推進に携わる関係者から高い評価を受けた。

以下に主な特色を示す。

1 地域の伝統工芸・地場産業を取り入れた学習活動

- ・開拓先事業所の技術指導により、これまでの作業学習の内容に広がりが出た。(工芸班の「蒔絵」、福祉・清掃班の「ポリッシャー」等) また、プロの技を目の前で見せてもらうことができ、生徒自身が仕事をする上での心構えについて、改めて考える機会となった。「もの作り」に対する興味や意欲の高まりも見られるようになり、自主的に「漆器フェア」に参加した生徒もいた。
- ・開拓先事業所の作業の一部を導入したことで、校内実習として新しい作業に取り組むことができた(製靴作業)。本物の材料を扱うことや流通経路や販売価格などを教えていただいたことにより、生徒自身がやりがいや緊張感、責任感、プロ意識等をもって作業に取り組んでいる。
- ・作業学習指導技術向上研修により、教師の指導のポイントが明確になり、生徒にとってより分かりやすい指導を工夫するようになった。福祉・清掃班では、作業効率や安全に関して生徒同士で考えられるようになった。
- ・積極的な職場開拓により、新規の実習可能事業所数が大幅に増加し、生徒のニーズに応じた職場実習が行われた。

2 地域行事等への参画

- ・各学部で地域行事等への積極的参加が行われており、高等部では市主催の「うどんエキスポ」において他高校の生徒と合同でのボランティア活動を継続的に実施している。
 - ・地元事業所の協力を得て作業製品アンテナショップにおいて定期的な販売活動を行っている。
- これらの学習活動を通し、地域の一員である意識が高まり、生徒一人一人の責任感の育成につながった。

<山形県> (種別：学校) 山形県立庄内総合高等学校

推薦理由

昭和2年に山形県余目実科女学校として設立・開校。平成7年に普通科から総合学科に学科改編し、平成9年に現在の校名となる。

① 地域理解

総合学科の開設当時より、地域をフィールドとした学校設定科目を開講し、地域とのかかわりを大切にして

きた。このことは現在も続いており、地域の高齢者とゲートボールで交流を深める「生活と福祉」、地域伝統の槇島ほうき作りを苗植え、刈り取り、製作を通して地域の文化を守る「地域の自然」、地域で活躍するシェフから在来作物も使いながらフランス料理を学ぶ「フードデザイン」などの科目もある。

② 地域の小学校・幼稚園との交流

余目第三小学校との連携事業を平成14年から始め、現在は、「連携授業（スポーツⅠ）」、「2分の1記念文集作成（情報処理）」、「言語活動交流（英語表現Ⅱ）」、「地域たんけん（庄総訪問）」を行っている。第三幼稚園の園児との「年齢に応じた遊び交流（子供文化）」を通して良好な関係が築け、当該校体育祭に園児が応援に訪れている。

③ 地域企業との連携

地域企業との連携事業インターンシップは平成11年から希望者対象に実施し、13年には規模を拡大させ全員を対象にしている。現在も、1年次でインターンシップと地元企業の職業体験、2・3年次は「高校生と地元企業との交流会」を実施している。地元企業の仕事を理解するとともに、地元の活力となる人材育成に努めている。28年度の就職者の地元定着率は82%である。

④ 地域団体との連携

地域自治体から協力を得て様々な活動も行っている。例えば、行政課題に対して現地での調査活動を行い、収集した情報や地域の方々からアドバイス、庄内町役場職員への質問を通して議論を深め、課題解決に向けた提案書を作成する「ふるさと探究」、庄内砂丘の歴史を学ぶとともに防風林の管理を地域ふれあい講座で学ぶ「地域の自然」、各種祭りでの踊り参加や出店、ボランティア活動、体操教室開催など、地元への理解や愛着とともに活力を与える活動も行っている。

平成26年から町民の参画と協働事業「庄内町高校生・大学生議会～僕らの明日へ、私の主張～」にも参加し、様々な提言も行っている。

以上のとおり、地域企業や幼稚園、小学校等と連携するなど、学校の教育活動全体を通して系統的・体系的なキャリア教育に取り組んでいる好事例と言える。

<山形県>（種別：団体）「米沢チャレンジウィーク」実施協議会

推薦理由

当該団体は、平成18年から11年間にわたり、生徒が勤労観や職業観を培いながら「生きる力」を育み、社会の激しい変化に流されることなく、社会人・職業人として自立していくことを目的として、地域の教育力と最大限に連携し4日間程度の職業体験等の効果的な推進と円滑な実施に努めてきた。平成28年度には、市内の全中学校（8校）の第2学年又は第3学年の生徒785名が、同一週に市内273か所の事業所・施設等で職業体験を行っている。具体的な取組の内容については、次の通りである。

- (1) 米沢市内各中学校での共同実践を円滑に進めるため、全市的な協議の場を設けるとともに、各校区、各校での推進体制を整備している。
- (2) 受入先の調整については、健全な米沢市民としての資質育成や地域社会を支える職業人の育成等について産業界をはじめとする市内各界と連携し、十分な理解を得ながら、共に推進している。
- (3) これまでの進路指導の反省に立ち、一週間にわたる体験活動等を生徒の勤労観・職業観の確立のための実際的な手がかりとするため、各中学校においても、家庭、地域と連携して進めるような仕組みを検討し、協議会全体で方針の共有化を図っている。
- (4) 中学校における勤労観・職業観の育成や郷土を愛する心の醸成を念頭に、進路学習の推進を図るための指導の在り方を検討している。
- (5) 職場体験の実施後はリーフレットを作成し、参加生徒と事業所・施設等に配付している。また、市報に生徒の感想等を掲載することで、市民全体の理解を深めている。

以上のことから、キャリア教育優良PTA団体等にふさわしいと考え、推薦する。

<福島県> (種別：教育委員会) 棚倉町教育委員会

推薦理由

当該教育委員会では、「子どもは地域の宝、棚倉町の子どもは棚倉町で育てる」をスローガンに、地域が一体となって、学校教育と社会教育の両面から幼稚園、小・中学校の発達段階に応じたキャリア教育を推進している。今年度は5年目の取組である。

観点①の主な取組

ア キャリア教育を基盤とした学校経営の推進

町内全ての幼稚園、小・中学校の学校運営・経営ビジョンに、キャリア教育を位置付け、基礎的・汎用的能力の育成を実践している。

イ 町学力向上推進会議の設置

幼稚園、小・中学校の全職員で組織し、「夢（目標）をもち、自ら意欲的に学ぶ教育の実践」を主題とした研究に取り組んでいる。学力向上にも成果が見られてきた。

ウ 基礎的・汎用的能力の育成を目指した小学校6年生宿泊学習の実施

町内の小学校6年生を一堂に会して、基礎的・汎用的能力の育成の観点で実施した。特に、キャリアプランニング能力が高まった。

エ キャリア教育シンポジウムの実施

今年度は、前文部科学省初等中等教育局キャリア教育調査官 藤田晃之氏の講演や町内小中高校生、チャレキッズ協力事業所によるディスカッションを行った。

オ キャリア教育を基盤とした学校経営の例

棚倉町では、各学校で、キャリア教育を基盤とした特色ある学校経営が行われている。

観点③の主な取組

ア 町キャリア教育推進委員会の設置

地域社会が一体となり、地域の多様な資源を活用した社会体験事業を推進することを目的に設置した。

イ 「チャレキッズ in 棚倉」(小学生社会体験学習)の実施

夏季休業中、町内小学校5・6年生が、58事業所から選択して社会体験学習に参加し、地域の多くの方々と交流して、地域一体となった学習となった。

ウ 「チャレキッズ in 棚倉」協力事業所交流会の実施

エ 広報「たなぐら」(町の広報紙)より

<福島県> (種別：学校) 福島市立松陵中学校

推薦理由

当該校は、福島市南部の自然豊かな地域、松川地区唯一の中学校である。全校生329名、そのうちの多くの保護者が卒業生であるため、学校の教育活動に対して協力的である。生徒は松川ちょうちん祭りに小さいころから参加するなど地域と共に成長している。「地域の歴史や行事に触れる活動を推進してほしい」という保護者からの要望を受け、学校の教育活動の中に地域と共に活動する機会を取り入れ推進していく中で、生徒会本部を中心に「地域を良くしたい」「地域に貢献したい」という機運が高まり、平成27年度から地域交流活動に積極的に取り組んでいる。

生徒会委員会活動を基盤として、高齢者との交流や地域の清掃活動、老人クラブとの交流など、各委員会の特性に応じた活動を実践することで地域理解を深めるとともに、地域のためにできることを生徒一人一人が考え実行することで地域の一員としての自覚を高めるよい機会となっている。実践例としては、保健委員会の廃油を用いた石鹼の寄贈、給食委員会の果物農家で桃の袋かけ作業、JRC委員会の老人福祉施設訪問などがあり、豊かな職業観、勤労観を育み地域に生きる自分を自覚し将来の生き方を考える有意義な活動にもなっている。

さらに、成果を挙げている取組に地域交流活動の一環として生徒会本部が中心となって実施している「異世代サミット」がある。中学生から70代のお年寄りまで幅広い年代の地域の方々が集まり、地域を活性化するための意見交換を行っている。28年度は、中学生が松川町のためにできることについて意見交換し、松川町の魅力を全

国に発信するために松川町のよいところをまとめたカルタづくりに挑戦した。商工会のイベントの中でカルタの題材を募集したり、小学生や地域の方にカルタの絵を描いてもらったりと地域全体でカルタづくりに取り組むことで、生徒たちは、地域の歴史を振り返ったり、地域のよさを新たに発見したりと松川地区をより詳しく知るとともに、生徒が地域に誇りを持ち、地域の役にたつ大人になりたいという気持ちを高め、地域と共に自ら成長しようとする態度の育成につながった。

当該校の取組は、中学生が地域と共に活動し、地域の人と人をつなぐ存在となって活動し、地域のために生きる、地域と共に生きるという生き方の醸成を図ることができた大変意義ある実践である。

<福島県> (種別：学校) 西会津町立西会津中学校

推薦理由

当該校は全校生徒 118 名。西会津町は、福島県と新潟県の県境の山間地域に位置し、近年過疎化や少子高齢化が急速に進んでいる。当該校では、平成 19 年度より、西会津町教育委員会の支援の下、総合的な学習の時間に「アントレプレナーシップ教育(起業家教育)」を実施しており、「起業」という仮想体験の中で、今後起こりうる様々な課題や可能性をまとめる活動を通して、郷土理解を深めるとともに、将来において郷土を担う人材の育成を目指している。

平成 26・27 年度は、民間コンサルタント会社から講師を招き、2 年生時に「教育」「医療・福祉」「農業」「観光」「環境・エネルギー」の 5 領域から 1 つを選択し、町の課題と可能性についてまとめ、3 年生時は、前年の学習を基にどのように起業するか、採算まで考えてプレゼンテーションを行った。

平成 28 年度は、i.club 講師と西会津町地域おこし協力隊員、東京大学学生らの指導で、「資源を活かした、しごとづくり、磨き上げる町」「地域力を活かし、人に選ばれる町」「人を育み活かす町」「安全・安心な町づくり」の 4 つの柱(テーマ)において、地域資源の魅力・課題に気付き、そこから新しい未来が切り拓かれるアイデアを形にし、起こしたい変化が達成できている場面はどういうものかをポスターセッションやスキットなどをまじえて発表した。その結果、生徒は事後評価で、「西会津の魅力・課題への関心」で平均 7.2 (10 段階評価)、「西会津への興味」で平均 7.0、「西会津でアイデアを創りたい」で平均 6.9 と、西会津に対する理解や積極的に関わろうとする気持ちが高まっている。

これまでの取組は、西会津町ケーブルTV等でも広く町内に報道され、中学生が地域おこしを真剣に考え活動する姿に、町民の関心や期待も高まっている。

<茨城県> (種別：学校) 筑西市立河間小学校

推薦理由

2030 年問題や 2040 年問題を踏まえると、現在の小学 4 年生から 6 年生のキャリア形成はたいへん重要である。目の前の小学生に、夢や希望を描きそれを実現するためのキャリアプランニング能力や課題対応能力を身に付けさせるためには、社会科を中心とした教科と総合的な学習の時間、および学級活動(3)を連動させ、地域や事業所の協力を得て啓発的な体験をさせる必要がある。当該校の取組の構成は、次のとおりである。

【具体的な取組】

- 1 社会科と総合的な学習の時間、特別活動における体験の目的の明確化と事前・事後指導の工夫
 - (1) 4 年生の公共施設の見学等を生かした職業調査
 - (2) 5 年生における産業のものづくり体験と自動車工場の見学を生かした職業調査
 - (3) 6 年生における修学旅行・東京見学等を生かした職業調査
 - ・産業体験(今年度はかまぼこ作り)、国会議事堂・NHK放送局等の見学
 - (4) 6 年生における社会科の裁判所での傍聴と法教育を生かした社会性とシチズンシップの形成を図る取組
 - (5) 総合的な学習の時間を生かした起業家教育の展開
 - ・廃棄物を活用した装飾品づくり、味噌造り体験と地域の文化祭での販売
- 2 学級活動(3)の実施と、体験と連動したキャリア形成の充実
 - (1) 5 年生・6 年生を中心とした学級活動(3)の展開と保護者の理解の促進
 - ・学級活動(3)の年間指導計画の作成と資料づくり

- ・学級活動(3)の実践と、保護者からの意見の集約と公表
- (2) 1で示した体験の事前・事後における学級活動の展開
 - ・社会生活との接続を意図したワークシートの工夫
- 3 保護者や地域の理解と協力を図るための取組
 - (1) キャリア通信を毎月2号以上を発行しての情報発信と理解の促進
 - ・公民館や自治委員への配付と説明
 - ・PTAの会議や保護者の懇談会等におけるキャリア教育の説明
 - ・学校評価アンケートによるキャリア通信の活用性に関する評価
 - (2) 小中一貫の進路指導の研究と実践
 - ・下館北中学区の小中学校での研修会の実施と相互の授業参観
 - ・学級活動の年間指導計画の形式の統一と情報交換

<茨城県> (種別：学校) 茨城県立明野高等学校

推薦理由

生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、適切に検証改善を行い、事前・事後指導を含めたインターンシップに積極的に取り組んでいる。また、旧明野町内の幼稚園、小学校、中学校と連携し、キャリア教育研究会を開催して、互いのキャリア教育について情報交換するなど、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

1 事前・事後指導を含めたインターンシップの実施

平成29年度：9月13・14日の2日間、36事業所、2学年89名全員

2 キャリア教育報告会及びキャリア教育研究協議会の開催

代表生徒のプレゼンによる、インターンシップの報告会を実施する。また、報告会後には、明野地区小中一貫教育連絡協議会に加盟している幼稚園・小・中学校の関係者を交えて、研究協議会を開催し、それぞれの校種におけるキャリア教育に係る情報交換等を行う。

平成28年度キャリア教育報告会及び研究会

期日：平成28年12月9日(金) 講師：筑波大学人間系教授 藤田晃之 先生

3 市内の幼稚園児を対象とした英語出前授業を実施

希望する生徒を指導補助員として派遣し、指導にあたる英語指導助手の補助を担当させ、地域教育へ貢献させることにより、地元への愛着を育む教育を実践している。

<茨城県> (種別：団体) 曲がり松商店街 活性化委員会

推薦理由

曲がり松商店街は、商店街の活性化と地域貢献を積極的に推し進めている。その活動の一環として、平成23年度より大洗小学校の6年児童を対象に、商店街で実際に商業体験を行う「キッズ未来プロジェクト絆」事業を企画・立案し、小学校と協同で本事業を計画的・継続的に実施している。本事業の最大の特徴は、児童が商店を立ち上げ、商品販売の企画や広報、値段設定等を自分たちで行い、その計画を金融機関に説明し、金融機関からの資金の借入れも行って店を運営することである。この事業は、毎年新聞やテレビ等に取り上げられ、他の地域からも注目を集めている。このように曲がり松商店街は、商業の深い体験ができるよう、学校に多大なる貢献をしてきた。

【具体的な取組】

1 全体説明

10月下旬、商店街の代表者が小学校を訪問し、授業の講師役として本事業の全体説明を行う。その中で「メーカー」「卸売り屋」「小売店」それぞれの役割や、儲けの仕組みについて説明する。また、商品の販売だけの体験とならないよう、商品の流通や仕入れ、税金や価格の設定、利益、金融機関からの資金借入れなど、商業をより実践的に体験できるように学ぶ機会を設定している。

2 お店の準備

11月中旬、商店街の代表者が、担当店を決定し「社長」「経理部長」「販売」「広報部長」のそれぞれの役割を説明、児童の役割分担を決める。児童が主体となり仕入れ値や利益を考慮した売り値の決定、店の名前やPOPの作成ができるように、導いている。

3 曲がり松 100円商店街の開催(11月)

各商店街での話し合いにより、接客・販売方法など子供たちに教える内容の統一化を図っている。また、児童の店を担当する店は、商品の仕入れやその時のアドバイスなど、体験日の一切をサポートしたり、金融機関から資金が円滑に借り入れられるよう、事前手配や説明時のアドバイスも行ったりしている。商店街では、安全に商業体験ができるように、通りを歩行者天国とするための手続きや路線バスのルート変更手続き、警備員の配置も行っている。さらに、集客のために地域へのチラシの配布や、新聞の折り込み広告を入れるなど、商業体験が円滑に行われるための工夫をしている。

4 取組の効果

児童は、楽しみながら商業・経済の仕組みを学ぶことができている。そして、活動の終わりには収支決算を行い、経営者の立場から活動の成果を振り返ることができる。また、商品の流通について理解し、店の工夫や苦労を実感など、実際に商業を体験し、お店の人や地域のお客さんと触れ合うことで、地域の商店への思いを深めることができている。

<栃木県> (種別：学校) 宇都宮市立昭和小学校

推薦理由

【観点①】「地域と連携して取り組む職場見学・職業体験等」

児童一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育成するため、以下のア～キなどの取組を進めている。

- ア. 学校経営方針の重点にキャリア教育の充実を位置づけ、全教職員共通認識の下での実践に努めるとともに、保護者や地域に周知し協力を求めている。
- イ. 「宮・未来キャリア教育年間指導計画」を整備し、学校全体で育てたい資質・能力を明確にするとともに、学年段階に応じた発達課題を示している。
- ウ. 「校内キャリア教育推進委員会」を設置し、適切な検証改善が行われるようにするとともに、「昭和小学校地域協議会『夢工房』」により地域教育力を活用した支援体制の充実を図っている。
- エ. 総合的な学習の時間(ワンダertime)においては、全体計画並びに各単元計画にキャリア教育との関連を明示し、汎用的能力の育成に努めている。
- オ. 特に6年「子どもインターンシップ」では、地域の官公庁、店舗、事業所などにおける職場体験を10年以上にわたり実施しており、身近な職業人とかかわる活動などにおける事前・事後指導の充実を努めている。
- カ. このほかにも2年生活科「とびだせ しょうわ たんけんたい」では、地域の人・もの・ことと関わる様々な体験活動の充実を図り、4年社会科「市施設めぐり」では、職業人にふれる機会として活動を工夫するなど、各種教育活動をキャリア教育の視点から見直して改善に努めている。
- キ. 地域学校園において中学校と連携したあいさつ運動を実施し、児童生徒の交流を通じた人間関係形成・社会形成能力の育成に努めている。

【観点③】「地元への理解・愛着・誇りを育む教育」

当該校は宇都宮市の中心市街地に位置しているが、地域協議会や老人クラブ、婦人会と連携を図り、「七夕飾り」「盆踊り」「どんど焼き」等の伝統行事を開催し、地元への愛着や誇りを育む教育を積極的に展開している。

<栃木県> (種別：学校) 栃木県立茂木高等学校

推薦理由

当該校は、総合学科に改編して14年目を迎え、多様な進路に対応できる多くの選択科目や、探究的な学習活動を重視する「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」等の授業を通して、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成が図れるよう、地域と連携したキャリア教育を推進している。

1. 地域課題解決活動

平成24年度から28年度にかけて、1、2年生を対象に地域全体をフィールドとした探究的な活動を通して、「地域理解」「体験重視」のキャリア教育に取り組んできた。

この取組を地域課題解決活動として体系化し、29年度からは「ゆずも学」と名付け、地域の課題を発見・分析し、計画を立てて解決に取り組み、自分と社会との関わりを考え自らの進路実現へ努力する力を養うキャリア教育として推進している。

1年生は地域社会の維持などをテーマに、町内の施設の効果や課題について研究する。2年生は高校生の地域活動について考えるとともに「自分の進路でどう社会に貢献するか」について研究発表を行う。具体的な活動内容は以下のとおりである。

- ① 主体的なキャリア形成能力育成の取組として、キャリア講演会、地域活性化の取組、町内施設を活用したフィールドワーク、地域の大人を囲んでのワークショップ、地域インターンシップ等を実施。
- ② キャリアデザイン研究・開発力育成の取組として、学校オリジナルの茂木手帖の活用、教科横断的授業の実践、「学びの履歴書」(ポートフォリオ)の作成、探究的学習活動等を実施。
- ③ キャリアプランニング能力育成の取組として、ライフプランの作成、日本語ディベート、研究発表会等を実施。

2. 交流体験活動

高齢者施設訪問、特別支援学校交流会、保育園訪問や田植えボランティア等の交流体験活動を通して、他者に働きかける力やコミュニケーション・スキルを身に付けるとともに、共生社会の実現について意識を高め、責任感の醸成につなげている。

3. 地域貢献活動

高齢化・過疎化地域におけるハッチョウトンボ・トウキョウサンショウウオの保護活動や、ゆず農家のための「援農」の仕組み作り等は、地域の人々や町役場、企業との連携・協働による地域活性化を図る活動であり、よりよい地域・社会の形成者としての役割を考える効果的な取組となっている。

<群馬県> (種別：学校) みなかみ町立新治小学校・みなかみ町立新治中学校

推薦理由

平成26年から平成28年まで、キャリア教育の指定校として、地域の特色を生かした教育活動を実践し、小中学校と地域が主体的に連携・協力しながら、義務教育9年間を見通した指導の充実を図るとともに、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んだ。これらの研究内容や授業等の実践例は、群馬県のキャリア教育のモデルとして、キャリア教育ガイドブックに掲載し、県内に周知した。

1 中学校区における研究主題

「キャリアでつくる未来の自分 ～地域を知り、地域に学び、地域を愛する子どもたちをみんなで育てましょう～」

- 新治中学校の研究主題 「将来の生き方につながるキャリアの育成」
- 新治小学校の研究主題 「確かな学力を身に付け、たくましく生きる児童の育成」

2 キャリア教育推進のための組織

(1) キャリア教育地域推進協議会

① 構成員

- ・小学校評議員代表者1名 ・中学校評議員代表者1名 ・学校支援センター代表者1名
- ・各行政区代表者1名 ・小学校(校長、教頭、キャリア教育主任、研修主任)
- ・中学校(校長、教頭、キャリア教育主任、研修主任) ・みなかみ町教育委員会事務局2名

② 活動内容

- ・新治地域の特色を生かした系統的な体験学習を、小・中学校の発達段階に応じて構築した。
- ・目指す児童生徒像や体験活動のねらい等を共有した。

3 各学校の取組

(1) 新治小学校の取組

① 授業実践

- ・コミュニケーション活動を計画的に取り入れ、自己決定を促し、伝え合うための指導の工夫を通してコミュニケーション能力（人間関係形成・社会形成能力等）を培ってきた。

② 地域連携

- ・小学校3年生の総合的な学習の時間では、民話の語りを聞くなど民話の学習に対する関心意欲を高めた。
- ・小学校6年生の遠足では、地域で自然保護活動をされている方を講師に迎え、事前・事後学習を行った。また、遠足当日にも講師の方の説明を聞きながら自然観察を行ったり、地域の歴史について学んだりした。

(2) 新治中学校の取組

① 授業実践

- ・キャリア教育の視点を取り入れた実践、地域や小学校との連携を図った実践を計画的に取り入れた。

② 地域連携

- ・2年生が総合的な学習の時間の一環として行う5日間のチャレンジウィーク（職場体験）やボランティア活動を通して、地域の力を借りながら、生徒の社会的自立に向けて必要となる資質・能力（人間関係形成・社会形成能力等）を培ってきた。
- ・チャレンジウィークの事前学習として、地域の方を講師に地域のよさについての講演会を行った。事後学習では、チャレンジウィークのまとめを小学校6年生、中学校1年生、事業所の方、保護者を対象に発表した。その後、中学2年生、事業所の方、保護者、地域の方をパネラーに「働くこと」をテーマにパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションを踏まえて、中学2年生を進行役に中学校1年生、小学校6年生、保護者や事業所・地域の方でグループを編成し、異なる立場や異学年での意見交流を行った。

4 成果

- ・地域との連携による体験学習を通して、新治地区のよさを知り、地域を愛し大切に思う気持ちが高まった。
- ・地域での体験活動を通して、目的をもって主体的に学習に取り組む意識が高まった。
- ・キャリア教育地域推進協議会を通して、地域、小学校、中学校、家庭で連携し、共通理解を図ったことは、キャリア教育の視点を取り入れた授業改善や教育活動の充実につながった。
- ・地域と連携した教育活動をキャリア教育の全体計画や年間指導計画に位置付け実践することで、基礎的・汎用的能力の育成につながった。

<群馬県>（種別：学校）明和町立明和東小学校・明和町立明和西小学校・明和町立明和中学校

推薦理由

平成26年から平成28年まで、キャリア教育の指定校として、「課題対応能力」の育成に重点を置いた研究や授業を実践し、明和中学校区内の3小中学校が主体的に連携しながら、義務教育9年間を見通した指導の充実を図るとともに、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んだ。これらの研究内容や授業等の実践例は、群馬県のキャリア教育のモデルとして、キャリア教育ガイドブックに掲載し、県内に周知した。

1 中学校区における研究主題

「自分と社会をつなぎたくましく未来を切り拓くキャリア教育の推進～「課題対応能力」の高まりを見取る授業の工夫を通して～」

自ら課題を持ち、資料を活用して解決していこうとする力や課題に対して見通す力や将来を見通して行動しようとする力が不十分という実態を踏まえ、研究主題を設定した。

2 キャリア教育推進のための組織

(1) キャリア教育地域推進協議会

- ① 構成員：教育長・小中学校長（3名）・小中キャリア教育担当者代表・町PTA代表・明和町商工会代表・労使教育委員会代表・農業委員会代表・区長代表・ハローワーク館林代表・外部専門員・事務局（2名）
- ② 取組：家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、子供たちの家庭での生活、地域での活動の在り方を考え、キャリア発達を育む連携体制を確立するため、各分野の代表と事業推進の概要を共通理

解した。

(2) キャリア教育推進委員会議

- ① 構成員：教育長・小中学校長（3名）・小中キャリア教育代表（1名）・事務局（2名）
- ② 取組：先進校の視察や事業推進計画の立案を行った。

(3) キャリア教育学校間連絡会議

- ① 構成員：中心校校長（1名）・キャリア教育担当教頭（1名）・小中キャリア教育担当者（3名）・事務局（2名）
- ② 取組：キャリア教育担当者を中心に、実践内容の計画・立案、アンケートの実施と考察を行った。3校のキャリア教育推進の共通理解を図った。

(4) キャリア教育実行委員会

- ① 構成員：キャリア教育担当教頭（1名）・小中キャリア教育担当者（3名）・校内研修主任（2名：1名キャリア教育担当者兼務）・事務局（2名）
- ② 取組：キャリア教育実行委員会を「指導計画班（各校キャリア教育主任）」と「授業構想班（各校研修主任）」の2つの班に分けた。

ア 指導計画班

- ・児童生徒の実態、保護者や地域の願いを踏まえ、各学年の目標、各教科・領域の目標や内容などを関連付けたキャリア教育全体計画の作成を行った。
- ・「基礎的・汎用的能力」の4能力の視点から、各学校の各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び行事等の教育活動の中にあるキャリア教育の断片（宝）を洗い出した。また、それらを関連づけ、つなげ、小中間で系統性をもたせた年間指導計画を作成した。
- ・「課題対応能力」に関わる単元等については、太字で示した。
- ・町全体としての全体計画や教育系統図を作成し、町の教職員が共通理解をもって系統的な指導が図れるようにした。

イ 授業構想班

- ・各教科指導において、各教科における課題対応能力を具体化し、情報活用等の能力を育てる課題解決型の授業づくりを行った。
- ・キャリア教育との関わりが深い活動や指導上の留意点を明記した指導案の形式を作成した。
- ・単元構想シート、ワークシートなどから児童生徒の変容を見取り、全体計画、年間指導計画をPDCAサイクルで点検した。
- ・キャリア教育の視点に立った授業の実践を行った。

3 「課題対応能力」の育成に重点を置いた各学校の授業実践例

(1) 明和東小学校 4年国語：「スポーツリーフレット」を作ろう

自分の選んだスポーツ選手のよさを下級生に伝えるために、リーフレットの文章を見直す場面でグループの友達と文章を読み合い、付箋紙を活用して自分の考えを相手に伝えたり友達の考えを取り入れたりすることで、より分かりやすい紹介文を書こうと主体的に取り組む「課題対応能力」を育成した。

(2) 明和西小学校 4年社会：伝統を受けつぐ「高崎市のだるまづくり」

単元全体の学習課題に対して、個人からグループ、全体へと互いの考えを交流し合いながら自分と異なる考え方や視点があることに気付き、そこから必要な情報を主体的に選択し、調べる手立てを考える活動を通して、課題に対して自ら取り組む児童の育成につなげた。

(3) 明和中学校 1年美術：生活を彩る文様

本題材では、誰がどのように使うかなどの目的と美しさを考えながら手ぬぐいに施すデザインを構想する活動を行った。目的を達成するために課題を分析し、解決の方法検討する活動を取り入れ課題対応能力の育成につなげた。

4 成果

- ・キャリア教育に関する内容が話題に上がるなど、教師の意識が変わりつつある。研究授業以外の普段の授業でも、グループワークやタブレットPCを活用し、「課題対応能力」の向上に努める教師が増えており、授業改善につながった。
- ・全体計画や年間指導計画を見直し、系統的に整理することにより、「基礎的・汎用的能力」を身に付ける重点

単元を明らかにすることができた。また、各教科の「課題対応力」が具体的に設定され、児童生徒の計画性、主体性が高まった。

- ・単元構想シート等により、児童生徒は学習課題に対して課題解決への見通しをもって、計画的に進めることができるようになってきた。
- ・児童生徒の学習意欲が向上し、「今の学習が自分の将来につながっていく」という意識が芽生え、主体的に行動する姿が多く見られるようになった。

＜群馬県＞（種別：学校）渋川市立渋川南小学校・渋川市立豊秋小学校・渋川市立渋川中学校

推薦理由

平成26年から平成28年まで、キャリア教育の指定校として、行事等を通じた学校間や児童生徒のつながりを生かした教育活動を実践し、渋川中学校区内の3小中学校が主体的に連携しながら義務教育9年間を見通した指導の充実を図るとともに、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んだ。これらの研究内容や授業等の実践例は、群馬県のキャリア教育のモデルとして、キャリア教育ガイドブックに掲載し、県内に周知した。

1 中学校区における研究主題

「主体的に学び活動し、夢に向かって努力する子の育成 ～つながりを大切にした教育活動を通して～」

- ・夢や希望を思い描いたり、語ったりする児童生徒が少ないという実態を踏まえ、本主題を設定した。
- ・発達段階や家庭・地域とのつながりを大切にした指導を計画的に行うことで本主題に迫れると考え、副主題を設定した。

2 キャリア教育推進のための組織

(1) 担当者会議

- ① 構成員：各学校の研修主任
- ② 取組：3校の研究及び実践上の課題等を情報共有したり、研究の方向性を協議したりした。

(2) 学校間連絡会議

- ① 構成員：各学校の校長・教頭・研修主任・教務主任・各部長・渋川市教委等
- ② 取組：3校の課題や研究の取組について協議し、研究の方向性を決定した。

(3) 地域推進協議会

- ① 構成員：各学校の校長・教頭・研修主任・PTA代表・自治会長・公民館長・商工会代表・地域の企業者
- ② 取組：目指す子供の姿を共有するとともに、学校・家庭・地域・事業所間で連携できることについて協議した。

(4) キャリア教育推進部会

- ① 構成員：3校全ての教員
- ② 取組：9年間を見通した指導の充実を図るために、小中連携部会、授業研究部会、体験活動部会を設置し、全教職員がいずれかの部会に所属し、研究に取り組んだ。

ア 小中連携部会

- ・生徒指導面での連携、行事での交流活動、統一テーマでの学校保健委員会の開催、特別支援学級の交流などを行った。
- ・中学生の職場体験学習では、小学生が将来の職業や夢について考える機会となるよう、小学校に訪れた中学生が中学校の様子を話す機会を設定した。

イ 授業研究部会

- ・授業研究部のテーマ「一人一人が意見をもち、検討場面におけるコミュニケーション能力を高める授業の創造」に沿った授業改善、合同授業研究会を行った。
- ・学習や児童・生徒のつながりの視点で教育活動を見直し、各学校のキャリア教育年間指導計画を改善した。

ウ 体験活動部会

- ・児童生徒の実態把握のためのアンケートを作成し、調査及び分析を行った。
- ・義務教育9年間を見通した系統性のある指導ができるよう、「体験活動プログラム」と「まなびのつ

ながり」を作成した。

3 各学校の取組

(1) 渋川南小学校の取組

① キャリア教育の視点を意識した日常の取組

朝の会や帰りの会、係活動などの日常の取組をキャリア教育の視点で見直し、意図的・計画的な働きかけを通して、キャリア教育で育みたい能力や態度を育成した。

② 9年間のつながりを意識した取組

異学年交流や小中の交流活動など9年間のつながりを意識した教育活動を工夫することで、キャリア教育の能力・態度を育成した。

③ 授業実践を通じた取組

「一人一人が意見をもち、検討場面におけるコミュニケーション能力を高める」「職業観・勤労観を育む」「つながりを大切にする」の3つの視点における授業を実践した。

(2) 豊秋小学校の取組

① キャリア教育で培う力と各発達段階で目指す能力・態度

キャリア教育で培う能力は、児童、教師、家庭・地域が共通言語で語るができるようにキーワードで表現した。

② キャリア教育年間指導計画の作成の視点

育成したい能力・態度の要素を含んだ教育活動の中から、特に重点を置く学習活動を洗い出し、色を付けて示した。

③ キャリア教育の観点

学習指導案に「キャリア教育の観点」「キャリア教育の視点から見た培われる能力・態度」を示した。

(3) 渋川中学校の取組

① キャリア教育年間指導計画

渋川中学校区内の小中学校合同研修会を通して、キャリア教育や小中連携について共通理解を図った。また、基礎的・汎用的能力を伸ばすことができる学習を洗い出し、体系化した。教科を横断した指導ができるように、他教科の学習内容との関連を分かりやすく示した。

② キャリア教育年間指導計画に基づいた授業実践

コミュニケーション能力にかかわる人間関係・社会形成能力に重点を置いて、公開授業を行った。職場体験学習をキャリア教育の中核となる活動と捉え、1年生から計画的に学習できるようにし、事後の学習では自分の将来を考えていく活動を取り入れた。

③ その他の取組

卒業生を講師に招き、仕事に対する思いや考えを伝えてもらう講演会「渋中ハローワーク」を実施した。(平成28年度は、14回実施)

地域推進協議会において、商工会議所の方々と職場体験学習のねらいを共有することができ、受入可能な事業所を増加することができた。

4 成果

- ・小中学校の「学習のつながり」を意識し、「コミュニケーション能力の育成」に重点をおいて、授業改善を図ってきた結果、自分の考えや思いを自分の言葉で表現し、主体的に学ぶ児童生徒の姿が多く見られるようになった。各学校で行ったアンケートの結果からも、人間関係形成・社会形成能力における評価数値の向上が見られた。
- ・「体験活動プログラム」「まなびのつながり」に基づいて、地域の方々との交流を通じた体験活動を重ねてきたことで、児童生徒は働くことの意義ややりがい、喜びや苦労等、様々なことを学び、自分の将来を真剣に考える姿が見られた。
- ・各校の実態と目指す姿に基づき、教育活動や既存の組織をキャリア教育の視点で見直したことにより、系統的・横断的にキャリア教育を進める体制を整えることができた。
- ・地域連携協議会を開催し、地域の方々と目指す子供の姿を共有したり、連携して取り組めることについて協議したりすることで、子供のキャリア発達を支援する基盤ができた。
- ・教師の授業づくりに対する教材研究や、発問、学校生活の中での児童生徒への意図的言葉がけなどについて、

変容が見られた。9年間の発達段階で目指す能力や態度を明らかにし、児童生徒の「生活、成長のつながり」を大切にしてきたことの成果であり、教師のキャリア教育に対する意識の向上につながった。

<千葉県> (種別：学校) 千葉県立松尾高等学校

推薦理由

観点①について

1 学校教育目標への位置付け

学校教育目標のひとつとして「勤労を尊び、社会に貢献できる人を育てる」を掲げ、教職員は、3年間を通して計画的に取り組むこと、生涯にわたって学び続けられる生徒を育成することを意識しながらキャリア教育に取り組んでいる。

具体的には、「総合的な学習の時間」の中で、学年毎にテーマを設定し、そのテーマに迫るための活動については、地域の人材を中心に多くの外部人材を活用するなど、地域・関係機関等との連携を重視した取組が行われている。

1学年テーマ：「自分を知る・社会を知る」

2学年テーマ：「社会とのつながりを考える」

3学年テーマ：「将来像を描く」

2 インターンシップの重視（1学年全員参加、2・3学年希望制）

「働くことは全ての人々の福祉に関わるものである」という考えのもと、1学年段階で地域の仕事や働く人の姿を捉えさせ、早い段階から職業的な自立の意識をもたせるとともに、福祉への関心も高めさせるため1学年は全生徒がインターンシップを実施している。希望制で実施している2・3学年のインターンシップでは、特に3学年の就職希望者において、4～5日間の長期間にわたって取り組む生徒もおり、着実に職業的な自立意識の育ちがみられる。

3 職業的自立の意識化（ディベートの活用）

正社員とフリーターの立場に別れてディベートを実施し、生徒たちに働くことの意味や仕事の価値を認識させている。その結果、就職希望者は、全員正社員として就職先を決めている。また、卒業後の離職率も低く、求人した企業からも高い評価を得ている。

観点③について

○ 市長への提言（地元自治体との連携）

1学年時に市内フィールドワークを通して、地元の抱える課題を捉えさせ、高校生の視点で市長に対し、提言を行っている。提言の内容を高めるために、市教育委員会が行っている「まちづくり出前講座」を活用し、市の職員から都市計画や地域福祉計画等々の説明を聞く機会も設定されている。市に提言するまでに学級学年でプレゼンテーションを重ね選抜された4グループが市長に提言を行った。

提言1 「今のわたしたちになにができる ～お年寄りの笑顔のために～」

提言2 「認知症高齢者の住みやすい街へ」

提言3 「交流会を活性化するためには ～地域の人々との交流～」

提言4 「高齢者が生活しやすい環境」

提言後の市職員との質疑応答や市長からの講評は、生徒自身の自己肯定感を高める取組になっている。

以上、社会的・職業的な自立に向けて、計画的にキャリア教育を行う学校体制や、地域課題の解決に向けた取組を通して地元理解や地元への愛着を育んでいる実績等を評価し、優良学校として推薦する。

<東京都> (種別：教育委員会) 荒川区教育委員会

推薦理由

以下の特徴を生かした職場体験事業を実施することで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成に多大なる功績をあげていることから、本表彰に推薦する。

1 職場体験の取組を、小学校と中学校を通じて系統立てて実施している。

小学校においては、「地域社会体験学習」を全小学校で実施している。期間は1～3日間で、地域の商店や

公共施設等で職場体験を行う。この取組が、子供たちと地域とのつながりを構築するきっかけとなっている。また、この「地域社会体験学習」は希望する中学校においても実施しており、中学2年生で実施する「勤労留学」以外に、様々な職業を体験する機会となっている。

2 中学校での勤労留学（職場体験学習）

中学校では、小学校の「地域社会体験学習」を基盤として「勤労留学（職場体験学習）」を行っている。対象は中学2年生で、期間は5日間である。「勤労留学」は、以下の3つのねらいを掲げ、成果を上げている。

- (1) 職業に対する興味・関心を高め、業種の内容や働くことの楽しさと厳しさを学ぶ。
- (2) 自己理解を深めるとともに、進路に対する意識を高め、職業に就くためにどのようなことが必要かを学ぶ。
- (3) 社会の規律やマナーの大切さを学ぶ。

この「勤労留学」の取組は、平成19年度から始まり、今年度で10年目を迎えている。この取組が、学校においては教育活動の見直し、教員の意識改革、生徒の多様な個性の理解及び地域や事業所などへの理解につながっている。また、受入事業所にとっては、次世代を担う人材の育成、社会的役割の具現化、企業価値の向上、職場の活性化と社員への教育につながっている一方、地域にとっては、「地域の活性化」、「地域が一体となった子供たちの育成」、「子供の新たな一面の発見」につなげることができている。学校・受け入れ事業所・地域のそれぞれにとって意義のある取組として定着してきている。このように、「勤労留学（職場体験学習）」を基に、生徒の自己を理解し発見できる力の向上、学校の習慣と職業についての理解の深まり、学習に対する意欲の向上、異世代とのコミュニケーション能力の向上といった成果を上げることができている。

3 中学校における校内ハローワークの実施

中学校では、校内ハローワークと称して様々な業種の方を招いている。生徒は、希望する業種の方のブースで話を聞く。それぞれのブースにおいて、様々な業種で行われている作業を実演していただくことで、職業について考える機会としている。（荒川区立第一中学校では、30業種の方を講師として招いた。）

4 キャリア教育の普及活動

荒川区立第三中学校の清水校長は全国中学校進路指導連絡協議会元会長であり、区内小・中学校だけでなく、全国においてもキャリア教育の充実を図るために各講演会での講師を受けて、キャリア教育の普及に努めている。また、本年は、韓国にも行き、第12回ARACD韓国大会（キャリア教育国際会議）の発表者として参加し、日本のキャリア教育についての現状報告をしてきている。

<東京都>（種別：学校）江戸川区立松江第四中学校

推薦理由

以下の特徴を生かした職場体験事業（チャレンジ・ザ・ドリーム）を実施することで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な、基盤となる能力や態度の育成に多大なる功績をあげていることから、本表彰に推薦する。

1 校内委員会の充実

管理職を含むチャレンジ・ザ・ドリーム校内推進委員会を立ち上げ、実施計画の作成及び受け入れ事業所との調整、次年度に向けての改善について、担当学年に関わらず、常に組織として対応できる体制をとっている。校内委員会では、チャレンジ・ザ・ドリームにおいて、生徒が習得する社会的自立に向けた能力や態度についての指導方法改善について、各教科の垣根を越え行っていくことについて力を入れている。

2 探究的な学びの工夫

チャレンジ・ザ・ドリームにおいて、生徒一人一人が自己の課題を設定し、解決するといった学びをコーディネートしている。また、この学びを充実させるための取組として、区独自の「読書科」の時間において、全生徒にキャリア教育に関わる卒業研究を行わせるなど探究的な学びの推進が横断的、縦断的に各教科等全体を通してなされている。

3 職場体験に向けた事前学習の充実

学年集会（2年生）による職場体験についての概要説明の後、江戸川区教育委員会作成のワークシートを活用し、現在の自身を振り返りながら職業について学ぶ活動をおこなっている。この事前学習では、自分の進路について真剣に考え、職場体験において、夢の実現に向けて努力する意志をもたせることを意識し指導を行っている。

4 ハローワークとの連携

ハローワーク職員を招聘し、生徒への職場体験を行う上での心構えやマナー指導等に加え、働くことについての助言をもらうことで、事業所の顧客に対する思いを理解し、さらには働くことについての意識を高めたうえで体験を行うことができている。

<東京都> (種別：学校) 立川市立立川第五中学校

推薦理由

以下の特徴を生かした職場体験事業を実施することで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な、基盤となる能力や態度の育成に多大なる功績をあげていることから、本表彰に推薦する。

① 地域を基盤とした公立学校として、地域組織・事業所等の指導力を導入し、多様なネットワークの中で生涯に渡り喜びをもって活動し学び続けられる生徒の育成に向け指導の工夫・実践を重ねている。

立川市民科「砂川楽」を通して、1年では、小集団で地域固有の文化を地域の方々から学んでいる。2年では、被災時を想定した救急救命講習を地元消防署員・日赤スタッフ等の方々から受講している。3年では、地域自治会長、地元消防出張所・消防団員、消防婦人の会、赤十字奉仕団の方々より、有事の際に各自治会の町民が活躍しなければならない事項と救急法の総括を行っている。このように、3年間を通して、地域との連携の必要性、地域貢献への意欲作り、地域自治会等との協働の価値の自覚を追求し、組織的・系統的に多様な人との交流からキャリアについて考える活動を行っている。

また、立川市民科の推進に当たり、学校支援地域本部コーディネーターを通じた支援組織作り、PTAのOBを交えた支援人材・事業所等データベース作成、地域諸活動(行事、祭礼等)へのボランティア生徒派遣の組織作りを行っている。このような体制を整えることで、職場体験学習活動を円滑に進めることができている。

② 生き方指導として、発達段階に即し「自己理解」「多様な職業への関心の啓発」「職を学ぶ為の系統立てたコースウェア作り」「5日間の職場体験学習活動を充実させる長期的な指導の工夫」等を計画的に実施し、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

1年で、自己の適性を知る取組を開始し、多様な職業に求められる適性や技能を学ぶ為「身近な人物の職業調べ」「専修・専門学校体験入学」を実施。2年で、小集団による「5日間の職場体験学習活動」を充実させるため、1学期・夏季休業中・2学期に渡る事前・挙行・事後学習を計画・実施している。

<東京都> (種別：学校) 東京都立農芸高等学校

推薦理由

目指す学校像を「農業・食料・環境に関する教育を通じて、地域社会に貢献する」と位置付け、専門的技術と科学的態度を身に付けた明るい社会づくりに貢献できる人材の育成に取り組んだ。

(1) 理数研究校 (平成 27、28、29 年度)

- 「科学の祭典」にて色素分析について発表
- 課題研究発表会にて酵母の働きなどを発表

(2) 土曜日の教育支援体制等構築事業 (平成 28、29 年度)

- 小・中学生向けに馬術体験講座やバイオテクノロジー講座を開講

(3) 進路指導の充実

- 夏季休業日を活用したインターンシップを推進
- 面接指導、資格取得指導を推進し、土曜・休日に 38 講座を開催
- 資格検定合格率が 86%と、前年度から 16.4%向上 (平成 28 年度末)

(4) 特色ある学校設定教科・科目の設置

- 「国際農業」では農業をグローバルな視点で捉え、食料問題やTPPなどについて理解を深めた

(5) 総合的な学習の時間や特別活動、部活動において、以下のような実績を上げ、生徒の幅広いキャリア形成に取り組んだ。

- 東京都建設系高校生作品コンペティション 2015 会長賞 (平成 27 年度)
- 「情報通信の安全安心利用のための標語」佳作入賞 (平成 27 年度)

- 第27回全日本高等学校馬術選手権大会優勝（平成28年度：馬術部）
- 第44回毎日農業記録賞優良賞受賞（平成28年度）
- 第8回全国農業関係高等学校エッセイコンテスト優秀賞（平成28年度）
- 第8回世田谷スイーツ&ブレッド・コンテスト特別賞（平成28年度）
- 第67回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会優秀賞（平成28年度）
- 継続的な地域との交流活動や社会貢献活動
 - ・馬とのふれあい、花の植え替え体験
 - ・地元商店街での生産物販売
 - ・保育所児童との芋掘り交流会
 - ・都民広場の花壇製作
 - ・杉並チャリティーウォークへのボランティア参加（定時制）

<東京都>（種別：学校）学校法人豊昭学園 昭和鉄道高等学校

推薦理由

当該校では、①「LHRや各種講演を通じた職業観の育成」②「挨拶・マナー指導」③「インターンシップ」④「工場見学実習」の4つを主な柱として、キャリア教育に取り組んでいる。

そもそも、当該校は入学生の9割以上が鉄道企業やその関連企業に就職することを希望する高等学校であり、キャリア教育は当該校の教育においても特に重要視している。

特に職業観の育成は、生徒の多くが18歳で職業に就く本校においては、重要な柱である。そのため、3年間を通じたLHRを、本校が独自で作成した「進路の手引き」を用いて系統的に行い、主に鉄道に関わる職種について、その職業に必要な資質や能力、またその環境ややりがいなどを確かに理解するとともに、自分自身をよりよく理解し、自身の適性をしっかりと見定めた上で、より自分に合った職業選択ができるように取り組んでいる。また、それらを促進する目的として、1年次には、自分の身近な職業についての考察を深める課題や鉄道企業に勤める社会人による講演会、2年次には様々な職業の経験者を招いた講演会や、内定を頂いた3年生との交流会などを行っている。

そして、それらの指導をさらに効果的にするものとして、本校では全生徒を対象に、鉄道企業を始め、一般企業や大学を受け入れ先としたインターンシップを2学年次に導入している。その際、「働くこと」についてグループディスカッションを行うとともに、鉄道員の社会の中での位置づけを考えることで、職業観を深める事前指導を行っている。また、インターンシップ中は全員が日誌を付け、それを基にしながら、その後の企業研究につなげる指導を行っている。

また、これも全生徒を対象に、主に鉄道企業の車両整備工場や部品製造工場の見学実習を同じく2学年次に導入している。事前指導として、実習前に鉄道企業やその関連企業の技術系統の職種について、本校の教員が全生徒にガイダンスを行うとともに、鉄道企業における技術系統の職種の役割ややりがいについてグループディスカッションを通して考えを深めている。

そして、適切な職業観の育成・自己理解の促進をはかるとともに、社会の中で必要な言葉遣いや対人マナーを身につけ、生徒本人がより社会の中で適切な関係を保てるように、本校ではマナー指導にも力を入れている。1年次より、社会人の基礎となる行動や態度を「スタンダード」として学内で徹底させるとともに、2年次より「ホスピタリティーマインド」の授業を導入し、各種ビジネスシーンにおける行動マナーについて、全生徒が学習している。

<東京都>（種別：学校）学校法人明昭学園 岩倉高等学校

推薦理由

キャリア教育の一環として鉄道企業において「鉄道実習」を実施している。当該校ではインターンシップ授業と位置付けており、将来、鉄道会社への就職を希望している生徒や、企業でのインターンシップを希望する生徒を対象に、鉄道各社で駅業務全般を体験させる。

1. 内容・目的

改札・旅客案内業務を中心に、トレーニングセンターでの体験教習や、線路や電気設備の保全部署の見学などを行う。多くのお客様が利用する駅にて旅客案内等を通じて、駅業務や鉄道業務全般について、学内の授業で学んだ理論的な知識を実際の現場で体験学習することができる。また、この実習により生徒自身のコミュニケーション力を高めることも目的としており、今後社会人になるに当たっての円滑な人間関係の構築、人格の形成に役立っている。

2. 単位認定・評価

鉄道実習は学校設定科目とし、卒業認定単位に含める選択希望科目としている。認定単位は1単位とし、事前指導・インターンシップ(5日前後)・事後指導等を含む35時間で実施している。評価方法は5段階評価とし、教員による駅巡回、実習駅からの報告、生徒からの報告書にて総合的に判定している。

3. 協力企業

東日本旅客鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)、東武鉄道(株)、東京地下鉄(株)、小田急電鉄(株)、京王電鉄(株)である。企業と学校間にて協議を行い、検証および改善して次年度のインターンシップに生かしている。

4. 参加人数

今年度は170名の生徒が参加する。

<東京都> (種別：学校) 東京都立府中けやきの森学園

推薦理由

【取組の概要】

当該校は、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門を併置する特別支援学校である。

都教育委員会は、平成27・28年度に本校を「都立特別支援学校の職業教育・キャリア教育の研究・開発事業」の研究校として指定した。

当該校は、研究校として外部専門家から助言を受けるとともに、知的障害教育部門におけるキャリア教育の実績を生かし、肢体不自由教育部門の教育改善に取組んできた。肢体不自由のある生徒の「自立と社会参加」の実現と将来の「働く生活」の充実に向け、作業学習等を通して生徒の働く意欲の向上とそれぞれの職場で求められる能力の育成に成果を上げた。

また、当該校は、全国公開授業研究会等で以下の取組を発信し、都立特別支援学校のキャリア教育推進を牽引している。

【肢体不自由教育部門における具体的な取組】

- 一人一人の作業能力等をも高める作業工程の工夫
作業工程の分析を精密に行うとともに、生徒一人一人の作業能力等を把握することで、各生徒に作業能力等をより高められる工程を任せられるようになった。
- 外部専門家と連携した補助具の開発
作業療法士等の助言を基に、開発した個に応じた補助具を生徒が使用することで、介助を受けずに作業に取組めるようになった。
- 意欲等をも高める環境作りの工夫
教室内を可動式パーティションで区切り、作業工程の順に作業場所を配置することで、生徒が自分の役割を理解して作業に取組めるようになった。
また、製品作りの数値目標や出来高の推移を確認しやすく表示することで、生徒が見通しをもち、意欲的に作業に取組めるようになった。

<神奈川県> (種別：教育委員会) 川崎市教育委員会

推薦理由

当該教育委員会は、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策I「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の施策の1として「キャリア在り方生き方教育の推進」を位置づけ、積極的にキャリア教育を推進している。

- ・当該教育委員会では、「キャリア在り方生き方教育」の意義やねらい、各教科等との関連、具体的な進め方等を説明した「キャリア在り方生き方教育の手引き」を作成し、全教職員に配布するとともに、児童生徒が自分自身の成長を振り返り、今の自分と将来の自分をつなげていくための児童生徒用の「キャリア在り方生き方ノート」4分冊（小1・2年生用、3・4年生用、5・6・中1年生用、2・3年生用）を作成し、全児童生徒に配布している。
- ・平成28年度に、市立の小学校・中学校・高等学校にキャリア教育全体計画の作成を求め、現在178校、全ての学校でキャリア教育全体計画が作成されている。また、教職員の理解の促進を図るために、全校のキャリア教育担当者を対象として年3回の研修、初任者、10年経験者を対象とした研修を行っている。
- ・保護者と連携し推進するために、「保護者啓発用リーフレット」を作成し、全保護者に配布している。各学校において、学校説明会、報告会等で活用されている。
- ・「キャリア在り方生き方教育研究推進校」を設け、各研究推進校には、学校や地域の実態に合ったキャリア在り方生き方教育に取り組んでもらい、その取組を研修会で紹介したり、リーフレットに掲載したりするなどして、研究成果を広く普及できるようにしている。
- ・「キャリア在り方生き方教育」についての校内研修や研究推進校を含め、校内授業研究に指導主事を派遣し、指導助言を行っている。

＜神奈川県＞（種別：学校）神奈川県立平塚農業高等学校初声分校

推薦理由

当該校の園芸科学科では、2年生の学校設定科目「プロジェクト実践」、3年生の科目「課題研究」の授業の中で、2年生の後半の半年間及び3年生の1年間、毎週木曜日の1日企業等において実習を行っている。実習先の開拓は生徒自身が行い、教員が定期的に巡回指導を行うとともに、生徒は実習の成果を日誌やレポート、発表会等を通じて報告している。

1年半にわたり長期の現場実習を行う中で、企業等において、日頃学習している専門教科の学習をさらに深化させるとともに、長期間にわたって実際に職業を体験することで、将来の進路選択を考える機会となっており、効果的なキャリア教育が実践されている。

＜神奈川県＞（種別：団体）一般社団法人 神奈川県ビルメンテナンス協会

推薦理由

＜清掃技法研修会の実施＞

当該団体と神奈川県教育委員会は連携した取組として、平成14年度より清掃業務への就労支援の一助となるよう清掃技法の研修会を県立特別支援学校の生徒及び教員に対して実施してきた。

＜清掃技能検定の実施＞

平成26年度より障害のある生徒が自立した社会生活を送るために、基本的な清掃の技能や知識を身に付け、目的意識を持って取組む姿勢等を育てるとともに、県立特別支援学校における職業教育の充実を図ることを目的とした神奈川県立特別支援学校清掃技能検定を実施しており、審査員の養成研修実施時の指導・助言、また、検定時に審査員への助言等アドバイザーとして参加協力してもらっている。

＜県教育委員会と協定＞

平成27年度より、当該団体と神奈川県教育委員会とで協定を締結し、連携等について強化してきた。その取組の中で、当該団体の会員企業への体験実習等も実施してきた。

このように、15年に渡り県立特別支援学校におけるキャリア教育の推進に尽力していただくと共に、清掃を通して働くための知識・技能の習得に積極的に行っていることから推薦する。

＜新潟県＞（種別：教育委員会）湯沢町教育委員会

推薦理由

- ・平成24年度から湯沢町の5小学校、5保育園を統合し、湯沢中学校と統合する保小中一貫教育校「湯沢学園」

の開園に向け、観光立町である湯沢町の「おもてなしの心」を軸とするキャリア教育を町内全小中学校で実践するとともに、各校の地域に根ざした活動を統合し「オール湯沢」で進める小中学校9年間の教育プログラム作りを推進してきた。

- ・全町内に貢献する「湯沢っ子絆活動」、地域を盛り上げる「三俣祭り応援隊」、「越後湯沢秋桜ハーフマラソン全力応援プロジェクト」等の各種イベントのボランティア活動、湯沢をより深く知る「旧三国街道を歩く湯沢町歴史探訪」などを開発・実践するとともに、「湯沢町観光ボランティア」を最終目標とする地域学習、表現活動を体系的に整備した。
- ・平成26年4月に開校した湯沢学園では、小中キャリア教育担当教諭と学校支援コーディネーターによる運営体制を構築するとともに、湯沢町の商工会、観光協会、温泉組合、ライオンズクラブ、町産業観光部、教育委員会らと湯沢町キャリア教育推進連絡会を開催し、学校と事業所でキャリア教育の意義を共通理解し、児童生徒の受け入れを積極的に進めてもらうとともに、新しい活動の開発、地域や家庭への啓発に努めている。
- ・平成28年度から県の実施する「未来への扉を開くキャリア教育推進事業」に取り組み、開校以来3年間継続研究を進めてきた「オール湯沢」のキャリア教育を「おもてなしの心を学ぶ湯沢学園のキャリア教育」(リーフレット)にまとめ、町内の全家庭、全事業所に配布し、理解と協力の強化と活動の充実を進めている。
このような取組を重ね、着実なキャリア教育の推進に努めていることから、当該教育委員会をキャリア教育優良教育委員会として推薦する。

<新潟県> (種別：学校) 佐渡市立金井小学校

推薦理由

佐渡市は、郷土への愛着をもたせ、自ら未来を拓く独自のキャリア教育を推進している。当該校は、佐渡の中央に位置し、学区にある豊かな地域素材を生かしながら佐渡の自然・歴史・文化への理解を深める学習に取り組んできた。さらに、学校と家庭、地域が連携し様々な職業に対する興味を引き出し、キャリアプランニング能力を育成するキャリア教育にも積極的に取り組んだ。

1 キャリア教育の全体計画の見直し・実践

- ・県と佐渡市のキャリア教育のプランを自校化した、金井小学校キャリア教育計画を立案。「知る」→「体験する」→「描く」の3段階で児童一人一人が夢の創造に向かうように計画を立てる。また、職員研修を実施し、共通理解を図る。
- ・「知る」段階では、地域との連携・協働を実現する取組として、地域や保護者による職業語りを実施。Webクリエイター、無名異焼きの製陶業の方などから仕事のやりがいや、学校生活で身に付けて欲しいことを語ってもらう。
- ・「体験する」段階では、保護者の職場を見学する子ども参観日を実施。身近な大人の働く姿から、仕事や働くことへの興味・関心が高まった。保護者からも「どんな仕事か知ってもらえて良かった」「子どもと仕事について話し合えるよい機会となった」と好評だった。
- ・「描く」段階では、佐渡市教育委員会の作成した教材「みらい'sノート」を用い、夢づくりを行う。学習発表会では一人一人が夢を宣言した。さらに、実践のゴールとして作文にまとめる。児童が自分の成長や学びを振り返ることを通して、夢や決意を自信をもって表現することができた。

2 郷土への理解や愛着・誇りを育む活動

佐渡の自然・歴史・文化への理解を深める郷土学習「佐渡学」を中核とした体験的な郷土学習を行う。

- ・佐渡をPRする観光パンフレットを作成。修学旅行先で観光大使として活動。
- ・トキ学習(水生生物調査、ビオトープづくり、ポスターで発信)
金井小・中学校の児童生徒で取り組む国道脇花壇への花の苗植え

<新潟県> (種別：学校) 糸魚川市立糸魚川東中学校

推薦理由

1 職場体験活動・職場見学(子ども参観日)の充実

- ・郷土愛を軸としたキャリア教育の推進に向けて、平成28年度から職場体験活動を3日間から5日間に延伸し、子ども参観日を実施することとした。
- ・1年生は子ども参観日を実施した。保護者の協力を得て、平成28年度は95%、平成29年度は91%の生徒が実施できた。実施できなかった生徒は、家庭で保護者へのインタビューに代えた。身近な大人の姿から「働くこと」や「仕事・職業」、「地域・社会の役に立つこと」への意識が高まった。また、働いて家族を支える保護者に感謝の気持ちをもつ生徒の姿が多く見られた。
- ・2年生は夏季休業中に5日間の職場体験活動を実施した。受入事業所を拡充するために、地域コーディネーターとの連携を図った。その結果、受入事業所は平成28年度は23か所、平成29年度は35か所になった。5日間活動することで、生徒自身の自分の生き方を考える契機となった。また、保護者のアンケートから、職場体験活動の話をした家庭が平成28年度81%で、仕事・職業について家庭内での会話が aumentado ことがうかがえる。

糸魚川市教育委員会主催の職場体験活動に関する事業者等説明会が行われた。市内中学校を代表して当校3年生代表生徒が5日間で体験した様子や感想を発表した。さらに市教育委員会と連携して、事業所等に中学生の職場体験活動の必要性について理解を求め、受入事業所の拡充を進めた。

これらの取組により、今年度から、市内の全中学校でも5日間の職場体験活動を実施することになった。

2 社会貢献意欲を高め、地域への愛着を高めるジョブチャレンジ

(1) 地域の行事等への参画

- ・地区運動会に競技役員として参加した。
- ・地域興し行事の企画・準備に関わり、当日は補助役員として参加して、後片付け等も行った。
- ・学区縦断駅伝大会での計時、記録等の役員として参加した。
- ・下早川・新道地区子ども神輿の準備・補助活動、本祭りの実施に貢献した。

(2) 地域の美化運動、花壇の整備

- ・地域貢献活動として、年2回、全校生徒が地域の公民館や駅等の施設に出向き、清掃・草取り等の奉仕活動を実施した。
- ・地域の花壇の整備・管理をしている老人会の補助をボランティアとして実施。年4回、球根掘りや花の苗植え等の活動に協力した。
- ・(1)(2)の活動を通して、地域と学校との連携が進んだ。生徒の自己有用感が高まり、次の活動の意欲となった。

<新潟県> (種別：学校) 新潟県立柏崎工業高等学校

推薦理由

工業高校の特徴を生かし、大学や地域企業等と連携した防災・減災教育（防災・減災につながるものづくりや地域の企業と連携するインターンシップやデュアルシステム、災害ボランティア活動等）をとおして、キャリア教育を推進し、地域に貢献できる人材育成を目指している。

【具体的な取組】

○ 防災・減災教育につながるものづくりの研究

各科において、地域企業や大学等と連携し、次のような防災・減災につながるものづくりを行っている。

- ・転倒しにくい掃除用具掛けの製作（機械科）
- ・災害時の電力確保に役立つ小水力発電装置の研究（電気科）
- ・動物型ロボットの製作（電子機械科）
- ・バイオマス（ミドリムシ）の研究（工業化学科）

これらの取組は、平成28年度に総務省の「第21回防災まちづくり大賞」において、「消防庁長官賞」を受賞した。

○ インターンシップ・デュアルシステムの実施

平成28年度の実習受入事業所は60事業所を上回る。高校生インターンシップ等推進地域協議会を通して、地元産業界、商工会議所や同窓会等が連携を図り、地域をあげてキャリア教育を推進している。インターンシップ事業は17年続いており、多くの生徒は、地元就職し、地域に貢献したいと考えている。

○ 防災マインドの醸成

中越地域での2度の震災の経験から、防災マインドを醸成し、安心・安全なまちづくりに参画する助け合いやボランティア精神を育むため、PTAと連携し、東北の災害地へのボランティア活動を継続的に行っている。また、市が主催する地域イベントに参加し、防災士と連携を図り、ハザードマップの作製や総合防災訓練に参加するなど、地域を守り貢献しようとする意識を高めている。

<新潟県> (種別：団体) Good Job つばめ 実行委員会

推薦理由

○ 全中学校のキャリア教育を充実させる支援 (概要)

燕市は、平成18年に当時の燕市・吉田町・分水町の3市町村が合併し平成27年に市政10周年の節目を迎えた。平成27年度までの職場体験は、各中学校それぞれで取り組み、1校当たり平均1.4日間実施していた。

平成28年度から当該団体が組織され、広く事業所に働きかけが行われ、事業の周知と職場体験受入日数の延伸が実現された。平成29年度には職場体験を全中学校で5日間実施できるようになった。さらに、職業講話や学習発表会等の校内での学習にも積極的に関わり、「ふるさとへの愛着や誇りの醸成」と「自立して生きていく力の育成」に大きく寄与した。

○ 地域全体で幅広く組織された実行委員会

燕商工会議所、吉田商工会、分水商工会、公共職業安定所、燕・弥彦PTA連絡協議会、燕市小中学校長会、燕市中学校長会（市内5校）、燕市各課長で構成され、教育委員会が事務局を務めている。

○ 「職場体験受入事業所説明会」の開催

受入事業所の開拓や事業内容の理解を図るため、体験の趣旨説明や情報交流等を行う説明会開催を支援している。

○ 「職場体験活動の手引き」「リーフレット」の作成、配布

体験のポイントや活動例、記録などをまとめた冊子やリーフレットを作成し、事業所や家庭、地域へ配布し、活動の充実を図っている。

<富山県> (種別：学校) 富山市立新庄中学校

推薦理由

キャリア教育の核となる活動（平成24年度からの1学年の「職業人に学ぶ講座」、平成11年度からの2学年の「職場体験学習」、長年に渡って実施してきた「先輩に学ぶ講演会」等）を教育課程に位置付け、生徒のキャリア発達を計画的・系統的に促している。近年では、以前から引き継がれてきた各活動をキャリア教育の観点から見直し、学校職員以外の諸団体及び人材（PTA、後援会、同窓会、校区健全育成協議会、自治振興会、3名の大学教官アドバイザー等）と連携して効果を高めている。

<目標>

社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けた生徒を育てる。

<方法>

全教育活動を通して次の観点から3か年を見通し、一貫した計画に沿って全教師の共通理解の下に継続的に指導する。

- (1) 生徒の発達段階に応じた組織的、系統的なキャリア教育を指導計画に従って推進する。
- (2) 生徒が「基礎的・汎用的能力」を身に付けることができるような指導を工夫する。
- (3) 保護者や地域及び外部人材（大学等）と連携し、啓発的な体験活動を行うことで、生きることの意義を考えさせるとともに、将来に向かってたくましく生きるための夢と希望をもたせる。
- (4) 一人一人に応じて進路相談を進める。
- (5) 生徒のキャリア発達を多面的に捉える評価（事前・事後アンケートや尺度表）を工夫する。
 - 人間関係形成・社会形成能力・・・自他の理解能力、コミュニケーション能力
 - 自己理解・自己管理能力・・・主体的行動力、忍耐力
 - 課題対応能力・・・情報収集・探索能力、課題解決能力、計画実行能力

○キャリアプランニング能力・・・・・職業理解能力、役割把握・認識能力、選択能力

<学年の重点目標と主な活動>

- 第1学年は、「自分の適性に目を向け、将来の進路に対する関心を高める。」ことを目標とし、働く人から学ぶ「夢発見『13歳の自分探し』」をPTAの全面協力（PTAが主体となって企画・渉外・運営）を得て実施している。働く人の苦労や喜び等を知ること職業に就くことの意義を考え、望ましい勤労観を形成することを目指している。
- 第2学年は、「啓発的体験を通して自己理解を深め、将来の自己実現への意欲を高める。」ことを目標とし、1週間の職場体験学習「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施している。
準備段階での電話や挨拶のスキル学習や事後のまとめ等も含め、社会の一員としての資質（マナーやコミュニケーション等）の向上とともに勤労の意義を実感できる貴重な機会となっている。体験事業所を決める際には自治振興会や校区健全育成協議会を含め地域の多くの方々の協力を得ている。また、学校作成のアンケート以外に、大学と連携して事前・事後の独自アンケート（自律的学習動機尺度等）を実施することで、事前・事後学習の効果分析を行い、次年度の活動に生かすこととした。
- 第3学年は、「希望する進路を確認し、進路選択への意志を高め、将来の自己実現につなげる。」ことを目標とし、大学生との語らい「未来をつかめ『15歳からのステップ』」を実施している。大学教官の協力を得て年齢の近い大学生との語らいの場「未来トーク」を設定することで、近い将来設計への意欲を高め、その実現のための主体的な進路選択へとつないでいく。
このように、学校教員以外（PTA、地域諸団体、大学等）と連携し、新しいキャリア教育の視点に立って計画的・系統的な活動を展開することで、キャリア発達の基礎的・汎用的能力の育成に努めている。

<富山県>（種別：学校）富山県立滑川高等学校

推薦理由

普通科、商業科、薬業科、海洋科からなる総合制高校として、各学科の特徴を生かしながら、地元企業や自治体等と連携し地域課題の解決に積極的に取り組んでいる。

1 地域課題の解決に向けた取り組み

海洋科では、富山名産の「ますずし」に使われるサクラマス資源の増加を目指した飼育や、アマモやテングサなどの海洋植物を育てて地元の海に戻し、海を豊かにする実習に取り組んでいる。

また、滑川市内小中学校と幼稚園の給食に生徒が実習で加工した水産物を提供するとともに、小学校で「おさかな講座」を開催し、栄養豊富な魚食の普及や地産地消の推進に取り組んでいる。

商業科では、東京都内で商店街や地域資源の活用に関する調査を実施し、滑川市に地域の活性化を提言している。

2 模擬株式会社の設立と模擬店舗の出店体験

商業科では、模擬株式会社「滑商」を設立し、空き店舗を利用した販売実習を行っている。

3 新商品の開発体験

薬業科では、地元企業と共同で、富山県産の材料を用いたスキンケア商品を企画開発し、県内で試験販売した。

薬業科と海洋科が連携し、抗酸化作用がある赤い色素「アスタキサンチン」をサクラマスの餌に使用し、高付加価値のサクラマスの商品開発に取り組んでいる。また、サクラマスの飼育時に残った餌等を肥料の一部として活用して育てたバジルを使い、「サクラマスのバジルオイル漬け」缶詰を作り、販売している。

4 総合制高校の特徴を生かした取り組み

普通科、薬業科、商業科、海洋科からなる総合制高校の特徴を生かし、2年次の総合的な学習の時間に学科を横断する「滑高ゼミ」を開講し、大学の学問等との関連も意識しながら、幅広いテーマでの学習を行っている。

<富山県> (種別：学校) 富山県立八尾高等学校

推薦理由

地域文化を理解し、地域の発展に自ら貢献できる人材の育成を基本理念として、地域と連携した教育活動を教育課程に位置づけ、キャリア教育を推進している。

1 地域と連携したキャリア教育プログラムの実践

(1) 1年次の地域学習 (平成17年度～)

将来にわたって地域を担う心を育てることを目的に、八尾地域の巡検を通して、地域の課題やミッションを提言している。

(2) 2年次の八尾中核工業団地企業訪問 (平成22年度～)

八尾町工場協会及び八尾山田商工会からの全面的な支援の下、自分の進路希望に応じて企業を2社を訪問し、職業観を深めている。

(3) 八尾学園推進協議会 (事務局：八尾高校) の取組み (平成14年度～)

地域の幼稚園・保育所・小学校・中学校・高校が校種を越えて連携を図ることを目的として推進協議会を設置しており、「さわやか運動 (あいさつを中心とした交流活動)」や「ハートフルクリスマス (幼稚園・保育所の幼児、小学校1年生を招待し高校生が行うステージ発表)」を継続して実施している。

2 地域貢献活動による自己有用感の育成

(1) 福祉コース・家庭クラブによる地域連携

高齢化率の高い八尾地区の健康寿命を延ばすことを目的に、地元総合病院の指導を受け、地元高齢者になじみの深い「おわら」を生かした「おわら嚙下体操」を開発し、地域の福祉施設や地区敬老会で普及活動を継続している。

(2) 生徒会等によるボランティア活動

平成24年度からボランティアバンクを運営し、福祉施設等からのボランティア要請の情報を生徒に提供している。(平成28年度ボランティア参加者はのべ390名)

近隣小学校の「夏休みわくわくサマースクール」にボランティア部と吹奏楽部が学習チューターとして参加し、小学生に学習支援を行っている。

<石川県> (種別：学校) 石川県立小松工業高等学校

推薦理由

当校は、工業の専門高校として現在、機械科、電気科、建設科、材料化学科の4つの学科を有し、地元産業の発展に貢献できる意欲的な生徒の育成を目指し、昭和14年に創立された南加賀唯一の工業高校である。人材育成の一環として、企業連携、中高・高大連携等にも積極的に取り組み、実践的な工業技術、規範意識やマナーの醸成を図りながら、地域より信頼される工業の専門高校を目指し、心身ともにタフな人材育成に努めている。

【全学科によるインターンシップ・デュアルシステムの取組】

インターンシップに関しては、平成13年度より実施しており、今年度で17年目になる。全学科の第2学年の生徒全員が地元企業において、3日間実施し、勤労観や職業観を養い、自己のキャリア形成を考えさせる機会としている。また、デュアルシステムに関しては、平成19年度より導入し、機械科の3年生約20名からスタートした。平成27年度からは、機械科以外の電気科、建設科、材料化学科の3年生でも実施しており、全学科でデュアルシステムに取り組んでいる石川県唯一の工業高校である。

【外部人材を利用したキャリア教育の実施】

地元企業の方を外部講師として招き、各学年を3グループに分け、学期ごとに合計27回、「職業指導」と題して講義を依頼している。講義は、「社会に必要なマネジメント力 (自ら考えて、行動する人材)」等の演題で行われ、自作テキスト「社会人になるための心構え」も利用する。社会、企業が求める人材を理解し、キャリアデザインを行ない、高校生活さらに社会人生活に対する目的、目標の作成に取り組ませている。また、3年間を見据えたガイダンスブックの作成、工場見学も全学年で実施している。

【地域交流活動】

① 出前講座の実施

全科で近隣の小学校への出前授業を実施している。平成26年度より実施しており、今年度で4年目である。
機械科：ロボット教室（ボクシングロボット等）、電気科：楽しい電気のしくみ（コンデンサ等）、建設科：地図に親しむ（測量、地図の作成）、材料化学科：消しゴムをつくろう（薬品の使用）

② 中高連携「授業・施設見学会」

近隣中学校の3年生担任、進路指導主事等を対象に、授業・施設見学会を実施し、工業高校への理解を深める機会を設けている。

③ ボランティア活動（全校実施）

ボランティア活動も積極的に行われ、地元への理解・愛着・誇りを育んでいる。ボランティア遠足（全学年：道中及び目的地での美化活動）、わがまち美化ピカ隊（部活動：地域清掃及び美化活動）
以上のことから、当該校をキャリア教育優良校として推薦する。

<福井県>（種別：学校）坂井市立三国中学校

推薦理由

三国は、古く中世から港町として栄え、江戸時代には「北前船交易」において日本海側有数の中継基地として発展し、その中で町人文化や工芸技術をも開花させていった。戦災や地震の影響もほとんど受けず、当時の面影を色濃く残す町並みが残っている。その歴史と伝統ある三国湊町の魅力を生徒が再発見したり、課題等を改善したりする体験学習を通して、ふるさと三国のことを知り三国に誇りや愛着を持ち、将来地元へ貢献したいと思う意欲を育てる、ふるさと教育・キャリア教育を行っている。

3年前から区長会連合会長の協力を得て、三国の将来について区長会と語る会を設けている。今年度は、各学年代表生徒がキャリア学習の成果を発表した。また、地元で働ける仕事等についての情報提供を連合会に伝え、同連合会は受け皿となる雇用について行政と積極的に考えていく姿勢を示す。そこから生徒が新たな課題を持つことができている。

また、系統的にキャリア教育が行われており、1年生は地元で働く8名を講師として「職業講演会」を実施している。2年生は3日間地元で職場体験活動を実施し、職業・職場への理解と共に、地域の特色や社会の仕組みについて理解する活動を行っている。また、坂井地区キャリア教育推進協議会（地域企業、行政、教育委員会、中学校、高等学校の各関係者で構成）主催の「キャリア教育推進フォーラム」（毎年2月頃開催）へ生徒代表が参加し、地区内の中学校や高等学校のキャリア教育の成果を発表したり、意見交換会を行ったりしている。3年生は、地域の観光・特産品・魅力等についてリーフレットを作成し、修学旅行訪問先（東京）で配布し、PR活動を行っている。

さらに、三国サンセットビーチの海岸清掃を各学年（1年生は海水浴シーズン前、2年生はシーズン後、3年生は三国花火大会翌日）が行ったり、地域の祭りに積極的に参加したりするなどして地域貢献意識を高めている。

自校のアンケート調査では、地域が好きな生徒が約9割、地域の行事に積極的に参加しようと思う生徒が約8割、将来今の地域に住んでいたいと思う生徒が約8割を占める。このことから、地域への愛着が育まれていることが分かる。

<福井県>（種別：学校）福井県立坂井高等学校

推薦理由

当該校は、平成26年4月に再編された総合産業高校で、農業、工業、商業、家庭の大学科を有している。大半の生徒が地元の坂井地区から入学し、約6割の生徒が地元企業に就職している。地域産業界に貢献できる人材を育成するため、地域と連携したキャリア教育を推進している。

木曜日の7限目の「パワーアップタイム(PUT)」では、6限目のLHと連動させながら、キャリア教育講座を実施しており、各学年で多彩な取組を行っている。

2年生全員が地元企業で5日間のインターンシップを行っているほか、3年生希望者を対象にデュアルシステムを取り入れ、毎週水曜日に企業で終日、年間20日間の長期企業実習を行っている。

平成 27 年に設置した「坂井地区キャリア教育推進協議会」では、坂井地区の企業・行政・中学校・高等学校の共通理解の下、産・官・学が一体となった地域人材育成のプログラムづくりに取り組んでおり、当該校はその事務局校として毎年「キャリア教育推進フォーラム」を開催し、取組の成果を共有している。

放送部では、坂井市と連携して、地元で働くことの魅力を紹介したビデオを制作しており、これを教材とした出前授業を中学校で実施している。また、坂井市議会が主催する「1 日議会塾」「坂井市高校生議会」に参加し、地元への愛着や誇りを育んでいる。

各学科でも地域貢献活動を積極的に行っている。工業科の生徒が製作した「おもしろ乗物」を地域イベントで走らせるなど子供たちに大人気である。農業科では、地域の農産物を素材にした商品を開発し、地域イベント等で販売している。また、商業科では、外国人誘客を目指し、外国人の視点で坂井市の観光を考え、魅力を SNS で発信している。

このように、当該校は、地域と連携した教育活動を展開し、自分の進路の前向きな姿勢や地元を愛する心、地域産業界を担う自覚を育むキャリア教育を実践しているため推薦する。

<福井県> (種別：学校) 福井県立嶺南西特別支援学校

推薦理由

知的障害・肢体不自由・病弱を主障害とする児童生徒を対象とした総合的な特別支援学校である。平成 25 年度より『児童生徒一人ひとりのキャリア発達を促す授業づくり』を研究テーマに、小・中・高の各学部がキャリア教育の視点に立った指導支援の連携をとりながら、12 年間を見通した教育実践に取り組んでいる。

特徴的な取組として、キャリア教育の視点に立った作業学習を進めている。全ての作業学習において学校独自の技能検定制度である「名人検定制度」を取り入れ、生徒自らがスキルアップを図る授業内容を設定しており、名人になった生徒は他の生徒を教える役割も担っており、授業は真剣さと活気に満ち、全ての生徒に働く意欲が生まれている。このほか、指導内容や方法の一貫性を重視した「中学部・高等部合同作業学習」も行っている。中学部生徒は、高等部生徒の姿から作業の準備や手順、報告等のコミュニケーションスキル等を学び、中学部段階から働くことの意味や働くために必要な事柄を知ることができる授業となっている。また、生徒一人一人が「高く評価される質の高い製品を作りたい」という思いで作業学習に取り組んでおり、地域のショッピングセンター等での木工製品や陶器の販売のほか、学校行事等の際にふるまった地域特産品の鯖のへしこ等、質の高い作業製品に地域の方々からは好評を得ている。

就労支援の面では、生徒一人一人の進路実現に向けた指導を行うとともに、地域の自立支援協議会との連携の下、卒業後のアフターフォローを含めた就労支援体制づくりを進めている。

本年度は、明治図書出版より学校のキャリア教育に関する取組が書籍として発刊されたほか、福井県特別支援学校教育研究会の主管校として公開研究会を行い、特別支援学校以外にも小・中学校に対して、キャリア教育を取り入れた授業実践を示している。

これらの取組が、生徒一人一人のキャリア発達を促し、高等部卒業時の自立と社会参加に成果を上げていることから、キャリア教育を推進している当該校を推薦する。

<山梨県> (種別：学校) 山梨市立笛川中学校

推薦理由

当該校ではキャリア教育の視点から「地域の課題」に着目した取組を職場体験の一環とし、主体的に地域と連携する中で行っている。また、キャリア教育の全体計画、年間指導計画を基に 2 学年での 3 日間程度の職場体験を中心に、組織的・系統的にキャリア教育を推進し、年度末には PDCA サイクルに従い計画の見直しを図っている。

1 地域と連携した「地域課題解決への探究活動」への取組の概要

現在の地域の主要な産業である果樹(ぶどう)栽培の実体験をする中で、生徒自らが地域の産業やその歴史について理解することを通して愛着や誇りを育むとともに、少子高齢化、過疎化が元になって起きている地域の課題について、体験を通し感じ取り、考え、解決の方法を探究していくことを目指した教育活動を展開している。

2 地域の実態

当該校の校区は、平成 28 年度、少子化により、4 小学校が 1 つの小学校に統合された地域である。地域の主な産業は、50 年ほど前には養蚕が中心であったが、果樹（ぶどう）栽培に切り替わっており、「巨峰の里」として訪れる観光客も多い。

しかし、高齢化が進み、地域から離れていく若い人も増え、後継者不足の問題も深刻になっている。それとともに、耕作放棄地の増加による問題も持ち上がってきている。

3 具体的な取組

○ 職場体験と併せた農業体験

当該校では、平成 26 年度より農業も職業の一つとして捉える中で、地域が抱える問題に対し、生徒たちが正面からしっかりと受け止め、生徒たちなりに考えていってもらいたいと、職場体験の一環として、農業体験学習を行っている。

- ① ぶどう栽培の作業の一つである「かさかけ」「袋かけ」を 1 学年全員で行う。
- ② 事前学習としてぶどう栽培について、講師を招聘した学習会を行う。
- ③ 具体的な作業について自分たちで調べ学習を行うとともに、農家の方に質問したいことをまとめる。
- ④ 体験中に農家の方から、ぶどう栽培にいたる歴史や、栽培上の苦勞や工夫、将来の展望などを聞いたり、質問したりする。
- ⑤ 事後学習として学習したことをまとめると共に、学年内で発表してそれぞれの体験を共有する。
- ⑥ 発表に使ったものは廊下に掲示して、学校を訪れた人や保護者に発信する。こうした活動に取り組むこと自体も、地域への発信の一つとなっている。

○ 地域と連携しての耕作放棄地問題への取組

今年度から、耕作放棄地をリフレッシュしていく取組を山梨青年会議所や地域に住む大学の先生と連携して行っている。

- ① 耕作放棄地について学習する。
- ② 耕作放棄地に大豆を植え育て、畑の再生を行う。
- ③ 栽培した大豆を加工し、味噌やきな粉などの加工品とする予定。

○ 1 学年の職場体験を生かした 2 学年における複数日の職場体験の実施

職場体験では、地域の産業に目を向けさせることで地域を知り、ひいては、地域に愛着が持てるようにすることを目的としている。具体的には、企業等と連携することで地域の子供たちを知ってもらい、ともに子供たちを育てていくこと、また、過疎化が進む地域に、何らかの形で関わりが持てたり、貢献できたりする人材の育成をねらいとしている。そのため、受け入れ事業所については、例年保護者の協力を得ながら依頼し、できるだけ市内の飲食店、警察署、消防署、ホテル、工房、交通や医療機関など 10 か所程度の事業所で職場体験を行っている。

<長野県> (種別：教育委員会) 坂城町教育委員会

推薦理由

平成 25 年度から 3 年間、キャリア教育を柱とした坂城町教育グランドデザインの基、町内の 4 つの小中学校をつなぐ、坂城町学校職員会を組織し、学力向上とも関連付けながら、キャリア教育を推進した。

1 坂城町教育グランドデザイン

キャリア教育で培いたい資質・能力として、「かかわる力」「みつめる力」「うごく力」「みとおす力」を設定し、全ての教育活動をその 4 つの視点で関連付け、町内 4 つの全ての学校で共通理解を図り、実施。

2 坂城町学校職員会

平成 28 年度については、年 3 回の全体会と各校の授業公開を実施。

- ・第 1 回 顔合わせ、年間計画の理解
- ・第 2 回 小中共通課題の決め出し ①キャリア教育 ②学力向上
- ・坂城小学校公開授業 (10 月 25 日) ※白木みどり先生講師
- ・坂城中学校公開授業 (11 月 8 日) ※白木みどり先生講師
- ・村上小学校公開授業 (11 月 22 日) ※白木みどり先生講師

・第3回 南条小学校公開授業（1月19日）シンポジウム 白木みどり先生講演

3 各学校の様子（例）

各学校の学校経営にキャリア教育が位置付く。南条小学校では、特別支援教育とキャリア教育(生活科・総合的な学習)を中核として、主体的に学びに向かう学級づくりや授業づくりを重点としている。

4 平成29年度取組

3年間の推進期間が終了した今年度であるが、キャリア教育(学力向上)先進校である石川県白山市立明光小学校へ視察を実施。6月29日の坂城町キャリア教育推進委員会にて視察の成果を共有し、今後の取組の方向を確認した。

5 その他

これまでのキャリア教育の推進を基に、新たなグランドデザインの作成に取りかかっている。

<長野県> (種別：学校) 佐久穂町立佐久穂小学校・佐久穂町立佐久穂中学校

推薦理由

平成27年度の開校以来、キャリア教育を学校経営の柱として、小中一貫の9年間に渡る系統的なプログラムを、地域と連携して開発し、「ふるさと学習」として実施している。

1 ふるさと学習の主な活動

地域の特色である林業(■)と福祉(◆)を中心にプログラム化した。

【基礎・充実期】

[1学年] ○秋葉山の春・夏・秋・冬

[2学年] ○よもぎ団子づくり、遠足

[3学年] ◆老人福祉施設との交流 ○町探検

[4学年] ■みどりの少年団活動(きのこ駒打ち体験、湧水見学)

【活用期】

[5学年] ■伐倒作業の見学、林業機械の体験、手のこぎり体験

[6学年] ■下草刈り、カラマツ・白樺の定植

[7学年] ■大石川源流見学の他地元企業での林業体験

【発展期】

[8学年] ○■就業体験活動(インターンシップ)

[9学年] ◆医療・福祉体験

2 林業体験について

地域の方々も含め構成している「さくほ森の子育成クラブ」を、開校1年前から設立し、プログラム化。学校林を活用し、実施している。成果の一つとして、校内にある樹齢98年となるカラマツの柱にも児童生徒が心を寄せるようになっていく。

3 福祉体験について

8学年で実施する就業体験学習に加え、9学年次に、医療福祉施設に焦点化した職場体験を実施することで、8学年次の学びを発展させる取組をしている。医療・福祉に力を入れている地域の特色を生かした取組であり、成果として、心優しく、挨拶のできる生徒たちが育っている。

<長野県> (種別：学校) 長野県飯田OIDE長姫高等学校

推薦理由

工業科5学科商業科1学科の併設校で全学科に渡り学校外の人材によるコーディネーターを置き地域連携教育を活かしたキャリア教育を実践している。その中でも5年が経過し体系化された商業科「地域人教育」は平成24年より飯田市、松本大学と連携協定を結び地域連携教育を行っている。公民館活動が活発な飯田市を主なフィールドとし、地域課題解決に関する主体的な活動から協働性や多様性を実際に体験する学習プログラムとなっている。飯田市や観光協会がコーディネートを主に担い、松本大学が教育活動に関するアドバイス、講師の派遣などを行う。地域の企業、NPO、起業家等と学校が協働して生徒を育てる内容となっている。地域での諸活動を教

育課程に位置付け、生徒の多様なキャリアを実践的に形成させ、地域に愛着を持って世界で活躍できる人材の育成を目指している。平成28年度の主な取組は以下のとおりである。

- 【1年次】「フィールドスタディ（飯田市、松本市）」「税金とまちづくりに関する講義とグループワーク」「起業家による講義とグループワーク」「地域課題とキャリア教育に関するグループワーク」「社会課題解決をテーマとしたスタディツアー」「セルビア共和国との地域課題比較に関する講義」
- 【2年次】「飯田市りんご並木の文化歴史調査と報告書の英訳」「地元伝統産業の水引業界の研究と業界活性化提案」「全国地域課題解決発表会への参加」「セルビア共和国大使館員との交流」
- 【3年次】「公民館活動（飯田市内7公民館との連携）」「商店街活性化のためのダンスイベント」「飯田の魅力届け隊」「高校生による空き家の活用」「観光地の偏差値としての公衆トイレリフォーム」「地域活性化と農業活動」「東京都品川での販売実習と商店街活性化ネットワークとのグループワーク」「過疎地における地域資源の情報発信」

年度末には成果発表会を開催し、研究収録作成とともにまとめを行っている。

<岐阜県>（種別：教育委員会）高山市教育委員会

推薦理由

1 取組の概要

当該教育委員会では、教育委員会が主体となり、地元企業や団体等と連携し、創意工夫ある取組を継続的にを行っている。

① キャリア教育を考える会 出前講座

今年度で4年目をむかえる事業である。9つの奉仕団体から、講師が中学校へ出向き、人生の先輩である社会人から、生徒に人生や仕事について語ってもらうことで、生徒がキャリアについて考える機会をもつことを目的としている。

② ものラボ高山キャンプ

今年度で6年目をむかえる事業である。ものづくりは人づくりの理念の下、協同でものづくりを行う中で、ものづくりの楽しさを知るだけでなく、豊かな発想力・創造性を高めてもらうことを目的としている。

③ EST未来塾

今年度で3年目をむかえる事業である。高山市内外の各所で活躍している大人から、その生き様を聞いたり、話し合ったりすることを通して、「個性・能力・創造性」を身に付けた高山の次世代を担うリーダーを育成することを目的としている。

2 取組の具体

① キャリア教育を考える会 出前講座（対象は、希望中学校）

今年度は、8つの中学校で開催している。協力していただいている団体は、地元の奉仕団体である。奉仕団体は、中学校からの依頼に合わせて講師を派遣している。講師は、10名から30名程度で行っている。子供たちは、全体講話や少人数に分かれての講話で、生き方を聞いたり、交流したりしている。対話を意識した内容である。

② ものラボ高山キャンプ（対象は、小学4年生～6年生）

地元企業や大学の方が、高校生に指導し、大人・大学生・高校生が子供たちをサポートしながら、専門的な指導を行っている。内容は、ピタゴラ装置製作（センサー体験や3DCAD体験も含む）、腕時計製作等を行っている。ピタゴラ装置は、小グループで取り組み、完成後には保護者への発表会を行うことで、製作の喜びや協同する楽しさを実感できるようにしている。

③ EST未来塾（対象は、小学5年生～中学3年生）

平成27年度は4日間、平成28年度、29年度は3日間開催した。講師から話を聞いたり話し合ったりするだけでなく、企業見学やコミュニケーションのワークショップをして実体験から学べるようにしている。講師は、市長、教育長、市役所職員、地元企業の方、シンガーソングライター、NPO法人の方々など多岐にわたる。

3 取組の成果

① キャリア教育を考える会 出前講座

参加した児童生徒の感想には、「地元で働きたい」、「仕事の楽しさが分かった」など働くことに興味をもったり、将来に向かって自分にできることは何かを考えたり、自分のこれからの目標を声にする姿が多く見られた。

② ものラボ高山キャンプ

毎年、申込者が多数ある。子供や保護者のアンケートからも、「ものづくりの楽しさや発想を形にするすばらしさが伝わってくる。」「仲間と協同する大切さも学べる。」と好評である。

③ EST未来塾

学校をこえた交流の中で、子供同士が大きな刺激を受けている。積極的に意見を発信することの大切さが学んでいる。参加した児童生徒が、学校の活動でリーダーとして活躍する姿があった。

<岐阜県> (種別：学校) 岐阜県立東濃高等学校

推薦理由

当該校は創立122年を迎えた伝統校として地域に信頼される学校を目指している。全校生徒の約1/4を外国籍の生徒が占めるなど、多様な生徒を受け入れながら単位制普通科の小規模校の特長を活かし、特色ある教育活動に取り組む。生徒の多くは成功体験に乏しく、コミュニケーションや人間関係の構築が苦手なため、入学後に演劇手法を用いた「演劇表現ワークショップ」等を開催し、苦手克服を図っている。

1 キャリア教育プログラムにおける取組

地元企業・団体等の協力を得ながら、地域社会とのコミュニケーションを通して生徒自らがキャリアを形成することを目的とした取組を5年間継続している。企業等がかかえる地域課題を理解して解決策を提案することや、企業の現場見学において社会人から「働く楽しさ・やりがい」を感じ取ることで、自らの就労や進学に対するキャリア観を醸成する。1年生全員を対象とする本取組は、地域の方との対話や全体報告会での発表が、自らの成長を実感する場となっている。また、NPO法人との協働による教職員以外からの助言は、生徒の多角的な支援につながり、生徒が自己の在り方生き方を考えるきっかけとなっている。

2 地域づくり類型における取組

平成25年度入学生から、「地域づくり類型」を開設し、2、3年次で学校設定科目を計5科目開講している。御嵩町及び岐阜県職員、大学関係者、地域住民等から専門的知識や豊富な経験を学ぶとともに、フィールドワークやボランティア活動等を通じ、自らの目で地域を見つめ、地域課題を考察する視点を養う。道の駅の駅長から地域に対する思いを聞く体験や新たな郷土食「みたけ華ずし」実習等、内容は多岐にわたる。3年次には学習のまとめとして学習報告会を開催し、高校生の視点から地域課題を考え、解決策を御嵩町幹部職員に提案する。自治体等との連携の下、地域で活躍できる人材を地域の中で育てる教育の取組は、本県が推進する「ふるさと教育」の趣旨と合致しており、「ふるさと教育実践校」に認定されるとともに、平成27年度及び28年度にはふるさと教育表彰奨励賞を受賞した。

3 外国人生徒に対するキャリア支援

従来、当該校の外国籍の生徒は、卒業後に非正規雇用となるが多かった。平成27年度から、全学年で国際クラスを設置して学校設定科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を開講し、体系的に日本語を学習して日本語検定等の資格取得に取り組んでいる。外交団が御嵩町を視察する際の通訳支援員や町内小学校等の英語指導助手として派遣することで、生徒は自己有用感を高め、キャリア発達が促されている。さらに、平成28年度は、ハローワークと連携し、外国籍の生徒に特化した地元企業説明会を開催した。

【ホームページ】 <http://school.gifu-net.ed.jp/tono-hs/report.html> #地域課題の解決に取り組むキャリア教育

<岐阜県> (種別：学校) 岐阜県立多治見北高等学校

推薦理由

地域の中核的な全日制普通科高校として、「キャリア形成する力」と「確かな学力」を進路実現に必要な両翼に見立て、生徒、保護者及び教職員が共通認識をもって日々の教育活動に取り組んでいる。

当該校のキャリア教育の特色の一つに、3年間を見通した進路ガイダンスの整備及びカウンセリングの充実がある。新入生は入学後すぐに大学就職担当者による「キャリアデザイン講演会」を受講し、社会で求められる資質や姿勢を学び、高校3年間のキャリア形成の指針を立てる。その後、卒業生が案内する名古屋大学見学会、名古屋大学若手研究者との座談会、進路適性検査、オープンキャンパス、インターンシップ等のガイダンスを経て、文理を含めた進路選択の第一歩を踏み出す。2年次には、名古屋大学から招聘した教員による大学模擬講義や進路探究活動等を通じ、生徒は「好き」を深化させて進路志望を固める。3年次には主体的に学習に取り組むことで将来の扉を開くための学力を身に付け、志望する「学びの道」への進学を目指す。ガイダンスの実施はカウンセリングの機会にもなっており、HR担任を中心とした生徒への言葉かけを通して生徒のキャリア形成を促している。

また、官民学の連携事業となる多治見市及びアマゾンジャパンとの共同就業体験「アマゾン・ジョブシャドウ」を実施し、生徒のキャリアを育成している。4年の実績をもつ本就業体験に加え、昨年度はアマゾンジャパン社長及び多治見市長との懇談会を実施した。今年度はアマゾンロボティクス研究者ジョーイ・ダーラム氏の講演会及び名古屋市で開催された「ロボカップ2017」の見学会実施など発展的に展開させ、就業体験の枠を越えたキャリアの育成が図られている。

さらに、岐阜県SGH指定校として、グローバルな観点からキャリア形成を進めている。海外大学進学者との座談会を開催し、海外の大学への進学という進路選択や海外での就職の実態について、生徒に情報収集と考える機会を提供している。海外からの留学生と英語のみで議論し発表するエンパワーメントプログラム事業では、グローバル・コミュニケーションスキルの習得及び海外留学生との交流を通じ、キャリア意識の高揚を図っている。

<静岡県> (種別：学校) 磐田市立豊田中学校

推薦理由

当該校は、学校教育目標を「こころざしをもち、たくましく生き抜く生徒の育成」とし、ESD(持続可能や社会の担い手を育む教育)の視点を取り入れたキャリア教育を推進している。「こころざし」とは、常日頃心掛けたい信条、短期・長期の将来像、そして目指したい未来社会の3点と定義付け、そのために身に付けさせたい資質・能力を、「かかわる力、みつめる力、やりぬく力、かなえる力」の4点と押さえ、「こころざしを実現する力」としている。それらを育むために、授業づくり(主に教科学習)、こころざしづくり(主に総合的な学習の時間)、仲間づくり(主に学級・学年経営)の中で、系統的に実践を推進している。

こころざしを育む中核としているのが、「こころざしづくり」としての総合的な学習の時間であり、「志タイム」と名付けている。1年生では「こころざしとは何かを知る」、2年生では「自分のこころざしをもつ」、3年生では「こころざしを実現する力を備える」と各学年の目標を設定し、地域学習、未来授業、職業体験等の学習活動を展開している。

それぞれの学習で工夫しているのが、学び方と地域人材の活用、地域との協働・連携である。学び方とは、4つの「こころざしを実現する力」を活用したり身に付けたりする場を設定し、課題を自ら見付け、問題解決に主体的、協同的に取り組む探究的な学習活動である。地域人材の活用、地域との協働・連携とは、保護者・PTA・地域自治会・地域企業・地域団体・地域施設などとの連携である。推薦校はコミュニティ・スクールとして、地域人材の活用、地域との協働・連携するための組織・体制づくりを積極的に推進しており、コミュニティ・スクール・ディレクター(CSD)を中心として、豊中人材バンク・豊中サポーター等の組織がつけられ、現在も拡大・発展中である。ここで大切にしていることは、学校・地域・生徒の三者が互いに貢献の心を持ち、互いの能力や機能の開発につながり、Win-Winの関係(=チーム学校)を構築していくことである。

以下は総合的な学習の時間における、各学年の具体的な活動である。

1年：地域との関わりから、「こころざし」とは何かを学ぼう！(地域から学ぶ)

※ようこそ先輩(学校保護者、PTA主催の活動)：地域の方を呼び、地域に対する想いを共有する。

※地域探訪(磐田市内の企業、団体、施設を訪ねる)：地域で働く人にインタビューして、地域に対する想いを聞く。

※先輩授業(3年生と1年生の協同活動)：3年生は3年間の想いを語り、1年生は受け止めつなげる。

2年：地域との関わりから、自分の「こころざし」をもとう！(学んだことを自分のものにする)

※未来授業(静岡県西部地区企業団体主催の活動)：各種職業人を呼び、職業に関する想いや生き方を共有する。

※職業体験（磐田市内の企業、団体、施設での職業体験活動）：共に働くことで、働く人の思いを知る。

※こころざし発表会（学級、学年発表会）：これまでの活動を通じてできたこころざしを伝え共有する。

3年:「こころざし」を実現する力を持ち、地域社会に貢献しよう！（学んだことを生かして、地域に恩返しする）

※地域貢献活動（7月末から12月までのボランティア活動）：地域のニーズに合ったボランティア活動をする。

※上級学校入学体験（日本全国の大学、専門学校訪問）：3年間で全てのカテゴリーを体験し、将来のビジョンを描く。

※先輩授業（3年生と1年生の協同活動）：3年生は3年間の想いを語り、1年生は受け止めつなげる。

「授業づくり」においては、研修主題は「未来や社会につながる学びの創造」とし、授業改善を推進している。各教科の授業においても、4つの「こころざしを実現する力」を活用したり身に付けたりする場面を設定した、主体的で対話的で深い学びを目指している。また、E S Dの視点から教科の本質を押さえた教材研究を推進し、教科を学ぶ意義、教科の学びと未来や社会とのつながりを生徒に気付かせる工夫をしている。これらの授業実践の積み重ねの中から、他教科や総合的な学習の時間とのつながりに気付き、教科横断的な学習が生徒の学びを中心に広がってきている。

「仲間づくり」においては、生徒の心の居場所づくり、絆づくりをキーワードとし、同じく4つの「こころざしを実現する力」の育成を目指している。具体的には、日常の学級生活において、教育相談等を日常的、また定期的に実施するなど、生徒個々のこころざしの育成を大切にしている。また、各種行事においては、集団としてのこころざしを意識し取り組んでいる。「集団としてのこころざし」とは、こころざしの3点目の定義につながるものであり、集団的な行事等への取組を通し、個々の集積として集団や社会があることを体験的に学ぶことを目指したものである。個のこころざしが集積し、集団としてのこころざしが実現に近づいていくことの経験は、よりよい社会の構築の経験に他ならない。

このような教育の実践の成果として、「自分なりのこころざしをもっている」と肯定的な回答をしている生徒は、全校で89%、3年生は98%である。また、「人の役に立ったり、人に喜んでもらえたりすることは嬉しい」と肯定的な回答をしている生徒は、全校で95%、3年生は98%である。このように、キャリア教育の実践の成果が確実に現れている。

上記の理由により、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<静岡県>（種別：学校）静岡県立小山高等学校

推薦理由

【取組の概要】

当該校では、教育目標に「いかなる時代にもたくましく生き抜ける人間の育成」を掲げ、地元自治体や企業と連携し、キャリア教育に取り組んでいる。平成22年度に地元自治体等との連携により始めた「キャリア講演会」を起点として、平成25年度には「就職希望の生徒を対象としたインターンシップ」、平成28年度には「1年生全員を対象としたインターンシップ」へと発展させている。

このことにより、生徒の地元に対する理解を深め、地元行政に積極的に参画する姿勢を育むとともに、地域振興と地域活性化に貢献している。

地元自治体や地元企業との連携の下、進化し続けているこれらの取組は、本県普通科高校におけるキャリア教育の実践例として、他校に示唆を与えている。

【具体的な取組】

1 キャリア講演会

平成22年度から小山町商工観光課及び小山町企業懇話会（地元企業団体）と連携し、生徒（1、2年生全員）に対して、地元企業の採用担当者による講演を実施しており、本年度で8年目となる。

2 インターンシップ

小山町商工観光課と地元企業の協力を得て、平成25年度から就職希望の生徒を対象に行われていたが、平成28年度からは小山町との連携を更に深め、対象を1年生全員に広げ、小山町役場で夏期休業中2日間実施している。

1年生全員が、1日半は、小山町役場の町長戦略課、税務課、総務課などの各部署での就業体験を行い、町役場の役割を理解するとともに、町が抱えている課題を知り、その解決策を考える機会としている。残りの半

日は、地元の先進的な取組をしている企業の見学を行っている。9月には、各自が作成したレポートを基に各クラスで「インターンシップについてのプレゼンテーション」を実施することによって、様々な体験を共有するなどの工夫も行っている。

3 富士山金太郎議会（高校生議会）

平成28年10月14日に行われた「富士山金太郎議会」（主催：小山町）に小山高等学校生徒会が参加し「小山町PR戦術について」、「ハザードマップについて」、「Uターン就職の促進策」など小山町をより良くするための提言を行った。他の地域貢献活動も含むこれらの取組が小山町から評価され、小山高等学校生徒会が平成29年4月28日に小山町教育委員会から地域振興功労賞を受賞している。

<静岡県>（種別：学校）学校法人松薫学園 焼津高等学校

推薦理由

当校は、全国的にも少ない私立の女子総合学科として今年で17年目を迎える学校である。総合学科の学校では多くの授業を選択するために、学校生活の中で「キャリア教育」は必要不可欠なものとなっている。

【具体的な取組】

進学特修系列、情報実務系列、生活環境系列、福祉介護系列の4系列の授業を初めとして、地域に住む方々を社会人講師として招いた授業も含め、80以上の選択科目を開講している。本校では、1年次の「産業社会と人間」、2年次の「総合学習Ⅰ」、3年次の「総合学習Ⅱ」と各学年2単位ずつ、系統立てて「キャリア教育」に取り組んでいる。以下に主な取組を示す。

1 職業体験学習（産業社会と人間）

1年生全員が、夏休み中に2日間以上職業体験を実施している。実習先を自分で決めて、自分で連絡を取り、夏休みに職業体験学習を行う。その後報告書を書き、クラス発表、学年発表、学校発表を通し、プレゼンテーション能力を育成し、他人の体験を知ることを通して職業について考えさせている。

2 キャリア体験学習（総合学習Ⅰ）

2年生全員が、夏休みにキャリア体験学習を実施している。職場見学、上級学校見学、初任者研修実習のいずれかを選択し参加する。体験学習終了後報告書を書き、クラス発表をして、優秀者は学校発表をしている。

3 卒業生の話（産業社会と人間、総合学習Ⅰ）

当校の卒業生6～8名程度に来校してもらい、自分の進学先や就職先の話をお願いしている。身近な先輩の話は生徒にとっても大変重要で、高校生でやっておくこと、考えた方がいいこと、学生と社会人の考え方の違いなどのアドバイスももらって役に立っている。

4 ライフプラン作成（産業社会と人間）

1年次の「産業社会と人間」の締めくくりとして、全員がライフプランを作成し、クラス発表、学年発表、全校発表（総合学科発表会）と段階を追って発表をしている。

5 課題研究（総合学習Ⅱ）

3年生全員が、各自で研究テーマを設定し、それを研究発表している。自分の目指す職業について研究する生徒も少なくない。

そのほかにも、上級学校研究や上級学校見学などその時に応じ、自分の進路を考える機会としていると同時に、上記のように多くの地域の社会人講師の方に授業をしてもらうことにより、授業以上のものを学んでいる。

以上のとおり、3年間を通して生徒自身が自分の目指す職業について研究するなど、計画的なキャリア教育の実践に取り組んでいることから、キャリア教育優良校として推薦する。

<愛知県>（種別：教育委員会）大治町教育委員会

推薦理由

大治町は、教育大綱の四つの柱の一つに「変化に対応して、新たな価値付けをすることができる力の育成」を掲げている。当該教育委員会は、このことを達成するための施策を核にキャリア教育を位置付け、そのねらいを「様々な人との出会いを通し、主体的に問題を解決し行動できる力を備えた子の育成」とし、様々な活動に取り組んでいる。

【地域の人、文化を生かした学びの場づくり】

町内の小学校5年生が、大治町で活躍している料理研究会と当該教育委員会が連携して、地元で収穫した米、砂子かぼちゃ、モロヘイヤなどを取り入れた米粉パン作りを通し、地域の環境の変化や人々の暮らしの変化を学んでいる。また、平成25年度には、地域に根付く「つるし雛」の製作体験を行い、作者の思いに触れることができた。

このような活動は、当該教育委員会が学校を支える仕組みとして組織した学校支援地域本部「はるボラフレンズ」によって、実施されている。

【「語り」を中心に据えたキャリア教育の展開】

平成28年度には、当該教育委員会が中学校と協力しながら「学び、実感し、深める」キャリア教育の実現を目指す研究に取り組んだ。この研究を推進するに当たって、地域の商工会、施設と連携し、対話を通して学びを深める学習活動の展開を実施した。

【中学校で実践した各学年段階でのカリキュラムの概要】

- 《1年生》未来の自分自身の姿に向き合うとともに、愛知県が「ものづくり」の中心地であることを実感させる活動として「ドリームマップ講演会」「校外学習」を教育大綱に準じ実施した。
- 《2年生》社会的・職業的な自立の啓発のため「ものづくり」に対する苦労や喜び、実際に職場で働くことで感じることを身に付けさせるため、商工会や事業所との連携を図り、体験を実施した。
- 《3年生》自分の生き方を確立していく一つの機会として、修学旅行時に社会の最前線で働く人々について、見学、訪問を行った。2年時に行った職場体験を振り返りながら、自分の将来を考えるととてもよい機会となった。

【今後の取組】

小学校では、地域に根付く産業や文化を体験する活動を継続させることによって、社会参加の基盤をつくり、ボランティア活動などに参加しやすい環境を作っていく。

中学校では、3年間の活動のつながりを意識させ、各教科におけるキャリア教育の視点を明確に示し、キャリア教育のカリキュラムを作成していく。

また、平成29年度は、「地域が元気になること」を目標に、当該教育委員会が連携している地域の行事の中に、小中学生が参加したり、ボランティア活動に取り組んだりする様子を発信することを計画している。

【ホームページ】大治町学校支援地域本部「はるボラフレンズ」ホームページ

<http://www.schoolweb.ne.jp/oharu/kyouku/>

<愛知県> (種別：学校) 設楽町立田峯小学校

推薦理由

地域の方の仕事や生き方に対する思いに触れ、また、実際にその仕事の一部を体験することにより、子供たちの職業観や将来の生き方や地域集団の一員としてのあり方に対する意識を変容させることをねらい、『『ようこそ先輩』『どうです田峯』プロジェクト』と銘打って、以下のような活動を行った。

- (1) 地元出身で地域の行事や消防団活動に積極的に関わっているJA愛知東職員から、業務の内容、地域や仕事、家族への思いとその両立について講話を聞く。
- (2) 学区内に作業所を構え建具作りを行っている豊設木工で、機械を使った建具作りの見学と、加工した木材を使って木工体験をする。
- (3) 乳牛を飼育している段戸高原牧場で、地元で仕事を続けてきた経緯を聞き、牧場内の見学と仕事の説明を受ける。
- (4) 隣の東栄町へUターンして、陶芸活動を続けてみえる方から、仕事や地域への思いを聞く。また、これまでの学習のまとめとして将来への思いを陶芸作品で表す活動をする。
- (5) この学習活動での学びを近隣校の児童や保護者へ発表する機会をもつ。
- (6) 活動のねらいや内容をブログ、便りなどで発信し、地域や家庭のキャリア教育への理解や意識の高揚を図る。

○活動を終えて

地域の方から学ぶ活動を通して、「このプロジェクトで、いろいろな人からいろいろなことを教わって、全員仕事のやりがいは違っていました。私も自分らしい仕事のやりがいを見つきたいです」、「プロジェクトを始める前

は、設計士が将来の夢でした。設計士の夢は変わらないけれど、田峯のことをしながらも仕事をしたいなと思いました。このことは大きくなっても忘れないようにしたいなと思いました」などの感想に見られるように、職業観や将来の生き方についての考えを深めることができた。そして、発表する場を設けたことで、自分の学びを他者から認めてもらい、自分の考えに自信をもつことができた。また、保護者から「自分は何ができるのか、何がしたいのか考えるよい機会だったと思います」などの感想が寄せられ、活動の発信により、キャリア教育への理解と意識が高まったと考えられる。今後も、地域再発見の活動とあわせ、事業を展開したい。

<愛知県> (種別：学校) 北名古屋市立天神中学校

推薦理由

当該校では、生徒が将来、社会人として自立していくことができるようにするため、3年間を通して系統的・継続的な進路指導を行い自己実現に対する支援を行っている。また、平成28年度より「コミュニティ・スクール」を実施し、家庭・地域・校区の小学校と連携・協働しながらキャリア教育を推進している。

【具体的な取組について】

1 第1学年：進路の意識付け【自己理解】

職業や上級学校への関心を高めるとともに、自己の能力や適性などについて理解を深める。

(1) 職業インタビュー

将来の夢をもち、その職業について身近な人にインタビューしたり、自分で調べたりして興味関心を高める。

(2) 職業講話

生徒が希望する職種の方を講師として招き、職業について話を聞き自分の将来を考えるきっかけとしている。

2 第2学年：進路の明確化【自己啓発】

正しい勤労観・職業観について理解を深め、自分にあった職業や上級学校への希望を具体化させる。

(1) 職場体験学習

地域の事業所で3日間仕事を体験し、将来の夢に向かうための勤労観・職業観を深める。

(2) 立志の集い

自分の将来について考えをまとめ学級で発表し、将来の夢を具体化していく。

(3) 上級学校訪問

自分の将来の夢を実現させるために、どんな進路を選択するのか考え実際に訪問する。

3 第3学年：進路の決定【自己実現】

職場や上級学校について必要な情報を収集して、自分にふさわしい進路を選択する。

(1) 学科説明会

生徒が希望する学科の上級学校から講師を招き、学校の様子・授業の様子について話を聞き、将来の夢を実現するためにどんな進路選択をすればよいかを考える機会とする。

(2) 進路説明会

進路選択について具体的な話を聞き、自分の進路について考える機会とする。

(3) 体験入学

実際に上級学校を訪問し、学校の様子等について体験し、自分にふさわしい進路選択ができる一助とする。

4 家庭・地域・小学校との連携

家庭や地域と協力し合い、3つの場での様々な活動を通して自分の将来について考える機会とする。

(1) 生徒が主体的に活動し、よさを認められる場 (自分を見つめる力・自尊感情の育成)

① 校内ボランティア活動

- ・保護者と協働ボランティア：朝のあいさつ運動、校舎前の花壇作り、落ち葉拾いのモーニングクリーン活動

② 校外ボランティア活動

- ・小学校区資源回収 (年3回)
- ・地域でのボランティア：市主催行事 (ハペットフェスタ・マラソン大会)、保育園夏祭り、乳幼児ふれ

あい体験

(2) 生徒がさまざまな人たちと関わり、学べる場（人や社会と関わる力の育成）

① 地域の方との関わり

- ・地域の方を講師に招いた講話・実技：マナー講座、オリンピックやパラリンピアンとの交流会

② 小学生・保育園等との関わり

- ・ピアサポート：小学6年生を対象とした中学校生活についての話
- ・部活動交流：サッカー部、バスケットボール部、吹奏楽部
- ・あいさつ運動：登校時、校区の小学校であいさつ運動
- ・保育園訪問：近隣の保育園で園児とふれ合い活動

③ 外国人との交流

- ・アメリカ高校生と会食や和太鼓演奏等の交流会

④ 福祉施設の訪問

- ・吹奏楽や和太鼓演奏を通して高齢者との交流

(3) 生徒が自分を見つめなおし、自分の将来を考える場（将来を描く力の育成）

① 進路学習

- ・立志の集い：自分の将来について学級で発表
- ・職業講話：生徒が希望する職種の方の講話
- ・職業体験学習：地域の事業所での仕事を体験
- ・学科説明会：上級学校を招いての話

<三重県>（種別：学校）四日市市立山手中学校

推薦理由

当該校は、「キャリア教育の視点を取り入れた教育活動」を学校づくりビジョンの中心に据え、社会的・職業的自立のために必要な「基礎的・汎用的能力」を育てることを目標としている。そのため、中学校3カ年のキャリア教育計画を教職員等が共有し、組織的・系統的な取組を行っている。

(1) キャリア教育を中心に据えた組織的・系統的な学校教育の取組

「互いの存在を認め、励まし合い、高め合う個と集団づくり～キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の推進～」を研修主題として、授業や行事等において、キャリア教育の視点を取り入れた教育を推進している。また、「夢を持ち、夢を語り合える関係づくり」を目指し、生徒が自尊感情を高め、夢や目標を持つことができるよう、集会を通じて生徒に語りかけるだけでなく、学校通信等を活用し保護者等にも働きかけ、学校と家庭が目指すところを一にして取り組んでいる。

また、普段から生徒の長所を褒めることで自尊感情を高めたり、教育相談を活用してキャリアカウンセリングを行ったりすることで個に応じた進路選択ができるようにしている。

(2) 地域と連携したキャリア教育

1年生の総合的な学習の時間に「地域学習」を設定し、5グループに分かれて、探究的な学習を行っている。「産業」をテーマに取り組んだグループでは地元の伝統産業である萬古焼を作る過程や工場で働く人へのインタビュー等を通して、伝統産業に対する理解を深めるだけでなく、そこで働く人の思いを感じることができた。

また、福祉体験教室や地域防災教室の体験学習および老人会との交流等、様々な行事を地域とともに実践している。こうした体験を通し、生徒の豊かな感受性や地域社会の一員としての自覚を養い、地域への愛着を醸成している。

(3) 様々な職業に触れる機会の創出

「地域学習」や福祉体験教室等、地域の人と接する活動をとおして、職業について理解を深めるだけでなく、様々な人の生き方に触れられるようにしている。

また、キャリア講演会や地域の事業所での職場体験も行っている。加えて本年度は修学旅行を活用し、テレビ局での職場体験を行った。様々な仕事を体験することで将来のキャリアプランニングに生かしている。

<三重県> (種別：学校) 津市立美杉中学校

推薦理由

当校は、地域の過疎化が課題となっている津市西部の山間部にある。そのため「少人数だからこそできる教育の推進」や「美杉地域のよさを生かす教育の推進」を学校教育の重点目標に掲げ取組を進めている。

(1) 地域資源を活用した系統的なキャリア教育

1年生の地場産業体験学習としての「林業体験実習」、2年生の地元事業所への「職場体験学習」、3年生の地元猟師及びジビエ料理のシェフを招聘した授業、秋に地域で行われる美杉秋まつりにおける「地元物産の販売体験学習」等、地域資源を活用した組織的・系統的なキャリア教育を行っている。

(2) 修学旅行での販売体験学習～「地元特産物販売会社 美処(みどころ)みすぎ」の取組～

美杉町の特産物の商品知識を学び、生産者の仕事や郷土に対する思いを知ることで、郷土の素晴らしさを再認識し、自分の生き方を考えることをねらいとして起業体験を取り入れている。

「地元特産物販売会社 美処みすぎ」を設立し、特産物の仕入れ、販売・接客、商品管理等、流通の仕組みを学び、修学旅行で販売活動を行っている。

販売活動に向けて、2年生では生徒が生産者と交流し、その商品に込められた思いを学習することから始め、販売ブースのポップ作りや集客・販売等の役割分担、行動計画の立案等、様々な事前学習を行った上で、本年度は、津市東京事務所、津市商業振興労政課及び津市美杉総合支所地域振興課の協力により東京日本橋の「三重テラス」で販売活動を行った。「三重テラス」の売上は郷土料理の講座の材料費に充て、自らの学びへと還元している。こうした体験を通して、生徒の地域への理解や愛着、誇りを育んでいる。

<三重県> (種別：学校) 三重県立南伊勢高等学校南勢校舎

推薦理由

当校舎は、南海トラフ地震・大津波の甚大なる被害が懸念される熊野灘沿岸のリアス海岸奥の海沿いに立地しており、過疎化・少子高齢化が急速に進んでいる南伊勢町にある。「自らの力で自分の将来を切り拓き、地域社会に貢献するひとを育成する学校」を目指す学校像とし、南伊勢町をはじめとする多様な主体と連携した商品開発・販売等の起業体験をとおして、キャリア教育における基礎的・汎用的能力を育成している。また、2年生全員を対象としたインターンシップを実施し、地域産業や仕事への理解を図り、地域を担う人材育成を行っている。

(1) 起業体験をとおした基礎的・汎用的能力の育成

総合的な学習の時間「輝ひ(かがよひ)」では、行政や大学、地元漁協と連携し、地域課題である「防災」をテーマとした携帯用避難用具「My ゼロバック」の商品化及び販売を行っている。

また、事業所や行政、大学等とともに、ビジネスの手法を用いて、地域の活性化や若者の定住等、故郷を創造・運営していく仕組みとしてソーシャル・ビジネス・プロジェクト(以下「SBP」という。)を実施している。南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」を象った「たいみー焼き」や地域の特産品を詰め合わせた「セレクトギフト」等、南伊勢町や漁協、大学等と連携し、ビジネスプランの作成や商品開発に取り組み、地域の祭りや物産展に参加している。

起業体験で学んだことや身に付けたことを地域で発表したり、小中学校で出前授業を行ったりすることで人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力を高めるだけでなく、主体的に課題を発見し、解決する力も付けている。

(2) 地域への愛着・誇りを育て、達成感を感じさせる取組

地域の産業や事業所を知らずに町外に就職している生徒が多いことから、南伊勢町の事業所を中心に2年生全員を対象にインターンシップを実施している。平成29年度入学生からは、学校設定科目として「インターンシップ」を設定し、南伊勢町の協力の下、2年生に年間をとおし、デュアルシステムを行うこととしている。少子高齢化が進む町で、笑いで地域に活気をもたらすため、平成27年度から、吉本興業株式会社と当校舎が連携し、「ふるさと劇団」を企画・上演している。生徒は役者や運営スタッフ等として参加し、それぞれの役割を果たすことによって達成感や自己有用感を感じることができている。

<滋賀県> (種別：学校) 大津市立真野北小学校

推薦理由

当该校では、今年度からコミュニティ・スクールとなり、PTA、地域諸団体等と連携を深め、地域住民が講師となる「生き方講話」などで社会人としての成長につながる取組を行っている。特にキャリア教育で必要となるコミュニケーション能力の育成に全校で力を入れて取り組んでいる。

- ・全校たてわり活動や異年齢交流、「達人に学ぶ」とした地域の方々などとの交流を深める授業では、仕事に関心を持たせ、人と豊かにつながることの大切さを実感できる指導を通してキャリア教育を推進している。特に第3学年の地域学習では、地域住民に随行いただき、町の施設や歴史についての説明を受け、また第6学年では社会科の授業に地域からゲストティーチャーを招いて歴史の講話を行うなど、児童の発達段階に応じて地域の文化や歴史に関心を持たせるよう、系統立ててキャリア教育を進めている。
- ・県のキャリアノート「夢の手帖」を活用した授業を実践するなどして、キャリア教育の充実に向けて取り組んでいる。平成28年度は、行事や体験学習の事前、事後の学習に「夢の手帖」を効果的に活用した授業研究を行い、県小中学校教育研究会キャリア教育部会合同研究発表大会(滋賀県大会)において、その成果を発表し、小中学校のキャリア教育担当者に「夢の手帖」の活用の周知を行った。
- ・小中学校のキャリア教育を連携して取り組めるようにするため、小学校の陸上記録会前に、中学生が小学校に出向き走法を教えたり、中学校の行事に小学生を招待したりして交流を行ったり、中学校教員による授業体験を実施することで、中学生への憧れを抱かせ、中学校生活への不安の解消につなげている。さらに小中学生と一緒に地域のごみ拾い活動に参加し、地域に関心を持たせる機会にしている。

<京都府> (種別：学校) 亀岡市立西別院小学校

推薦理由

当该校では、3年前から地域やNPO法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得ながら起業体験活動に取り組んでいる。昨年度からは、NISS Iカンパニーを設立し、故郷「西別院」が持っている可能性や資源について理解し、自校で育てた農作物等を商品化し販売したり、広報活動を行ったりする中で、リーダーシップ、協調性、コミュニケーション能力、情報収集・分析能力、表現力を向上させている。

<連携団体>

西別院小学校PTA、西別院町自治会、西別院町子ども「心の教育」推進委員会、西別院町青少年育成連絡協議会、農事組合法人犬甘野営農組合、NPO法人アントレプレナーシップ開発センター

<具体的な取組>

- ・NISS Iカンパニー設立(ロゴ等の作成、商品開発・販売等)
- ・地域の方に指導を受け、手作業にこだわった米や農作物の栽培
- ・販売活動
 - ① 学習発表会：商品紹介のプレゼン後、各学年の商品を販売
 - ② 犬甘野秋祭り：手作りカードやオーナメントを一般の方に販売
 - ③ トレードフェア2016：取組のプレゼンと農作物等の販売
- ・広報活動
 - ① 西別院町と学校紹介のCMを制作し学校HPで公開
 - ② 西別院マップの作成
 - ③ 学校だよりやHPで活動報告
 - ④ ユース・エンタプライズHPで活動報告

<表彰等>

- ・ユース・エンタプライズトレードフェア2016：京都府知事賞受賞
- ・平成29年度京都府キャリア教育推進協議会で実践報告

【ホームページ】 <http://www.el.city.kameoka.kyoto.jp/nishibetsuin/>

＜京都府＞（種別：学校）京都府立久美浜高等学校

推薦理由

当校は、京都府北部の公立高校としては唯一の総合学科設置校である。地域の少子化が進み、現在は1学年3クラスで全校生徒250名足らずの小規模校であるが、多様な生徒を受け入れ、四つの系列により生徒の個性を伸ばし、就職から進学まで幅広く進路を保障している。若者が都会へ流出し、地域全体が高齢化する中で、高校生の地域貢献と卒業生の地元定着による地域創生の期待を負っている。

特に平成28年度からは府立高校特色化事業「京都フロンティア校（地域創生推進校）」の取組として、「地域で求められる力の育成（つながるプロジェクト）」をテーマに、地域学習、ボランティア活動、地域貢献などを通して地域や人とつながり、コミュニケーション能力、協働する力、論理的に発表する力などを育成するとともに、自己肯定感や地域の将来の担い手としての自覚を高めている。

具体的取組は以下のとおりである。

【「産業社会と人間」の学び】

(1) 社会人交流会

地元の職場の第一線で活躍している社会人の体験を聴くことにより、自己の将来の進路について考えさせるという目的で社会人交流会を実施している。また、交流会を生徒自身が企画進行する中で、自治運営の態度やコミュニケーション能力の育成も図っている。

(2) 課題研究

生徒自らが興味関心を持つ分野について、主体的に調査・研究に取り組み、その成果をプレゼンテーション形式で発表している。この取組を通して生徒たちはコミュニケーション能力、協働する力、論理的に発表する力を身につけている。

【地域連携と地域創生】

(1) 「まるっとーく in 久美浜」の実施

平成26年度から28年度までの3年間、京都高大連携研究協議会主催の「まるっとーく in 久美浜」に生徒が参加し、大学生や社会人とともに久美浜地域の良さや未来について語るグループワークを行い、キャリア形成を図った。

(2) 「民話語り部」への参加

京都府教育委員会主催により平成28年7月と11月に京都府立丹後郷土資料館で開催された「民話等語り部」に参加し、地元の民話を紙芝居を使って語り、地域文化の伝承者としての自覚を高めた。

(3) 「松林再生プロジェクト」の実施（生産科学系列）

平成24年度から、京都府農林水産部教育実践パートナーシップ活動「ふるさと・棚田支援事業」による「京丹後市久美浜町箱石地区 箱石海岸松林再生プロジェクト」に参加し、松枯れの原因や松林の役割などについて学び、除草作業や生育調査などを実施している。平成28年度は「ふるさと・棚田支援事業」で2回、「森林ボランティア」で2回、活動を行い、地域や自然について深く考える機会とした。

(4) 「健やか生きがい教室」への参加（福祉系列）

京丹後市「健やか生きがい教室」に出向き、地域の「健康予防事業」の実際と、「高齢者との関わり」について体験を通じて学んでいる。平成28年度は3回参加し、高齢者との交流を深めた。

【地域貢献とボランティア活動】

(1) 久美浜放課後児童クラブ（ボランティア部の取組）

平成26年度から第1・3水曜日に久美浜放課後児童クラブに参加し、子供たちが自主的かつ安全に生活できるよう手助けや見守りを行っている。

(2) ボランティアバンクの取組（希望者）

ボランティアバンクに登録した生徒に対し、地域から依頼された各種ボランティアを紹介し、地域貢献活動を推進している。平成28年度の登録者は54名（生徒の約2割）であり、福祉施設の夏祭りや地域のイベント等で活躍した。

(3) 2016 歴史街道丹後 100km ウルトマラソン運営ボランティア

国内外から3,000人を超える選手が集まった地域のマラソン大会の運営補助に部活動単位で参加し、早朝から選手誘導や会場整理などを行った。高校生ボランティアなしにこの大会を運営することは難しく、高校生へ

の期待は大きい。選手とのやりとりやボランティア間の世代を越えた交流などにより、生徒は自己肯定感や地域貢献の意欲を高めた。

(4) かぶと山駅清掃（丹鉄利用者）

京都丹後鉄道利用生徒が毎月、学年ごとに順番に清掃活動を行っている。自分たちが清掃することにより、利用マナーも向上した。

(5) 交通安全優良学校表彰と交通安全啓発イベントの実施

同校生徒会が取り組んだ「交通安全マップ」が評価され、京都府交通安全協会から平成28年春の「交通安全優良学校表彰」を受けた。その後、京丹後警察署、京丹後市交通安全協会の交通安全啓発イベントに協力し、ドライバーに梨（事故なし）とチラシを配付し、交通安全を呼びかける活動などを行い、安心・安全なまちづくりに貢献している。

【学校間連携】

地域の保育所・小学校・中学校との交流を通じて当該校生徒のキャリア教育だけでなく、交流校のキャリア教育にも寄与している。

(1) 生産科学系列の取組

- ア こうりゅう保育所との田植え
- イ かぶと山小学校・高龍小学校との合同田植えと合同稲刈り
- ウ こうりゅう保育所の来校
- エ かぶと山こども園との交流会（種まきと鉢上げ）
- オ 高龍小学校への出前授業（牛乳パックからの紙すき）
- カ かぶと山小学校への出前授業（野菜栽培について）
- キ 先進校視察研修（龍谷大学、タキイ研究農場附属園芸専門学校）
- ク 京都精華大学出前授業「環境講演会」

(2) 福祉系列

- ア 高龍小学校福祉学習受け入れ
- イ 久美浜中学校出前授業

(3) 家庭科「発達と保育」

- ア こうりゅう保育所での「保育実習」

【卒業生・地域の社会人との連携】

地域社会との連携を通じてキャリア形成を促進している。

(1) 生産科学系列

- ア 卒業生による農業講演会
- イ 花屋オーナーによるフラワーアレンジメントの実技指導（4回）
- ウ 梨選果場見学（JA京都久美浜支店）
- エ 剪定講習会（丹後農業研究所）

(2) 福祉系列

- ア 地域の高齢者総合福祉施設職員による出前授業「福祉の仕事」
- イ 丹後視力障害者福祉センター訪問
- ウ 聴覚言語障害者地域活動センター「てとて」訪問

【環境・福祉】

授業においてキャリア教育を推進し、社会貢献に寄与できる人材育成を図っている。

(1) 生産科学系列の授業【環境】

- ア ケナフの定植（「環境科学」の授業）
- イ 峰山クリーンセンター見学（「環境科学」の授業）
- ウ 観光果樹園の管理作業（3回「果樹」の授業）

(2) 福祉系列の授業【福祉】

- ア 医療的ケア見学
- イ 介護実習報告会
- ウ 認知症サポーター講座受講

以上のように、当該校は、「産業社会と人間」を基軸とした取組により、社会で必要とされる力（コミュニケーション能力、協働する力、論理的に発表する力など）を育成するとともに、地域に根ざした体験的な活動を推進することによって郷土愛を高め、地域に貢献する人材の育成を図っている。地域の特性を活かした特色ある取組は、キャリア教育プログラムとして高く評価でき、全国の高等学校の模範となるものであり、文部科学大臣表彰の候補校として推薦する。

【ホームページ】 <https://www.kyoto-be.ne.jp/kumihama-hs/cms/>

<京都府>（種別：学校）学校法人明德学園 京都明德高等学校

推薦理由

当該校は普通科と商業科を併設する京都府南部唯一の私学である。「働く人づくり日本一の教育機関」を柱にし、将来の生き方につながる職業観を育んだ人材を社会に輩出している。キャリア教育優良校の受賞より10年、社会は「答えがある世界」から「答えのない世界」へと移り変わり、まさに見えないものを把握し、その本質を見抜く力が求められる時代となった。それに対応すべく、従来のキャリア教育を更に進化させた取組を行ってきた。キャリア教育と専門教育を融合する事で、国公立大学や難関私大への進学、12年連続就職内定率100%を収める事ができた。

「学校間、産業界や地域との連携した主な取組」

1. 京都府私立高等学校就職対策協議会

就職対策協議会の幹事校として、京都府私学31校における実態の把握・総括を行う。全国キャリア教育研究協議会に毎年参加し、キャリア教育の提言を各私学へおろし、京都府全体の共通理解と向上に努めている。

2. 京都明德キャリアウィーク

第1学年全員を、主にインターンシップ（職業体験）・スカラシップ（大学入学体験）などに、進路希望に応じて参加させる。平成19年度取組開始より10年が経ち、受け入れ企業は39社から89社に増え、受け入れ大学は2大学から5大学となった。事前指導は、話し方やマナー学習、事業所の方による進路講演、企業担当者との打ち合わせなどを行い、当日に向けた計画・設計能力育成につなげる。事後指導は自らの体験を整理・検証・報告という一連のサイクルを実践するために、研究発表会の場を設定している。プレゼンテーション能力の育成に留まらず、今後のキャリア教育の土台となる取組と位置付けている。この一連の取組を通して、自分自身がどのような人間で、将来どのような職業に就いて生きていくのかを発見させる。また、以後の学内における進路行事への主体性を育み、マッチングの質を高め、希望の進路実現を目指す。

3. 産業界との連携事業

- ① 平成25年度より学園祭にて地元ホテルとの共同企画による商品販売を続けている。毎年地域の方にも好評で即完売となる商業科1年生の代表的な取組となっている。また、平成29年度はこれを拡大し、商業科2年生の授業の中で、同様の取組を行う。
- ② 平成28年度、「京都逸品展「京の食」香港トライアル」に他2校と参加。地元企業より仕入れた桜の花漬を商品研究・試食・販売の練習を重ね、香港にて生徒達が実演販売を行った。商業科の生徒達の参加は、地球規模の視野で世界の職業人に触れ、地域視点で京都を振り返る機会となった。

4. 地元の自治体との連携

地元産業発展のために京都市が推進する着物について、授業の中で学び、更に着付け体験として第1学年全体で取り組む。着物への理解を通し、地元への愛着・誇り、自分たちが住んでいる地域への興味・関心につなげる。

<兵庫県>（種別：学校）丹波市立東小学校

推薦理由

当該校では、開かれた活力ある学校づくりに取り組む中で、ふるさとに生きる基盤を培うふるさと教育やその基盤の上に自らの指針を描くキャリア教育を重点的に推進している。その一環として、本県の中学校2年生全員が実施する地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」につなげる取組として、平成17年度から当該校独自の校外学習「ミニトライやる」を実施し、今年度で12年目となる。具体的には、4年生の総合的な学習の時間等に位置付け、

年間を通してキャリア教育を行うなかで、2学期の2日間、学校を離れて地域の事業所で職場体験活動を行う。実施に当たっては、校区内の事業所へ受け入れを依頼した後、児童の希望を基に活動先を決定する。また、児童への事前指導として、児童一人一人の目標を設定させ、ポスターを描いて地域に啓発するとともに、事後指導として、保護者や地域の方を招いた学習発表会を行い、自分自身の学びを振り返る時間としている。昨年度は、保育園や児童館、販売店など14の事業所で実施したが、当該校の取組は丹波市の他の小学校にも広がりを見せており、児童のキャリア形成の基礎を培う取組として定着している。

こうした取組により、児童は校区にある職場で地域住民とのコミュニケーション等を通して、地域のよさに気づき、自分自身を見つめ直し、自分のよいところを伸ばそうとする絶好の機会となっている。また、卒業した子供たちからは、中学校2年生で実施する「トライやる・ウィーク」の際には、具体的に将来の夢や目標をイメージした活動が可能となっているとの声もあるなど、小学校での体験を効果的に活用できている。さらに、児童が事業所へ通所する際にも、保護者や地域の自治振興会から見守り等の協力を得るなど、地域とのつながりを一層深める機会となっている。

このように、当該校は産業界を含めた地域との連携を図り、保護者や地域の方々に支えられながら、自立した社会人・職業人として将来に必要な能力の育成に長年にわたり取り組んでおり、その成果も着実に現れていることから、キャリア教育優良校としてここに推薦する。

<兵庫県> (種別：学校) 西宮市立今津小学校

推薦理由

当該校では、各教科において社会とのつながりを意識した授業展開を大切にしている。キャリア教育の視点からみた「つけたい力」を明確化し、キャリア教育全体計画の中に位置づけ、推進している。学校教育目標を軸に、丁寧な児童の分析、綿密な指導計画と具体的な目標の設定、学年の系統性、教育活動全体の横のつながりを意識した指導を実践している。今年度においては、兵庫県教育委員会のキャリア教育充実事業の協力校として実践事例集の作成に携わるなど、西宮市だけでなく、兵庫県におけるキャリア教育推進の中心的な役割を担っている。

1. キャリア教育推進計画（キャリア教育全体計画）の作成

学校教育目標「未来を拓くまごころと知恵、たくましさ」を基に、「めざす学校像・子ども像・教職員像」の実現のためにキャリア教育目標「他者との主体的な関わりを通して、自分らしさに気づき、夢や目標に向かって自ら学び続ける子どもの育成」を掲げている。さらに、キャリア教育で目指す子ども像として、①学校の全教育活動を通じて「学び」「仕事」「仲間」の三つの作りを密接に関連付けて子どもの全人的な発達を支援するための指導体制作り、②すべての教育活動を通じたキャリア教育の推進、③教育課程への位置付けとその工夫、④働くことの意味や役立つ楽しさが分かる指導の推進、⑤自己の生き方や進路を思い描く指導の工夫を研究の視点として設定し、キャリア教育の推進にあたる。

2. キャリア教育を視点とした「つけたい力」と教育活動のフローチャート作成

総合的な学習の時間、特別活動、教科等、体験活動における具体的な取組内容と育む力を明示し、それぞれの教育活動とキャリア教育を視点とした「つけたい力」の結びつきとを図式化する。

また、作成にあたり、児童の分析、自校で推進している「つけたい力」に関連する学習内容及び取組をまとめる。

3. 総合的な学習の時間におけるキャリア教育年間指導計画の作成（3年～6年）

キャリア教育の視点をふまえ、総合的な学習の時間の中で育てたい力と、単元名及び関連学習について、学年ごとに年間指導計画を作成する。

4. 総合的な学習の時間、実践資料

① 総合的な学習の時間より

- ・「ミントライやる1」5、6年生 ・「EWC活動」

② 教科（国語）

- ・「希望の一步、ぼくらの流儀！～プロフェッショナルの技と魂を胸に、タイムカプセル便を書こう～」
- ・平成27年度 第58回夏季国語教育研修大会実践教室資料

＜兵庫県＞（種別：学校）兵庫県立尼崎工業高等学校

推薦理由

本県教育委員会では、子供たちの発達段階に応じて教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を支援するため「キャリアノート」を作成し、学校におけるキャリア教育を支援している。

兵庫県立尼崎工業高校では、『自立し、産業界の未来を担うしなやかな対応力と豊かな創造力を有する生徒の育成』というミッションの下、指導の平準化を目指して「高校生キャリアノート」を本校の実情に合わせてアレンジし、その活用を通して見えてくる課題を精査しながら検討・改善することで工業高校におけるキャリア教育の在り方を追究する取組を実践している。

【取組の内容】

〔キャリアノート〕

本校オリジナルキャリアノートを活用し、3年間のキャリアプランに基づく年間計画を作成している。工業高校に入学してきた生徒に必要な能力は、自己理解を深化させ、自己有用感を高めることで得られる円滑な人間関係および他者理解の力であり、キャリアノートを活用した取組を通してそれらを考えさせている。

〔インターンシップ〕

平成12年度より希望者によるインターンシップ（3日間）を開始し、平成26年度からは第2学年全員を対象にインターンシップ（5日間）を実施。キャリアノートを用いて、勤労観・職業観の育成やマナーの指導等の事前指導を充実させ、終了後の発表会では、受入企業・団体、学校評議委員にも講評をいただくなど、地域や産業界との連携をより密に行うことで、更なるインターンシップの充実を図っている。

【他校種や地域・産業界との連携】

インターンシップにおける連携だけでなく、地域の産業人との交流機会や地域住民との意見交換の場、小・中学生との交流など、学校外の人との交流の場を設定し積極的に参加させることで、社会の一員として自覚を持たせ、自立するための力を付けるための取組を、地域の特性を加味しながら計画的・継続的に実践している。特色ある取組としては、地域の美術館や劇団と工業作品とのコラボレーションを企画し、相手に作品の意図や制作工程を説明し、理解を得る過程で直面する、現在の学びの意義やコミュニケーション能力の重要性、さらにその先を見据えた柔軟な創造力の育成を図っている。

【取組の効果】

- ・全員が体験するインターンシップにより、社会・職業への移行が円滑になっている。（進路決定率の向上）
- ・狭い範囲の職業観・勤労観の育成ではなく、自らの学びを通じた他分野との連携により、新しい価値観の創出を体現させ、学びに奥行きや広がりがあった。
- ・地域、他校種との交流などを通して、社会の一員としての自覚が促されている。
- ・キャリアノートの活用により、自己理解の深化、自己有用感の向上等が可視化されている。

【他校への普及活動】

県教育委員会が実施した平成28・29年度キャリア教育担当者会（県立高等学校全校参加）においての実践発表、公開授業も実施した平成29年度高校生キャリアノートに関する実践研究会（県立高等学校33校参加）の開催など、当該校の取組は他校の模範となっており、キャリア教育の充実に寄与するところは大きい。

このように、当該校は産業界・地域との連携を図り、生徒の発達段階に応じたキャリア形成の支援の充実に取り組んでおり、その成果も着実に現れていることから、キャリア教育優良校としてここに推薦する。

＜奈良県＞（種別：学校）奈良県立五條高等学校

推薦理由

学校における教育活動全般において、「地域と共にある学校づくり」の推進に向けて、取り組んでいる。また、主体的に他者と協働する意識や地域・社会に貢献しようとする意識を育むとともに、社会人として、求められる知識、技能、態度の育成に取り組むなど、キャリア教育の視点に立った指導を推進している。

1 進路指導・職場見学の推進

就職でのミスマッチを防ぐため会社見学を実施している。

2 地域と連携した職場体験の推進

地域と連携して、図書館司書体験・司法書士体験・看護体験を推進している。

3 医療・看護系インターンシップの充実

生徒のニーズに応えるため、医療・看護系に特化したインターンシップの充実を図っている。

4 地域との協働

地元の幼稚園児や小学生・中学生を招いての体験的な取組を実施している。

(保育所・幼稚園・福祉施設と交流、地域イベント協力など)

5 地域への貢献

自治体の様々な取組を地元と協働で積極的に行うなど、自治体との連携や交流を通して、地域の活性化に貢献している。(地元の清掃活動、合同花づくり、地域ボランティアなど)

今後も地域との連携を図りながら様々な取組を進め、地域がもっている教育力を学校教育に生かし、学校がもっている力で地域に貢献する活動を実施し、県内高校における「地域と共にある学校づくり」の推進校として指導的な役割も期待している。

<和歌山県> (種別：学校) 和歌山県立紀伊コスモス支援学校

推薦理由

5つの視点で「コスモスの具体的目標」を設定

「挨拶・返事」、「清掃」、「金銭」、「道具」、「体力」の観点で、小学部、中学部、高等部における具体的目標を系統的に明示した。全ての指導略案にキャリア教育の観点を記載する欄を設け、学校全体で取り組んでいる。

障害の重い子供にとってのキャリア教育

コスモスでつきたい力(社会のルールを守る力、経済に必要な力、技術を使いこなす力、生活に必要な力、仕事をやりぬく力)を、障害の重い子供の具体的な状況を想定しながら整理し、具体の目標として示した。

保護者ととともに進めるキャリア教育

取組を教職員だけで進めるのではなく、保護者向け研修会の開催やキャリア教育に係る学校通信の発行、家庭での手伝いや役割分担の奨励等、保護者ととともに展開している。個別の指導計画には、子供たちのキャリア発達を支える具体的な目標や支援内容を記載する欄を設け、家庭訪問等の機会を捉えて、保護者と共有を図っている。

進化を続ける作業学習

高等部には、木工、窯業、農園芸、紙工、家庭、製パン、リサイクル、商品管理の8種の作業班があり、地域・産業界等と連携した受注や販売活動等、常に「本物」を意識した取組を展開している。外部講師を招聘することにより、教員の技術向上を図るとともに、生徒にとっては社会人としてのマナーを学ぶ機会にもなっている。また、障害の程度が重度な生徒に視点をあて、学習環境や教材の工夫・改善等、生徒が活動内容を理解し、主体的に活動しやすくするための支援を行っている。

自己評価と他者評価を成長の糧に

中学部段階から積極的に職場見学や職業体験の機会を設け、高等部での現場実習へつなげている。実習の際には、事前・事後における自己評価と他者(教師、事業所)評価を行い、自己理解を深めたり、次の目標設定へつなげたりする機会としている。

<鳥取県> (種別：教育委員会) 南部町教育委員会

推薦理由

南部町では、町立学校すべてにコミュニティ・スクール制度を導入し、地域と共に歩む学校教育・地域との協働による学校づくりを推進している。その取組の1つに「まち未来科」の実践がある。平成26年度から、「まち未来科」を教育課程に位置付けるために、児童生徒・学校・地域の実態把握から取り組み始め、未来を生き抜く子供たちに求められる力として、ふるさと愛着力(地域教育)・社会参画力(シティズンシップ教育)・将来設計力(キャリア教育)・人間関係調整力(コミュニケーション教育)を定め、これら4つの力を育むため「まち未来科」を創設している。その概要は下記の通りである。地域と共に創るキャリア教育を実践していることから、推薦に値す

ると考える。

【ステップ1：方針の明確化】(H26～H27)

◆つけたたい4つの力と学年目標の設定：～未来を生き抜く力を育むために～

- ・各校及び地域代表で町の子供の実態と未来を生き抜くために必要な力を語り合い、南部町独自のカリキュラム開発に挑む。
- ・一体的に育む4つの力のうち「将来設計力」の中核にキャリア教育を位置付ける。
- ・全教職員参加の「まち未来科」研修会を開催し理念・意義の理解と実践への意欲付けを図る。

【ステップ2：実践の可視化】(H28)

◆プロジェクト会議による実践の強化・支援：～学校・地域協働による小中一貫カリキュラムの実現～

- ・「まち未来科」、「しごと☆未来体験」（南部町版職場体験）、「まち未来会議」の3つのプロジェクト会議を運営し、そこでの協議を学習内容・方法の改善、評価規準作成につなげる。
- ・職場体験の見直しを図るとともに、学校・家庭・地域・職場の協働的な取組の展開を支援する。
- ・町の未来をより意識するため「まち未来会議」（生徒による町づくり提言）に地域の多くの方々と共に取り組み、それぞれの役割を考える。

【ステップ3：指導と評価の一体化】(H29～)

◆地域に開かれた教育課程の実現：～子ども・教職員・地域住民が変容を喜び合うことをめざして～

- ・3つのプロジェクト会議が相互に関わり、小中一貫、小・小・中中連携の視点をもって、目指す子供像の実現へ向かう。
- ・人的支援(キャリア教育支援員の配置)により、町全体での「まち未来科」（含キャリア教育）推進の環境をより一層整える。
- ・4つの力を学校評価に組み込み、PDCAサイクルを機能させるとともに、短期的な評価→改善・手立てを地域一体となって積み重ねる。

<鳥取県> (種別：学校) 鳥取県立鳥取商業高等学校

推薦理由

県内唯一の公立商業単科高等学校であり、教育の目指す人物像として「職場の人に信頼され、情熱を持って仕事に励む人」及び「地域の産業経済界をリードし、活躍する人」を掲げている。ビジネス教育を展開する中で発達段階に応じた体験活動によって、望ましい職業観や勤労観を身に付けさせ、将来の社会及び職業生活で自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。1年次「ビジネス体験実習」、2年次「研修旅行での企業訪問・上級学校訪問」、3年次「鳥商デパート」を核として、それぞれの事前事後学習を含め、卒業生による進路別講演会、青年会議所会員による面接指導、マナー講習会、鳥取県商業教育フォーラム、大学見学会、自己表現学習プログラムなど多くの学習項目を企画・立案し、全職員の共通理解を図り、その取組を進めている。

1年次「ビジネス体験実習」は、地域の各企業・事業所と連携・協力を行いながら、3日間の職場体験を通して、今後の自分の課題を確認する活動となっており、2年次「企業・上級学校訪問」は、幅広く産業経済界現場を実際に体験することで、社会とどのようにつながっていくかを考えるきっかけとなっている。3年次「鳥商デパート」は、3年間の学習の集大成であり、オリジナル商品の開発や県内外の企業との共同出店等様々なサービスの企画・運営を通して、ビジネスマナーや企画力のみならず調整・伝達力、決断・実行力等、社会人として必要な様々な力を養う活動となっている。

「鳥商デパート」終了後には部門（経営委員会、店舗等）ごとに総括を行い、次年度の経営に向けての改善提言をまとめ、全校で共有するため「成果発表会」を行うなど、適切に検証し改善を行っている。

また、3年間を通じて取り組んでいる「自己表現学習プログラム」では、1、2年次でSHR時に1分間スピーチを行うことで発表する力を養い、3年次で小論文や面接指導を全職員で行い、就職及び進学に不可欠なコミュニケーション能力、自己表現力を身に付ける等、学校全体での組織的・系統的なキャリア教育の取組となっている。

このような取組の成果は、社会人として求められるコミュニケーション能力や自己表現力を伸ばし、それが就職希望内定率及び進学希望者合格率100%の達成という結果に表れている。

以上の理由により推薦に値すると考える。

<岡山県> (種別：学校) 備前市立日生中学校

推薦理由

17年前から継続的に実施してきたカキの養殖体験活動が、形骸化し単なるイベント的な作業体験になったことから、郷土愛の育成や漁業に対する興味関心の高まりにつながっていないという課題があった。また、生徒は素直で活発であるが、自ら進んで取り組む意欲に乏しく、学力面においても課題がある生徒が多くいた。そこで、平成25年度から、日生町漁協の「アマモ場の再生活動」に生徒が参画する海洋学習を導入し、言語活動の充実、自己肯定感を高める取組の推進を図るとともに、地元への理解・愛着・誇りを育む教育を進めることとした。

○ 総合的な学習の時間の全体計画の見直し

海洋学習を系統的、継続的に実施できるよう、総合的な学習の時間の全体構想、年間指導計画を見直し、1年生は「アマモを学ぶ」、2年生は「アマモを伝える」、3年生は「アマモを考える」をテーマに、漁業関係者との交流や体験活動、事前事後の学習を、教科との関連を図り明確に位置付けた。また、日生町漁協やNPO法人等との連携を図り、生徒が社会的視野の広がりを持てるようにした。

○ 「聞き書き」活動

1年生では、NPO法人共存の森ネットワークと連携し、「聞き書き」活動を取り入れた学習を行っている。聞き書きとは、事前に質問内容を検討し、聞き取った内容をまとめ、発信するという一連の活動を通し、その人の仕事と半生から人生観や世界観を学ぶ取組である。地域の漁業関係者から、それぞれの仕事やアマモ場再生への思いなどについて聞き取り、レポート等にまとめる活動を通して、地域を大切にしたいという意識につながっている。また、2年次にはレポートを基に、新入生にプレゼンテーションを行い、後輩に取組の継続を促している。聞き書きは、2年生の広島研修、3年生の修学旅行でも取り組んでおり、生徒の表現活動への意欲向上等につながっている。

○ 海での体験活動

全ての学年で、海の清掃とともに、流れ藻に着いているアマモの種を取り出し、発芽させ苗にして、海中に植え付ける活動を行っている。種をポットに植える作業については、学区の小学校で出前授業を行い、アマモ場の再生活動を小学校にも広めた。カキの養殖体験活動も継続して行っているが、アマモについての学習により、カキ養殖に従事する人の苦勞や喜びに、これまでより共感できる生徒が多くなってきている。

○ 取組の広がりと成果

笠岡市で同じ活動に取り組む市民グループとの交流や、修学旅行での海洋学習等により、自分たちの活動の良さに気付いたり、今後の取組について考えを深めたりした。また、文化祭で演じたアマモ場再生についての創作劇は、全国アマモサミットにおいて発表し、全国に取組を発信することができた。こうした取組により、地元漁業に対する見方が変わったり、将来漁業を職業としたい、海洋に関する研究に携わりたいと考えたりする生徒が増えてきている。さらに、全国学力・学習状況調査における平均正答率は、これまでは全国平均を下回る傾向にあったが、平成28年度、平成29年度は、全ての科目において全国平均を上回るとともに、家庭学習時間も増加するなど、自ら学習する意欲も高まっている。さらに、中学校区内の小学校や近隣の高等学校との実践的な連携を深め、小中高連携による海洋教育の地域展開にも取り組んでいる。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立林野高等学校

推薦理由

当该校は明治41年創立の普通科高校で、再編整備により、美作市内唯一の高校となった。中山間地域にあって、将来、地域社会を支え、地域の中核となって活動する生徒の育成を目指し、「地域に学ぶ」「地域の歴史や魅力を知り、課題を発見し課題解決の方法を考える」をテーマとして、総合的な学習の時間「MDP(マイ・ドリーム・プロジェクト)」活動を軸に、継続的・発展的にキャリア教育を推進している。また、社会貢献活動として学童保育ボランティアや夏休み学習支援ボランティアを行う等、幼稚園・小学校・中学校など他校種との連携を図っている。

○ 「MDP」による地域課題解決型の組織的・系統的なキャリア教育の実践

年次を越えたグループでの地域課題解決型の探究学習を、ESDの視点も取り入れながら行っている。MDP委員会を設けて、組織的・系統的に取り組み、簡単には解決策が見つからない問題について、地域との連携を

図りながら取り組み、社会人として必要な問題解決能力・コミュニケーション能力などを育成している。

「地域に学ぶ・地域を学ぶ」ことからスタートし、「地域の達人講座」で地域の人から助言を受けたり、課題解決の糸口を見付け具体的な方法を検討したりしながら、生徒が企画して町内会や美作市、近隣の学校とも連携して行う「むかし倉敷ふれあい祭り」でその解決策を検証、12月の実践報告会で成果と課題を発信、共有する。

生徒アンケートでは「地域の課題解決のため活動したか」79%、「MDP活動は、生きる力の伸長や一人一人の進路実現に役立っている」76%等、MDP活動への肯定率は高く、地元への理解、愛着の高まりが見られる。

○ 地元企業や地域、自治体等との連携によるキャリア教育の推進

- ・ 県内産業見学ツアーによる地元企業との連携

平成28年度から新たに、1年生全員が1人2社の近隣企業の訪問を行った。近隣企業を見学することにより、早い時期から県内企業の果たす役割や魅力を学び、地元への愛着や誇りを育み、「働く」ことに対する意識を持たせることができた。平成29年度にも、地元自治体の企業説明会に希望者が参加するなど、地元企業との連携を継続している。

- ・ 地元の企業や自治体と連携したキャリア教育の推進

地元の企業団地や自治体が主催するイベントにボランティアとして参加し、ブース等を担当して、企業の業務内容や子育て政策を理解するとともに、その内容等を積極的に地域住民に発信する役割を担って、キャリア意識の向上に努めている。

- ・ 学校設定科目「みまさか学」による地域や自治体との連携

地域をフィールドにした探究活動や美作市役所や地域の人を外部講師とした講義や助言を通して、地域への理解を深め、課題解決能力を育成し、ビジネスプランの立案や政策提言等を行う。地域や自治体等との連携による地元への理解や愛着が育まれるとともに、生徒は企画力や地域にイノベーションを起こす力などの伸長を実感している。

<広島県> (種別：学校) 坂町立坂小学校

推薦理由

当校は、「志を立て、社会で活躍する児童の育成」を学校教育目標として、キャリア教育全体計画、各学年で年間授業指導計画を立て、キャリア教育に係る教育活動を位置付け推進している。

具体的な取組としては、地元企業や自治体等と連携した取組が挙げられる。例えば、第5学年では、地元企業の地域支援事業「こどもみらいプロジェクト」を活用してお米作りの体験をしたり、広島県広島港湾振興事務所の工事見学会で保護者でもある事業責任者から説明を受けたりしている。各学年とも、地域人材の活用や、地域の小・中学校教員が作成した社会科副読本を基に、実際に地域で活動する学習を系統的に取り入れており、児童の地域への理解や愛着は極めて高い。毎年、PTAと地域と児童がもちつき大会を開催し、地域の方へ配付し、感謝の気持ちを届けている。平成28年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙で「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国39.1%に対して本校は62.3%、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」では、全国36.2%に対して当校は43.5%だった。

職業体験については、発達段階に応じ、社会見学として系統的に教育課程に取り入れている。第6学年の修学旅行では、関西地方の職場体験学習施設を訪問して様々な職業体験を行うとともに、学んできた成果や気付きをまとめ、掲示することで下級生に発信している。

第2学年では、坂中学校第3学年生徒から、大雨や土砂災害の警報が出て、児童が学校から帰宅できなくなったことを想定した、避難施設での過ごし方について体験的に学ぶ機会をもつなど、中学校と連携した取組も行っている。

校内においては、児童会による縦割り班活動を一年間通して実施し、高学年には自己有用感を、低学年には数年後の目標を育むことにつながる取組をしている。また、坂町の全ての小・中学校で実施している9年間を通した「坂町授業システム」により、授業において協働的な学びを進めており、人間関係形成能力を育成している。

以上が推薦する理由である。

<広島県> (種別：学校) 呉市立広南中学校

推薦理由

当校は、未来を創る力として育成すべき7つの資質・能力を設定し、この「資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動を積極的に推進している。

キャリア教育においても、総合的な学習の時間を中心に教科等を横断したカリキュラムの開発を通して創造的な実践を行っている。

特に、基礎的・汎用的能力の1つ「課題対応能力」にこれまで十分に組み込んでいなかったことに着目し、当該校で掲げる資質・能力「挑戦心・探究心」と関連付けながら、主体的に課題を発見していく力や創造性を育むカリキュラムを開発している。

<4年間の実践の経緯、改善した取組>

- ① 総合的な学習の時間における「生き方学習」として、単元「運命の仕事に出会うために」では、国語科と連携し、運命の本としてあえて興味のない職業にも向き合わせ、広く深く職業的視野を広げ、主体的な自分の職業選択へ向けての考え方を模索する。
- ② 夏季休業中の5日間の職場体験を実施する。
- ③ 総合的な学習の時間の「ふるさと学習」として、単元「社会貢献PROJECT」において、地域と協力した起業体験に挑戦する。その中で、事業アイデア、商品開発の検討といったイノベーションの原体験を行う。例えば、校内に設置している地域で産出した巨大岩石標本から、理科で地域の地質を学び、その岩石をモチーフにクッキーをデザインし、企業と共同しながら商品開発を行った。また、伊藤博文が師と仰いだ地域の明治維新の思想家をキャラクターとして開発した。販売の利益は、災害等への寄付金として拠出した。地域課題である過疎化に、多面的な視点から地域と一体となって一石を投じた試みの一つでもあった。

<成果>

課題発見・解決学習に関する生徒アンケートの肯定的評価が88%（各項目平均）と目標値（70%）を上回った。また、「自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる」が、95%（昨年度79%）、「将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強する」が97%（昨年度93%）と肯定的評価が増加した。新たなものを創り上げることに喜びを見いだす生徒が増えるとともに、地域からの評価も高い。

当校の創造的で継続した取組とその成果は、呉市のキャリア教育を牽引するものであり、全国にも発信、普及できる実績があることから、当該校をここに推薦する。

<広島県> (種別：学校) 広島県立大崎海星高等学校

推薦理由

当校のある大崎上島は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する、橋の架かかっていない離島である。瀬戸内の温暖な気候に恵まれた自然豊かな島であるが、人口減少が続いており、およそ30年前の昭和60年には約14,000人であった人口が、現在はその60%弱に当たる約8,000人まで減少している。さらに、高齢化率も46%を超えており、少子高齢化が進む地域である。

当校は、大正8年に設立された木江工業高等学校と昭和2年に設立された大崎高等学校を統合し、平成10年度より校名が大崎海星高等学校となり、総合学科としてスタートした。その後、平成22年度に学科改編により普通科となり現在に至っている。現在の在籍者数は88人であり、ピーク時の4割程度に減少している。これまでも、大崎上島町からの支援の下、多くの地域関係者及び教職員による学校の魅力化に向けた取組が行われてきたが、生徒数の減少は続いている。平成26年2月に広島県教育委員会より発表された「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」に基づき、平成26年度より大崎上島町長を会長とした「大崎海星高等学校活性化地域協議会」を立ち上げ、学校の魅力化に向けた施策について様々な視点から議論し実施してきた。育成すべき生徒像を、『「大崎上島」で学んだことに誇りを持ち、胸を張って「大崎上島」を語り、高い志の下、多くの人々と協働して、「大崎上島」を活性化するための「新たな価値」を生み出すことのできる生徒』とし、地域と協働した地域課題発見・解決型キャリア教育を展開している。特に、地域おこし協力隊を活用した大崎上島町が運営する公営塾の設置、大崎上島の自然・歴史・文化等を教材とした主体的な学び「大崎上島学」の展開、地域との多様なプロジェクト活動を柱とし、大崎上島町からの多大な支援の下、学校の魅力化を図っている。また、グローバルリーダー育成

校の誘致、アトランティック大学の誘致計画等、「教育の島」としてブランド化を図る大崎上島町の県立高校として、その一翼を担う活動を実施している。

1 公営塾「神峰学舎」

自律学習を目指し、各生徒の進路希望等に応じた個別のカリキュラムを作成し教科指導を行うとともに、教員との週1回のミーティングを行い情報共有を図っている。また、教育内容と連動したキャリア教育「夢☆ラボ」を展開し、学習意欲や志を育てる取組を実施している。

2 総合的な学習の時間「大崎上島学」

平成28年度入学生より、各年次1単位を設けて実施している。時代の潮目を読みながら、自分たちの持っている技術を変化・対応させてきた歴史の残る瀬戸内海の「匠」の島である大崎上島を舞台とした学びを、以下の3点を柱として展開している。

(1) 「羅針盤学」

自分の中にあるがまだ言語化されていない自分だけの羅針盤（自分軸、選択軸）を、360°評価、ジョハリの窓、ライフストーリーチャート等のツールを利用して追究する。（1年）

(2) 「潮目学」

社会の各分野・産業における歴史と法則性を、フィールドワークを通して学び、現状の問題に対していかに対処すればよいのかを考えることで課題発見・解決する力を身に付ける。（2年）

(3) 「航界学」

生徒自ら地域課題を発見し、解決策を考え実行するとともに政策として町への提言等を行うことを通して、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。（3年）

3 地域とのプロジェクト活動

生徒が地域へ積極的に出ていき、地域の方々から多くのことを体験的に学ぶとともに、生徒が輝く姿を地域の方々に見ていただく目的で、様々なプロジェクト活動を実施している。また、地域のニーズに応じたボランティア活動も積極的に実施している。

このような活動をとおして、生徒の自己肯定感が高まるとともに、大崎海星高等学校の認知度アップにもつながっている。

(1) 「島の仕事図鑑」の作成

大崎上島町商工会が主導し、定住・移住促進のため、島の仕事を紹介するパンフレットの作成に協力した。一昨年の第1弾では、生徒はU・Iターンした28人の方へのインタビューを担当し、大崎上島の新たな魅力を発見する契機となるとともに、職業観を醸成する体験活動となり、県教育委員会教育長より高い評価をいただいた。また、平成27年度は、島の基幹産業を紹介する第2弾「造船・海運」、第3弾「農業」の作成に当たり、生徒はインタビュー・写真撮影を担当した。平成28年度は、大崎上島町内にある広島商船高等専門学校の生徒と協働し、第4弾「地域福祉編」を作成した。同じ島内にある学校と行う初めての協働プロジェクトであった。同じ地域にある学校が協働し、課題に取り組む第一歩となった。

(2) 「旅する樞伝馬」に参加

「旅する樞伝馬実行委員会」が主催し毎年実施している「旅する樞伝馬」に、大崎海星高校として参加した。2つの世界遺産（原爆ドーム・厳島神社）を樞伝馬で巡る90kmの旅（1泊2日）が、島内の樞伝馬を愛するの方々により毎年行われている。実行委員の方から参加の依頼があり、生徒18人が参加した。生徒は、伝統・文化の担い手としての自覚、大きな達成感を得るとともに、チームワークの大切さを学ぶことができた。

(3) 各種デザインプロジェクトに参加

(4) 「オキウラマルシェ」 「Reverse Graffiti」に参加

(5) 「もちつき大会・子育てサミット」の実施

(6) 「造船の島アイデアソン」の参加

(7) 「瀬戸内島嶼部5校合同研修会」の開催

(8) アショカU認定校大学生等の「サマースクール」に参加

(9) 島内での祭り等への参加

(10) 各種ボランティア活動に参加

魅力化施策実施に係る組織体制については、施策の戦略を練り、評価方法を考え、振り返りを行う目的で、平

成 27 年 2 月に「大崎海星高校魅力化推進チーム」を立ち上げ、原則毎週 1 回のミーティングを行っている。思ったことは必ずアウトプットすること等、ボトムアップを徹底するとともに、外部の地域コーディネーターもメンバーに加え、活力あるチームとして機能するよう工夫している。また、各魅力化施策について、担当者を決めて責任体制を明確化するとともに、各施策について施策シートを作成し、期待される効果・評価指標・スケジュール・成果と課題等が共有できるよう工夫している。

以上のように、当該校と大崎上島町の協働による地域課題発見・解決型キャリア教育の展開事例が、今後日本で加速化することが予想される少子高齢化という課題の解決に当たり、優れたモデルとなることから推薦する。

<山口県> (種別：学校) 萩市立明倫小学校

推薦理由

当該校では、当該校及びふるさと萩への誇りをもち、志を抱いて、ふるさとに貢献できる人材の育成をねらって独自の実践をしてきた。中でも松陰教学（松陰先生のことばや生き方から立志や勤労などについての精神を学び実践に移す）は当該校の伝統として根付いている。また、一昨年、コミュニティ・スクールに指定されてからは、学校・家庭・地域の三者が課題を共有し、学校課題や地域課題を協働して解決していく仕組みが整ったことで、児童の地域への関心・理解・愛着・誇りなどが一層高まってきた。具体的な取組の一端を以下に記す。

1 課題を三者で共有し、PDCAを家庭・地域と共に進めていく仕組みの確立

A アンケート結果などから学校や地域の課題を共有する

P 学校運営協議会で課題解決の方向性を示す

D 三者からなる 5 つのプロジェクトが課題解決に向けた取組を推進する

明倫教育プロジェクト、学力向上プロジェクト、心の教育プロジェクト、体づくりプロジェクト、環境クリーンプロジェクト

C アンケートを実施する

2 「地域全体で取り組むあいさつ運動」(全校) …心の教育プロジェクト

少子高齢化の波で地域の元気もなくなっている。学校としての地域貢献の意を込めて、児童の元気なあいさつで地域を活性化させたい。

6 月：地区懇談会で熟議（保護者、町内会長、見守り隊、地域住民、教職員他）

「あいさつでさらに地域がつながるために」～地区のあいさつのめあてを決めよう～

8 月：子供と大人の熟議（各地区児童代表、保護者、町内会長、老人会長、民生委員、児童委員、見守り隊、学校運営協議会委員、地域住民、教職員他）

「あいさつのめあての振り返りと、課題解決の具体策」

3 「お店のよさを伝えるポスターを作ろう」(2 年生生活科) …明倫教育プロジェクト

身近な商店街の様子や状況を知り、感謝の気持ちを込めて、お店のよさをポスターに表し商店街の活性化に貢献する。

6 月：町探検に出かけ、商店街を歩く（田町商店街）

「商店街にはいろいろな店があるね。」

10 月：商店街に行き、お店を見学（各お店）

「このお店すてきな。」「多くの人に知ってほしいな。」「ポスターを作っては？」

1 月：見学したお店のポスターを作って、プレゼント（各お店）

「すぐに貼ってもらえた。うれしいな。」「喜んでもらえてよかったな。」

4 「ふるさと萩のよさを紹介しよう」(4 年総合学習) …明倫教育プロジェクト

ふるさと萩について調べ、調べた名所、人物等をパンフレットまとめ多くの人に発信する。また、萩市観光協会との連携により、作成したパンフレットを観光客用として市内各所に置く。

5 月：調べ学習（保護者<参観日>、萩博物館、萩・明倫学舎、地域住民他）

～名所、偉人、特産物、行事の 4 分野でグループ分け～

6 月：パンフレット作り（保護者<参観日>、地域住民他）

7 月：作ったパンフレット 19 種類 360 部を観光客などに手渡す（市観光課、観光客、地域住民他）

8 月：パンフレットを 1,900 部増刷（市観光課、萩市観光協会）

5 「ヨイショコショパレードに参加し盛り上げよう」(6 年学年 P T A) …明倫教育プロジェクト

萩市の伝統的な踊りであるヨイショコショを学び、萩夏まつりに親子で参加する。
7月：ふるさとの踊り「ヨイショコショ」の練習（市観光課・ゲストティーチャー）
8月：萩夏まつりのヨイショコショパレードに参加（6年親子、PTA、市観光課、ケーブルテレビ、教職員）
これらの取組は、ふるさとへの理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れており、キャリア教育優良学校としての推薦に値するものである。

<山口県>（種別：学校）山陽小野田市立厚狭中学校

推薦理由

当校は教育活動全体を通してキャリア教育の充実を図るということを継続して取り組みながら全教職員が共通理解しており、多様な教育活動がキャリア教育の向上を図る体験の場として捉えている。指導案の中に「キャリア教育に関する視点」を組み入れ、人間関係形成能力の育成を図るための活動を意識的に導入してきた。

その取組の一つとして昨年度、山口県内の公立中学校で初めて『カタリ場』を実施した。『カタリ場』は、首都圏を中心に展開されている『高校生の心に“火を灯す”授業』で、高校生が、様々なロールモデルの生き様から、夢の実現・自己実現に向けての意識や、実現の為の学習意欲を喚起しようとするプログラムである。

大学生や若い社会人というちょっと年上の「先輩」から、辛い経験も将来の自分に役立つなどの経験談を聞き、また夢や受験、友達関係等に関する様々なアドバイスを受けることで自己肯定感、積極的に生きる意欲、夢等を育もうというものである。

『ちょっと年上の先輩』の経験談を聞いたり、対話をしたり、という活動は、大変有益で、間違いなく、熱意ある『先輩』によって生徒の「心」に「火」が灯った。ほんの数年前は中学生・高校生であった『先輩』だからこそ、生徒も身近に感じ、話が弾み、魔法にかかったように悩みも口にしてしまう。軽くなった心に勇気をもらい、目標に向けて頑張ろうという意欲をもたせてもらった。

今年度は、「中学生の心に“火を灯す”授業」から一歩前進し、「子どもと大人の心に“火を灯す”授業」というキャッチフレーズで厚狭版『カタリ場』を実施した。

「厚狭の子が将来地元を選ぶための“種まき”という趣旨のもと、『対話』相手として、大学生（山口市中心）だけでなく、地元の大人も参加した。地元の小・中学校のPTAの元役員、美容師、飲食店や会社の経営者、地元FMラジオパーソナリティー、銀行員など、多方面からの協力を得た。「こんな素敵な大人が厚狭にいるんだ」と体感することによって、たとえ、中学・高校卒業後に県外に出てしまっても、専門知識や技能を身に付けて、山口県へ、更には厚狭へUターンする種を蒔くために、中学生に地元の大人の魅力に触れる機会を設定した。その方々と語り合う生徒の表情は、大学生ボランティアだけだった昨年と変わりなく生き生きとしており、地元厚狭への理解・愛着・誇りを育む活動となった。

昨年度の感想に「機会があれば、カタリ場の生徒ではなく、先輩として後輩にいろいろ自分の人生についてカタリたいです。」というものがあつた。今、厚狭で学んでいる子供たちが、大人になり、自分がしてもらったように、「先輩」として、将来の厚狭の子供たちの成長に関わる。そんな形が出来上がれば素晴らしい。

学校におけるキャリア教育を通して、「地元愛」を育む『先輩』から『後輩』への循環を構築しようとする当校の取組は、山口県が進める「やまぐち型地域連携教育」の趣旨にも合致するものであり、キャリア教育優良学校として推薦する。

<山口県>（種別：学校）山口県立西京高等学校

推薦理由

当校は、創立32年目を迎える普通科と商業系学科2学科からなる大規模校である。普通科には県内で唯一の体育コースを有することもあり、生徒の進路は多岐に渡っており、キャリア教育を学校運営の重点目標の一つに掲げ、以下のとおり様々な取組を工夫しながら推進している。

また、本年度からコミュニティ・スクールの指定を受け、従来から積極的に取り組んできた地元「平川地域」や幼稚園・小学校・中学校・大学等と連携した活動について、キャリア教育と密接に関連付けながら更なる工夫と充実を図っている。

このように継続性のある優れた取組や功績が認められることから、キャリア教育優良学校として推薦する。

1 志を抱かせる教育の推進

- 大学生等とのディスカッション
生徒が年代の近い大学生等と自分の将来などについて、小グループに分かれてディスカッションを実施（本年度で3回目）。
- 「高校生熟議」
当該校PTAと共催、山口県公立高等学校PTA連合会の後援の下、生徒の主体的思考力やコミュニケーション能力等を養うとともに生徒達が地域との協働を視野に、地域と共にある学校の在り方・若者の姿をディスカッションすることで、自己有用感を高め、将来に向けての「やる気スイッチ」を育てることを目的として実施（本年度で3回目）。
- 講師を招聘したセミナー
国際的に活躍している研究者、職業人等を講師として招聘し、国際的な職業への関心を喚起し、グローバルに活躍できる人材育成に資するために実施。
 - ・平成28年度：落語家による英語落語の鑑賞会及び英語落語を始められた経緯やその思いについての講演会
 - ・平成29年度：当該校卒業生のピアニストによるピアノリサイタル及び海外生活（ロシア等）経験に基づく講演会

2 インターンシップの推進

- 商業系学科を中心とした体験型インターンシップ
実習先は、民間企業をはじめ、図書館や市役所等の公共機関及び幼稚園、保育園、介護施設など、生徒の希望に対応するため多岐にわたる。
- 地元小・中学校でのインターンシップ
主に普通科の教員志望の生徒を、地元小、中学校が受け入れ。

3 地域や小・中・大学等と連携した交流活動やボランティア活動

- 親子ふれあいクリーン作戦（春と秋の2回）
高校前の「九田川」の清掃活動に寮生や生徒会が参加。
- 平川ランニング教室（冬期休業中）
陸上部と平川コミュニティ、小・中学校等が連携し実施。
- 届けよう、服のチカラプロジェクト（生活科学部）
生徒が主体となって、着なくなった子供服を回収して、世界中で必要としている人々に届ける活動に参画。
地元コミュニティ推進協議会が回収に協力。
- 地元企業と連携した商品開発
地域と協働した「元気になるレシピ」（地産地消）の作成など。
- 地元の祭りへの参加（展示・販売等）

4 「平川学園」が連携したキャリア教育の実施

（平川地域にある幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、大学との連携）

- 西京高校と走ろう会
幼稚園と西京高校の間を平川コミュニティがつないで、幼稚園の親子持久走大会である「走ろう会」を、当該校普通科体育コースとコラボして西京高校を会場として開催。
- ひらこや（夏季休業中）
小学校児童の「夏休みの宿題」を手伝い。
- 小・中学校でのインターンシップ
教員志望の生徒を、小学校、中学校が受け入れ。
- 特別支援学校と連携した活動
平成29年度より、当該校体育コースを中心に卓球バレー、ボッチャ、風船バレー等の障害者スポーツを通じて交流。
- 大学と連携した活動
 - ① 学力向上支援員
教員志望の大学生が、当該校の授業を支援。生徒の学力向上に資するとともに、学生にとっては教員になるための貴重な体験となっている。

② 留学生との交流（商業科）

ビジネス英語の学習深化のため、大学に出向いて留学生との交流を実施。

5 コミュニティ・スクールの取組

従来から取り組んできた地元平川地域との連携を更に強化し、「学校を核とした人づくり・地域づくり」、「地域と地域を『つなげる』学校」を実現するため、平成29年度からコミュニティ・スクールを導入。上記取組の他にも、「田んぼアート」や「地産地消レシピ作り」等、当該校主体の地域と連携した活動も種々行っている。

<徳島県>（種別：学校）鳴門市第一中学校

推薦理由

平成28年度 文部科学省「小・中学校等における起業体験推進事業」における研究指定校

新しい価値を創造し、何事にも意欲的に取り組む生徒の育成、協働的に課題解決に取り組む生徒の育成、探究的な実践を行い、その成果を表現できる生徒の育成を目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、各教科や道徳、特別活動と関連付けた指導計画を作成し、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。

具体的な取組

1 起業体験活動

徳島ニュービジネス協議会と連携し、グループごとに、商品開発案、事業計画書作成等の体験を実施した。また、学んだことの成果と課題を共有し合うため、学級発表会及び学年発表会を開催した。

2 地元企業と連携した商品開発・販売実践

地元の事業所（うどん店及び和菓子店）と連携し、地域の特産品である「鳴門金時」を活用した「一中大福」、「一中ういろう」や、「鳴門わかめ」を活用した「一中わかめうどん」の商品開発を行うとともに、地域の「大道銀天街」での販売実践を実施した。

成果

取組の成果としては、生徒は課題に対して最後まで粘り強く取り組む態度が身に付くとともに、自ら企画する楽しさに気付くことができ、他者と協働することの意義について学ぶことができた。また、地域や産業界との連携が強くなり、組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進しており、今後の発展が期待できる当該校をキャリア教育優良表彰校として推薦する。

<徳島県>（種別：学校）徳島県立鳴門渦潮高等学校

推薦理由

平成28年度 文部科学省「小・中学校等における起業体験推進事業」における研究指定校

これまで総合学科を中心に展開してきたキャリア教育の基盤を踏まえ、地元商店街・企業等と連携した活動を展開するとともに、当該校が経営する店舗「UZU cafe」の活性化を図ることにより、将来、地域創生に貢献できる起業意欲を持った生徒を育成するキャリア教育を実践している。

具体的な取組

1 地域の人材から学ぶ授業の実施

地域の様々な分野で活躍する職業人から人生観を学ぶとともに、地元の商店街や企業と連携し、魅力ある店舗の在り方について学習した。また、地域の職業や企業を理解するために、職業人へのインタビューを行い、レポート作成や発表会を通じて、生徒全員で共有した。

2 地域と連携した地元商店街活性化の取組

商店街活性化事業を地元と協働し、当該校が経営する店舗「UZU cafe」を活性化させるとともに、「イス1グランプリ」、「百円商店街」、敬老の日イベント等を企画した。

成果

取組の成果としては、起業する基盤となる地域の自然・歴史・文化・産業についての理解を深めるとともに、企業倫理や職業観・人生観の育成につなげることができた。また、将来の地域を担う人材としての基盤を育成することができた。組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進しており、今後の発展が期待できる当該校をキャリア教育優良表彰校として推薦する。

＜香川県＞（種別：学校）さぬき市立さぬき南小学校

推薦理由

当校は、平成27年度4月に旧松尾小学校と旧富田小学校の2校が統合し新設された学校である。キャリア教育については、統合前の各校の長年にわたっての取組を継承・発展させるとともに、新たな実践を加え、地域・産業界等が一体となった取組みの充実を図っている。特色ある取組としては、22年間継続して実施している職場体験活動のほか、地元大学と連携した研究開発体験活動などがある。

1 地元事業所と連携した職場体験活動

6年生全員が、個人の希望に応じて、校区内の事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実践について体験したり、働く人々と接したりする学習プログラム。平成7年に旧富田小学校の6年生が取組をはじめ、その後毎年継続しており、今年度で22年目になる。校区内15箇所の事業所の協力を得て、毎年9月頃に、1日間の日程で職場体験を行っている。児童は、当日の体験だけでなく、事前事後の学習を通して、働くことの意義を学ぶとともに、社会的なルールやマナーを体得したり、事業所に対する理解を深めて地元への愛着や誇りを持つたりすることができている。

2 地元大学と連携した研究開発体験活動

6年生全員が、徳島文理大学香川校を訪問し、大学ではどのような研究をしているのか、研究者はどのようなことを考えて仕事をしているのかなどに触れ、豊かな心と知的創造性を育むというプログラム。平成27年からスタートし、今年度で3年目になる。体験する研究は主に科学技術に関する最先端研究分野で、医療工学やロボット工学、遺伝子工学、薬学などがある。科学の不思議さや研究の楽しさに触れ、学校の学習意欲の向上にもつながっている。

3 演劇的手法を活用したコミュニケーション能力の育成

3年生以上の児童が、プロの演出家の指導の下、演劇ワークショップを体験し、一人一人の社会的自立に向けて必要なコミュニケーション能力を育むプログラム。平成28年度からスタートし、今年度で2年目になる。今年度は、高学年において、各クラス90分×4回の体験を実施中。役割分担や見立て、ルールづくり、折り合いをつける体験などもでき、他者と共に創造する力を育むことができている。他人とうまくなじめない児童も、自然と自己表現ができ、自信がついてきている。

4 本物に学ぶ授業

全校児童に、一流の技を体験する機会をプレゼントしようと、PTAの協力を得て、毎年「本物に触れる授業」を開催。オリンピックイヤーだった昨年度は、北京五輪男子4×100mリレー銀メダリストの朝原宣治氏を招いて、全校児童対象の陸上教室を開催。陸上の実技指導に併せて、学ぶことや努力することの大切さについても話をしていただき、児童はその尊さを実感できていた。今年度は、音楽家の青島広志氏を招いて授業を実施する予定。

5 ボランティア活動の推進

児童会役員を中心に、全校児童が取り組むボランティア活動を推進している。特に、統合前の両小学校が取り組んできたアルミ缶を回収活動は、伝統的な取組みとして大切にしており、その収益金で購入した車椅子などを地元の老人福祉施設に寄付して喜ばれている。このほか、学校生活や家庭生活の中に「喜ばせごっこ」と称するボランティア活動を取り入れ、働くことの意義を実感できるようにしている。平成28年度の児童意識調査では、「私は、まわりの人の役に立ちたいと思う」と回答した児童が全校児童の91.1%、「私は、まわりの人から感謝されたことがある」と回答した児童は全校児童の88.7%となっており、児童の自己有用感が徐々に高まっている。

＜香川県＞（種別：学校）坂出市立坂出小学校

推薦理由

坂出市は昔の製塩地で港町として栄えたが、塩田文化の衰退と近年の車社会の発展で大型量販店が郊外に建設されるなどの影響で、商店街は、空き店舗率が県ワースト1位となってしまった。そこで校区に商店街を有する当該校の前身である中央小学校が商店街を元気にする目的で、今から11年前に模擬店「パワフルマーケット」を始めた。さらに、職場体験学習についても統合される1校であった西部小学校で今から12年前にスタートしていた。

平成 22 年に両校を含む 3 校が統合され、当該校が開校した。各校の特色ある取組を融合し、第 5 学年で職場体験学習、第 6 学年でパワフルマーケットをキャリア教育の充実を推進する目的で、地域の企業や自治体、地域団体と協力し行っている。

近年、起業家精神の重要性が叫ばれる中、当該校も 6 年の総合的な学習の時間のテーマを「坂出小キッズアントレプレナーシップを身に付けよう～」とし、模擬会社を設立し、「市場調査」「商品の試作」「広告宣伝」「商品デザイン」「決算」等、具体的な販売や宣伝の方法や販売価格・数量の設定などを行っている。そのために、身近な産業や職業について、地元産業を中心に聞き取り調査をしたり、インターネットなどで調べたりして、各部署で自分たちの事業を計画的に進める活動を行っている。その際、校区にある商業高校と「小高連携」をし、高校生から接客の仕方や宣伝効果の高め方、POP 作りなどを教わる活動を通して技能を高めていった。また、商業高校が行っている模擬店にもいっしょに参加させていただき、実際の活動の中から学ぶことができている。また、近年では、社会貢献を考えることを大切にして、収益金を被災地や世界の子供たちの命と健康を守るために寄付する活動を行っている。具体的には、平成 23 年度はユニセフ、平成 24 年度は東北支援、平成 25 年度はルワンダ支援、平成 26、27 年度は東北支援、平成 28 年度は東北・熊本支援と広島市の平和維持活動のために、それぞれ支援活動を行っている。

<香川県> (種別：学校) 香川県立高松商業高等学校

推薦理由

当該校は、「至誠、剛健、協同、勤労、敬愛」の校訓の下、「会計、情報、英語の活用能力を育て、時代をリードする高商」をスローガンに、社会の変化に主体的に対応できる 21 世紀を生きる人材の育成に努めている。

1 就職内定率 10 年連続 100%達成

卒業生の 2 割程度が就職を希望し、県内企業にそのほとんどが就職している。10 年連続での就職内定率 100% を実現し、地域に貢献する人材の育成に努めている。部活動で培った忍耐力やコミュニケーション能力は企業からも期待されており、そのため離職者も極めて少ない。(平成 25 年度新規学卒就職者の 3 年以内の職場定着率 97.7%) (過去 10 年間合計) 卒業生数：2,960 名、就職者数：498 名、平均就職率：16.8%

2 インターンシップによる職業理解

2 年商業科専門パターンの生徒を対象に県内 47 事業所においてインターンシップを実施しており、生徒自らがアポイントメントをとり実習受入の承諾をもらう当該校独自の形式を採用している。また、事前に外部講師による「マナーアップ研修」を受講して意識の向上を図っている。

3 商品開発等の充実

3 年商業科専門パターンでの課題研究の授業では、地元企業と連携した商品開発・販売実習を実施している。また、平成 27、28 年度には選択科目「電子商取引」の授業で「楽天 IT 学校」に取組み、県内の靴販売会社の Web ページ作成や商品開発を行い、専門科目の興味・関心を高めている。

4 地域等の教育力の活用

平成 29 年度県教育委員会の指定（「かがわの高校アクションプラン」）を受け、地元企業等で活躍している卒業生による講演会の実施や県内大学講師による出前授業など大学との連携により、自己探求と進路意識の高揚を目指している。また、就職 2 年目の先輩 3 名から自らの受験体験等を聞く機会を設けたり、ハローワークと連携した地元企業の高校内企業説明会を実施したりすることで、職業観を形成している。

5 各種資格・検定取得の推進

全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定や珠算・電卓検定などの、各種資格・検定を積極的に取得させるため、課外等個別指導を充実させ、合格率の向上と専門知識の向上を図っている。平成 28 年度実務特級は商業科 94 名、英語実務科 2 名である。

6 新規学卒者のための支援

新規学卒者（卒業して 1 年以内）について、就職指導の担当者等が就職先を訪問し、状況把握を行うとともに悩みの相談を受けるなど、職場定着に向けたサポートを行い、早期離職防止を図っている。

<愛媛県> (種別：学校) 松野町立松野中学校

推薦理由

当校は、望ましい職業観・勤労観を育み、地域の担い手となる生徒を育成するキャリア教育を全教育活動を通して推進している。特に、3年生における起業家教育を前提に、特別活動や総合的な学習の時間を核とした特色あるキャリア教育を進めている。起業家教育に取り組んで3年目を迎え、これまでの取組を検証しながら、改善を加えていき、生徒の協働性や社会性を更に高めている。また、キャリア教育の目指す社会的・職業的な自立に向け、基礎的・汎用的能力の構成要素である人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成につながる意義ある取組となっている。

○ 起業家教育を取り入れたキャリア教育の推進（3年生）

- ・第1期・模擬会社設立に当たって必要なことを調べる学習

職業や自分と社会とのつながりについて知る学習であり、地域の商工会や教育委員会と連携し、外部の人材による講演等を行い、意識を高めている。

- ・第2期・模擬会社設立を経験する学習

模擬会社を設立し、生徒一人一人が4つの部(製造・管理部、企画・開発部、広告・宣伝部、経理・会計部)のいずれかに所属し、商品の生産から販売までの活動を行っている。模擬会社を設立、運営する活動を通して、自分の役割の価値や自分と役割との関係を見いだししていくことをねらいとしている。

- ・第3期・職場体験学習

模擬会社から離れて、実際に社会の一員として職場体験学習をし、望ましい職業観や勤労観の育成につなげている。また、学んだことを今後の会社運営にも生かすこととしている。

- ・第4期・模擬会社の商品を販売し、実社会と関わりをもつ学習

販売活動や収支決算等の報告を通して、会社経営や起業の在り方について振り返るとともに、自己の生き方についても見つめ直している。

<愛媛県> (種別：学校) 愛媛県立西条高等学校

推薦理由

当校は、普通科・国際文理科・商業科設置校として、それぞれの学科の特性や生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を実践している。特に商業科では、地域と連携した様々な取組により、生徒のキャリア発達を促し、社会人基礎力を育成している。

○ 地域との連携

西条市が主催する、合同面接会形式の「就職フェア」(人材マッチング事業)への参加や、地域商店街活性化のイベント企画・運営を通して、進路意識の深化と目的意識の明確化を図っている。

○ 職場見学の実施

商業科では、3年生が7月に応募前の職場見学を実施しており、将来の職業について体験する機会を設けることで雇用のミスマッチの解消に努めている。

○ 先進的なキャリア教育の取組

商業科では、平成29年度から、大学や民間機関と連携し、地域通貨による地域振興の実証実験を行っている。地域の魅力を創出する活動を通して、地域を支える人材を育成している。

○ ビジネスマナー講座の実施

2・3年生を対象として、社会人としての心構えや、営業の心構え等に関する講座を実施し、販売活動の知識などを身に付けさせるとともに、望ましい勤労観・職業観の育成に努めている。

○ キャリア教育に係る情報発信

キャリア教育に係る取組を、必要に応じて新聞社等に取材を依頼し、随時ホームページにも掲載するなど、情報発信に努めている。

<高知県> (種別：学校) 高知県立佐川高等学校

推薦理由

1 学校概要

「いのち輝け」を校是とする当該校は、文教の町である佐川町に位置し、今年度、創立95周年を迎える。生徒一人一人の夢の実現を目指し、個性と人権を尊重しつつ社会人として生きる力をもった健全な人材の育成に努めており、その柱の1つに「キャリア教育の推進」を掲げている。

平成26年度より、全教員で教育活動全体の見直しを行うなかで、近隣自治体や地元企業などとの連携の強化を図りながら、キャリア教育の視点から総合的な学習の時間を核とした地域課題発見解決学習に取り組んでいる。

2 ①③の観点から

(1) 取組の柱となる「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト～」

平成27年度から、(i) 地域社会に貢献する意欲を持つ人材の育成、(ii) 社会に出て必要な能力の育成、(iii) 自分が体験したこと・学んだことを自分の言葉で語れるようにする、の3つを目的として「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト～」を進めている。

各学年において身に付けさせたい力を具体的に設定し、総合的な学習の時間を核としながら、地域をフィールドとして以下のようなテーマ・内容で探究的な学習を計画的・系統的に進めている。

1年次：「地域のリソース（資源）を知る」（フィールドワーク）

- ・現地に出向き学んだ内容を基に「新たに知ったこと」や「気づき」を整理し共有（事後学習）

2年次：「地域で働く」（インターンシップ・ボランティア）

- ・「働くこと」「インターンシップで学ぶべきこと」についての理解（事前学習）
- ・インターンシップの振り返りを行うレポートの作成、成果発表会（事後学習）

3年次：「地域の未来に向けた提言」（プレゼンテーション）

・地域産業の振興、移住促進、防災などのテーマ別にグループで地域に貢献できる提言を検討、発表
また、学習を進めるに当たっては、仲間づくりを活動の基盤としながら、学習目的を意識して活動を行い、取組後には自己評価による振り返りを行うことで自己課題の改善を図るなど、生徒自身がPDCAサイクルを意識して取組を進めていく仕掛けが組み込まれている。

(2) 外部機関との連携

取組を進めるに当たり、近隣町村の首長にプロジェクトの趣旨を説明し、各町村に連携の窓口となる担当者を設置してもらっている。また、その担当者を通じて紹介された地域の事業所は、インターンシップ協力事業所やNPO法人などを含めて、40以上にのぼり、近隣自治体はもちろん、各事業所・団体から継続的な協力を得ている。また、今年度より、「学校支援地域本部事業」の指定を受け、「地域コーディネーター」を配置することで、学校・地域の結び付きを一層強化している。

(3) キャリアノート（さくらノート）の活用

平成27年度より学年進行で、生徒の自己理解・自己管理能力の育成をねらいとして、日々のスケジュールや授業の振り返りなどをポートフォリオ形式でまとめるキャリアノートの活用にも全校体制で取り組んでいる。この取組は、教員と生徒とのコミュニケーションツールとしての側面や、生徒の変容を見取るツールとしても重要な役割を果たしている。

<福岡県> (種別：教育委員会) 岡垣町教育委員会

推薦理由

当該教育委員会では、教育基本構想の一つに「知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間の育成」を掲げており、キャリア教育に根差した教育の充実・発展に努めている。

また、平成27年度からは「福岡県重点課題研究指定・委嘱事業」の研究指定を受けて、岡垣中学校区の4校（1中学校、3小学校）を研究校として指定し「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」を小中連携の下実践している。研究の主な内容は以下のとおりであり、義務教育9年間を見通したキャリア教育が実践できるよう、今後も研究を推進し、岡垣町全小中学

校に研究内容を普及していく予定である。

- ① **小中連携のための研究推進体制を整備し研究推進計画を策定した。**
当該校の管理職やミドルリーダーで組織する委員会を立ち上げ、3年間の研究計画を作成し、組織的・計画的に研究を進めている。
- ② **各校が行ってきたこれまでのキャリア教育を整理した。**
各校のこれまでの取組を月ごと、領域別にキャリア教育を視点を整理し、重点指導項目を作成した。
- ③ **独自の児童生徒アンケートを作成・活用した。**
発達段階に応じた児童生徒アンケートを作成し実態分析等に活用している。
- ④ **目指す児童生徒像及び具体的な姿を明らかにした。**
岡垣町教育委員会重点施策、岡垣中学校校訓を基に、目指す児童生徒像を明らかにした。
- ⑤ **日常の取組をキャリア教育の研究の視点で改善した。**
日常の取組を「基礎的・汎用的能力」及び「小中連携の立場」の2点からみて改善をし、キャリア教育を充実するよう努めている。その際、独自に作成した「キャリア教育を充実させるための改善・実施・評価シート」を活用した。

<福岡県> (種別：学校) 福岡県立玄洋高等学校

推薦理由

【福岡県立玄洋高等学校の取組概要】

設立当時は多くの生徒が大学進学をするなど、一般的な普通高校であった。しかし近年、就職希望者が増加するとともに、地域からも大学への進学のみならず、専門高校への進学、就職や公務員を希望する生徒の進学先として認知されている。

このことにより、地域の教育力を生かし、生徒一人一人の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育を学校全体で組織的・系統的に実践している。

【キャリア教育充実に向けての具体的取組】

(1) ジョブシャドウイング・インターンシップ

夏季休業中を利用して、就職を希望する生徒自らが高度な専門性が要求される職場に赴き、専門家の近くにおける職業の観察や、実際の職業を体験をするなど、生徒の進路実現に向けた取組を行っている。特に、事前指導の中で職種に対する理解を徹底するとともに、事後指導において、自身の特性と職種との関連を振り返り、適性について考える時間を設けるなど、計画的に進められている。

(2) カタリ場

夏季休業中前の1学期末に、第2学年生徒全員を対象として、大学生との少人数グループによる座談会を開催している。これは、進路実現に向けた意欲の喚起、望ましい進路意識の形成、進路選択に向けた正しい情報の獲得を目指すとともに、進路について主体的に考えるきっかけをつかませるものとしている。

(3) 学校行事

(1)、(2)及びアクティブ・ラーニングやICTを活用した授業の実施など、全ての教育活動を生徒の主体性という視点で再点検している。特に、20年以上続く「蓮根掘り」、福岡マラソンの応援ボランティア、体育大会や玄洋祭など、生徒会が中心となって企画を見直し、それぞれを生徒主体の行事として進め、リーダーシップ・フォロワーシップを醸成している。さらに、本校の教員も校長のリーダーシップの下、各分掌が責任をもって生徒の指導に当たるだけでなく、キャリア教育という観点でそれぞれの行事をつなげ、情報を共有しながら学校全体で生徒の指導に当たることができている。

<福岡県> (種別：団体) 福岡県立八女工業高等学校PTA

推薦理由

保護者のPTA行事参加者数の増加促進を図るため、従来の学校説明や生徒指導関係、部活動報告等と併せて進路状況を説明していた「地区別保護者会」を保護者の最もニーズの高い「進路」に特化した保護者説明会に改編し、PTA活動の活性化と学校との連携強化を図ることを目的に平成27年度から「学科別保護者進路説明会」

を実施しており、平成29年度で3年目となる。

当該団体が主体となって企画運営しており、生徒の進路決定やキャリア教育への保護者サポート力の向上に
なげている。

内容としては、卒業生を講師として招き、進路先企業等の決定に至る過程や日常の勉強方法、受験準備、進路
先企業等での仕事内容、企業内でのキャリアステップ、職場内の雰囲気等、現場の生の声を情報提供している。

平成26年度以前の「地区別保護者会」の平均参加者が180名程度であったものが、平成27年度は270名、平
成28年度は341名、平成29年度は大雨の影響もあったが315名（在籍生徒数716名中）の参加と大幅に参加者
が増加した。

学科の特色・特性に基づいた説明会のため、保護者にとって最適な説明会となっている。身近な同科の卒業生
の生の声は、高校生活をはじめ、進路先での職業生活・日常生活まで、生徒だけでなく、保護者にとってもモデル
化できる貴重な情報資料となっている。

講師として招く卒業生は、性別、企業規模、就労年数等様々なキャリアの方を選考しているので、幅広い内容
の説明を聞くことができ、保護者が持っている不安を払拭することにもつながっている。

また、PTA活動によるキャリア教育の取組を進路指導の中に位置づけることで、キャリア教育の系統性の充
実が図られた。

これまで生徒向けの取組はあったが、PTA活動によるこの取組が加わり、生徒・保護者の進路意識の高揚と
情報共有ができ、系統的キャリア教育推進、学校総がかりで進路決定するための大きな力となっている。

6月～7月（キャリアマンス）にかけて、3年生向け保護者進路説明会→「学科別保護者進路説明会」→三者
面談（全学年）という流れになっており、当該校における進路決定の大きな流れとなっている。

<佐賀県>（種別：学校）佐賀市立芙蓉小学校

推薦理由

平成14年度から小中連携教育に取り組み、平成18年度から佐賀県で初めての校舎併設型小中一貫教育、そし
て平成21年度からは校舎一体型の小中一貫校として教育実践を積み重ねている。9年間の学びとふれあいをつな
ぐ教育の創造を目指し、「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」の学校教育目標の下、「生きる力を育てる小中一貫教育
の実践」、「自分の思いや考えを表現することができる児童生徒の育成」を中心に教育実践に取り組んでいる。

平成27～28年度は国立教育政策研究所、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会の研究指定を受け、「生きる力
を育てる小中一貫教育の実践～キャリア教育の視点でつなぐ教育実践を通して～」という研究主題を掲げ、日々
の授業、学校行事等の教育活動をキャリア教育で培う「基礎的・汎用的能力の育成」という視点で整理・改善し
てきた。主な取組として

- ① 児童に身に付けさせたい力を再確認するために、「基礎的・汎用的能力」の4つの能力について、学校独自で
具体的要素を設定し、9年間の発達段階を踏まえた系統表を作成した。この作業を行ったことで、「基礎的・汎
用的能力」を身に付けた児童の姿がより明確となり、日々の授業などの教育活動の目標設定や評価につなげる
ことができた。さらに、これらが児童一人一人にどれだけ身に付いたかを見取るために、発達段階に応じた
調査、「Fuyo 夢アンケート」を作成し実施した。
- ② 特別活動や総合的な学習の時間等では、学びのプロセスをしっかりと記録させるとともに「振り返り」活動
にも力を入れた。それらをファイルし、一人一人の取組や成長の足跡を「見える化」したものと、「Fuyo
夢ファイル」を作成した。「Fuyo 夢ファイル」は新学習指導要領の「キャリアパスポート(仮称)」につながる
取組として、他校の参考となるものである。
- ③ 児童に夢や希望をもたせ、今学んでいることと将来とのつながりを考えさせるために、校長が面接官になり、
児童一人一人が将来の夢や目標を語る「Fuyo 夢タイム」を年間計画に位置付け、実施している。「Fuyo 夢タイ
ム」では、児童に夢や目標の実現と今の自分とのつながりを考えさせるとともに、礼儀やマナーの習得も目標
としている。
- ④ 一人一人の児童をより深く理解するために、教職員による観察や児童との個人面談で得た所見等に加え、標
準学力検査(NRT)、学習適応性検査(AAI)、学級集団アセスメント調査(Q-U)等の諸検査の客観的データを合わせ
て一人一人の児童の状態を細かく分析した「バッテリーシート」を作成し、日頃の指導や支援に生かしている。

- ⑤ 地域学習にも力を入れており、校区内で古くから伝わる、国指定重要無形民俗文化財「見島のカセドリ」や市指定重要無形民俗文化財「小松の浮立」について伝承者から話を聞くことに加え、実際に祭りに参加・見学することで、地域に住む者として、後継者としての自覚を持ち、地域を愛し、地域を支える人物の育成につながる教育を実践している。

【ホームページ】 http://cms.saga-ed.jp/hp/fuyo-e/home/template/board/boardList.do?MENU_ID=23872

<佐賀県> (種別：学校) 佐賀市立芙蓉中学校

推薦理由

平成14年度から小中連携教育に取り組み、平成18年度から佐賀県で初めての校舎併設型小中一貫教育、そして平成21年度からは校舎一体型の小中一貫校として教育実践を積み重ねている。9年間の学びとふれあいをつなぐ教育の創造を目指し、「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」の学校教育目標の下、「生きる力を育てる小中一貫教育の実践」、「自分の思いや考えを表現することができる児童生徒の育成」を中心に教育実践に取り組んでいる。

平成27～28年度は国立教育政策研究所、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会の研究指定を受け、「生きる力を育てる小中一貫教育の実践～キャリア教育の視点でつなぐ教育実践を通して～」という研究主題を掲げ、日々の授業、学校行事等の教育活動をキャリア教育で培う「基礎的・汎用的能力の育成」という視点で整理・改善してきた。主な取組として

- ① 生徒に身に付けさせたい力を再確認するために、「基礎的・汎用的能力」の4つの能力について、学校独自で具体的要素を設定し、9年間の発達段階を踏まえた系統表を作成した。この作業を行ったことで、「基礎的・汎用的能力」を身につけた生徒の姿がより明確となり、日々の授業などの教育活動の目標設定や評価につなげることができた。さらに、これらが生徒一人一人にどれだけ身に付いたかを見取るために、発達段階に応じた調査、「Fuyo 夢アンケート」を作成し実施した。
- ② 特別活動や総合的な学習の時間等では、学びのプロセスをしっかりと記録させるとともに「振り返り」活動にも力を入れた。それらをファイルし、一人一人の取組や成長の足跡を「見える化」したものと、「Fuyo 夢ファイル」を作成した。「Fuyo 夢ファイル」は新学習指導要領の「キャリアパスポート(仮称)」につながる取組として、他校の参考となるものである。
- ③ 生徒に夢や希望をもたせ、今学んでいることと将来とのつながりを考えさせるために、校長が面接官になり、生徒一人一人が将来の夢や目標を語る「Fuyo 夢タイム」を年間計画に位置付け、実施している。「Fuyo 夢タイム」では、生徒に夢や目標の実現と今の自分とのつながりを考えさせるとともに、礼儀やマナーの習得も目標としている。
- ④ 一人一人の生徒をより深く理解するために、教職員による観察や生徒との個人面談で得た所見等に加え、標準学力検査(NRT)、学習適応性検査(AAI)、学級集団アセスメント調査(Q-U)等の諸検査の客観的データを合わせて一人一人の生徒の状態を細かく分析した「バッテリーシート」を作成し、日頃の指導や支援に生かしている。
- ⑤ 地元蓮池町の「まちづくり協議会」発足時に開催されたワークショップに全生徒で参加し、「20年後に向けたまちづくり」に関する提言を行った。その内容は、当日のコーディネーターも「大人以上の深い洞察に基づく提言だ。」と絶賛する程のものであった。これも小学校入学以来の継続的・計画的な地域学習の積み重ねの集大成であったと言える。

【ホームページ】 http://cms.saga-ed.jp/hp/fuyo-e/home/template/board/boardList.do?MENU_ID=23872

<佐賀県> (種別：学校) 佐賀県立牛津高等学校

推薦理由

当該校は、家庭に関する学科(生活経営科、服飾デザイン科、フードデザイン科、食品調理科)のみからなる全国的にも珍しい高等学校である。「生活産業を担う将来のスペシャリスト育成」を教育目標の一つに掲げ、この目標に基づくキャリア教育を系統的、継続的に推進している。

例えば、主体的に課題を発見し、創造性を育むために、希望生徒を対象として、2年次の夏季休業中に「起業家入門Ⅰ」、3年次に「起業家入門Ⅱ」を開講している。

「起業家入門Ⅰ」では、外部講師を招聘し「地域活性化の必要性」「企画プランニング」「マーケティング」「地

域活性化の基礎知識」「アイデアの創造（発散と収束）」「効果的なプレゼンテーション」の内容について、講義や演習を行っている。昨年の企画提案の中には、「延長保育の実施率全国1位」「人口あたりの病院数全国5位」に着目して佐賀県独自の魅力を発信する企画提案があり、「県高校生ICT利活用プレゼンテーション大会」で優秀賞を受賞した。

「起業家入門Ⅱ」では、「起業家入門Ⅰ」で学んだことを踏まえ、4学科の専門性を生かした、商品・サービスの開発など実践的な活動を行い、起業家マインドを育成している。地域の特産品である梅を使ったジャムを用いて、梅ブッセを商品企画し、販売実習を行うなど、牛津高校ブランドの商品が年々増えている。

また、服飾デザイン科では、商標権「牛姫工房」を取得し、地域の資源を利用することにこだわって、質の高い手作りの服飾商品を提供している。代表的なものは、草木で染色した服飾作品（バッグ、ストール、ランチョンマットなど）や佐賀錦作品（ブローチ、しおり）などがあり、文化祭や手作り市での出店販売を行ったり、小城市のふるさと納税の返礼品となったりしている。

食品調理科では、佐賀県産のレンコン・玉ねぎを使ったドレッシング「佐賀ドレ」を平成19年度に開発し、平成27年度以降は容器やラベルなどを再検討し、博多阪急や佐賀空港でのイベントでも販売を行った。

【ホームページ】 http://cms.saga-ed.jp/hp/ushidukoukou/home/template/html/htmlView.do?MENU_ID=11697

<長崎県>（種別：学校）長崎県立中五島高等学校

推薦理由

長崎県五島列島の中通島に位置し全校生徒99名の小規模校である。新上五島町は人口減少と少子高齢化が急速に進行しており、日本創生会議が指摘する2040年消滅可能性自治体の九州第1位に挙げられている。その現状を踏まえ、「島の活性化」という身近で現実的な課題と対峙させることで、より深い「キャリア教育」と「郷土愛を育む教育」を推進している。主に3年間を通した「総合的な学習の時間」で展開しているが、学校と地元行政・企業・団体が密に連携し一丸となって取り組んでいる点が特色と言える。当校が独自に企画した「パブリックワーク」を支柱として、自己肯定感の醸成、汎用的能力の育成、「地域に根差し、地域に信頼され、地域を動かす」学校づくりに取り組んでいる。

【具体的な取組について】

1 「パブリックワーク」

町人口減少対策推進本部である総合政策課と連携し、地元企業や地域住民とも協働しながら、地域課題の解決に取り組み、改善策や新規事業などの提案を行っている。

2 「職業人インタビュー」

地元の企業や職業人を取材し、郷土愛や職業観を深める機会としている。また、事前・事後指導も含め多くの大人と接する機会を増やし、大人の視点や考え方を知ると同時に、コミュニケーションスキルも身に付けさせている。

3 「島内で働くことを考える会」

仕事だけでなく、島の活性化など多方面で活躍されている方に、島内で働くことの意義や魅力、将来性、課題などについて語り込んでいただき、島への理解や愛着、誇りを育む機会としている。また、グループ別に意見交換や質疑応答をする時間を設け、進路意識の高揚を図っている。

4 「島内外でのインターンシップ」

実務実習での体験を通じて新しい気付きを発見させ、将来の進路への関心と自覚を促す機会とする。受け入れ先は島内だけでなく島外にも求めている。島内では地域文化・産業の後継者育成を、島外では多様な希望進路に対応するとともに生徒の視野の拡大を図っている。

<長崎県>（種別：学校）長崎県立長崎工業高等学校

推薦理由

当校は、本年度で創立80周年を迎え、工業科目8学科（定員960名）を設置している。現在、校長の指導の下、数多くの先進的なキャリア教育が実践され、多くの成果を上げている。なお、取組の一部は、「九州経済白書2017年版人材枯渇時代を生き抜く地域戦略（著者：九州経済調査協会）第3章 人材育成の役割を担う教育機関

の取組」に掲載され、教育機関の在り方について言及されている。主なキャリア教育の取組は以下の通りである。

① 関係機関との連携

当該校は、学校の進路日程や生徒の希望職種等の情報を発信するなど外部機関と情報交換を長崎県(産業人材育成産学官コンソーシアム)、長崎工業会、長崎県建設業協会等と行っている。その他、授業では企業より外部講師を招いた企業が求める人物像等の講話、学級単位での企業見学を実施している。なお、県内の企業見学は、長崎工業会の事務局である長崎商工会と連携しながら行っている。

② 校内での県内企業説明会の実施

学校内で人事担当者による県内企業説明会を年間2回実施している。全校生徒や保護者が県内企業の魅力や現状を知る機会として実施しており、企業の求める生徒像等を直接聞くことができるため、保護者及び企業の担当者から大変好評である。

③ 保護者の県内企業見学会の実施

保護者が実際に県内企業に出向き、働いている卒業生等から直接説明を聞くことで企業を理解することを目的として、年間1回実施している。保護者は、実際の仕事場を見学し、雰囲気等を感じることができる。

④ インターンシップ(就業体験)の実施

インターンシップは、就職を希望する企業等で実施できるように工夫しており、2年生全員が12月上旬の5日間実施している。事後は、1年生・企業担当者・保護者を対象としたインターンシップ報告会を実施している。平成28年度は、116社で317名がインターンシップを行った。なお、平成27年度のインターンシップ実施した生徒のうち、約30名程度がインターンシップ先の企業に就職した。

⑤ 長崎工業高校版デュアルシステム(就業訓練)の実施

県内企業に内定した生徒を対象として、10日間程度の入社前訓練を実施している。これは、学校から企業に依頼して実施するもので、生徒は入社前の早い段階から入社後に必要な知識や技能等を具体的に知ることができる。この取組を通して、卒業後の春休み期間に具体的な入社準備をすることが可能となった。平成28年度は、37社54名が実施した。

⑥ ライフプランニング授業の実施

キャリア教育の取組の一つとして、卒業後、生活するうえでどのくらいの生活費等が必要になるかを実際にシミュレーションすることで進路や生き方を考えさせる授業を展開している。昨年度は、1年生・2年生及び職員(723名)を対象に実施した。

⑦ 本校同窓生を対象とした無料職業紹介事業(長工OBマッチングサイト)の実施

当該校のホームページで職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を同窓生の一部(全日制課程卒業後、満50歳)に限り適用し、運用することで長崎県内企業への就労を目指している。このシステムは、全国で初の取組として九州経済白書でも紹介された。現在では、平成27年10月のシステム運用開始以来、企業登録数は80件を超える。

⑧ 「求人要項の提出」と「ジョブ・スタ長工」の実施

年間を通じて、生徒が職場見学を実施できるように県内の企業に対して、「求人要項」の提出を依頼している。この求人要項により、生徒は求人の有無の把握し、ジョブ・スタ長工(長崎工業版応募前職場見学)に参加することで企業の雰囲気や必要とされるスキルを知り、ミスマッチ解消にもつなげていくというものである。このシステムにより、企業は容易に採用情報を学校へ周知することができるというメリットがある。

⑨ その他

(1) 海外インターンシップの実施

当該校では、創立70周年事業から海外研修を実施している。昨年度、ドイツからベトナムへ行き先を変更すると同時に現地日系企業においてインターンシップを実施している。研修の成果は、報告会を実施し、全校生徒と情報を共有している。

(2) 過去の進路先情報の活用

当該校では、平成元年からの生徒の進路先データをデータベース化しており、その内容については、学科主任・学級担任等と情報を共有することで、進路決定に役立てている。

(3) キャリアガイダンスの作成・活用

在学期間の3年間に渡り進路指導で活用できるように作成し、活用している。内容は、保護者が見ても理解しやすいように工夫している。

＜長崎県＞（種別：学校）長崎県立佐世保工業高等学校

推薦理由

平成25年度より「佐工版キャリア教育」に取り組み、地元の産業を支える人材の育成に当たっている。

主な活動としては、佐世保市商工会議所工業部や佐世保工業会（46社加盟：H29）と連携会議を設定し、「地元の企業が必要とする人材の調査」「インターンシップ等受入れ企業・団体の発掘調査」「職業訓練内容の検討」を行っている。具体的な取組として、高校では地元企業の研究（1年生全員）、工場見学・企業訪問（2年生全員、平成29年度は1・2年生全員）、海外視察研修（3年生選抜者）、安全教育（全学年全員）等を実施し、企業側では、技術者の講師派遣、インターンシップ（就業訓練型5日間：2年生全員）やデュアルシステム（実践訓練型10日間：3年生選抜者）に取り組んでいる。

この中でも特徴的な取組として、「佐工版デュアルシステム」があげられる。これは平成25年度から実施され、今年度で5年間の継続活動となり、県内企業に就職内定した生徒を対象に長期就業訓練を行っている。この取組は、入社前に内定した企業で就業訓練を積むことで、より実践的な技術を習得できること、また受入側も将来の社員を育成するという一方で、より真剣な対応で臨むことが期待される。実施期間は12月に5日間、2月に5日間であり、学校では訓練内容を事前に聞き取り、学校・生徒ともに内容を十分把握した中で訓練の前・訓練期間中・実施後に校内で生徒の指導を徹底している。また、企業と学校が情報を共有し、協働して生徒の育成を行っている。さらに、生徒を介して県内企業と学校の距離感が縮まり、信頼関係の構築につながっていると同時に、入社後の早期離職を防止する効果も期待されている。

実績としては、平成25年度、10社、12名、26年度、9社、12名、27年度、13社、16名、28年度、10社、15名が参加、終了後は、受入企業を学校へ招き、全校生徒の前で成果発表会を実施することにより、反省や成果の確認を行っている。さらに、報告書を作成することにより、後輩たちの今後の進路指導に活かしている。また、平成27年度からは「県内企業説明会 in 佐工」を実施している。

＜熊本県＞（種別：学校）あさぎり町立深田小学校

推薦理由

当該校は、平成28年度に文部科学省及び熊本県教育委員会より「小中学校における起業体験推進事業」の委託を受け、地域の特色を生かした起業体験活動として、商品開発、広報、販売体験等を行った。平成29年度は模擬会社の設立を中心に、市場調査から商品開発、販売、会計処理等まで児童ができる範囲で活動を行う予定である。

1 平成28年度の実績について

- (1) 校区内の農産物（きゅうり）を金型に入れて星型、ハート形の切り口になるように加工し、宣伝広告と併せて販売体験を行った。
- (2) 行事において児童自ら茶摘みをしたものに児童がラベルを作り、販売を行った。
- (3) 学校で粳まき、田植え後、刈り取った米を米粉にし、米粉を使ったレシピを考案し、それを基に加工したスイーツを試験販売した。

これらの取組は試行錯誤ではあったが、児童は地元の良さに触れるとともに、買ってもらえる喜びをモチベーションに、いろんなアイデアを出し、主体的に、そして意欲的に取り組んでいた。また、あさぎり町教育フェスティバル（例年2月に開催）においても、町内の教職員、行政職員、地域の方々に広く発表し、好評を得ることができた。

2 平成29年度の方向性と内容について

- (1) 模擬会社「深田よかこ総合商社」設立
保護者や地域の方々に呼び掛けて一口500円で株主として出資を募り、それらを元手に事業展開を行う。
- (2) 3年生は地元の野菜、4年生はお茶販売と福祉施設への花や植物の無償提供、5・6年生は収穫した米を使った食品をそれぞれ販売、提供する。
- (3) 販売先は、学校隣のふれあい市場（食生活改善推進委員による常設販売所）を中心に、イベント会場への出店、公的カフェでの出品等を想定している。
- (4) 売上金から仕入れやその他の費用を差し引き、株主への配当及び学校への収益として活用していく。

＜熊本県＞（種別：学校）菊陽町立菊陽中学校

推薦理由

(1) 学級活動の充実

- ・3年間の進路学習を各学年で系統立てて取り組む（1年生：仕事について、2年生：上級学校について、3年生：これからの生き方について）。特に各学年の進路学習のスタートは、「なぜ、学ぶのか」「なぜ、働くのか」についての授業に取り組む。学年の最後の授業は、1年間の振り返りを行いながら、ポートフォリオ（キャリアノート）にして学習したことを持ち上がっていく。

(2) 職場体験学習・校内ハローワークの実施

- ・校内ハローワークについては、全校生徒を縦割りに20グループを編成し、30人の講師の方をお招きして講話をしていただく。ねらいは、職業人の話を直接聞くことで、自己の生き方を考える機会とし、望ましい勤労観・職業観を育む。また、中学生として今何を努力すべきかを考える機会としている。
- ・職場体験学習については、当該校では3年生で実施している。約50事業所の協力の下、次のようなねらいで実施している。①働くことの意義や価値を学びとる。②社会の規律やマナーを学ぶ。③実際に汗を流して働くことを通して、労働の尊さを感じとり、身近な人々の仕事を理解する。④地域社会とのつながりを深め、違う世代の人と接するコミュニケーションの力を育む。

(3) 基礎的・汎用的能力を意識した各教科の授業実践

- ・当該校では、4つの基礎的・汎用的能力を意識した授業実践に取り組んでいる。具体的には、文部科学省が出版している中学校キャリア教育の手引きを参考にしながら、教科部会を開き、研究授業を通して、教科の目標を達成させるとともに、社会的自立・職業的自立を意識してキャリア教育の視点における授業実践に努めている。また、「なぜ、学ぶのか」を意識し、身近な題材を活用し、導入の工夫を行うことで、生徒の学習意欲を高める工夫を実践してきた。

＜熊本県＞（種別：団体）宇土市立網田中学校PTA

推薦理由

- 会員数の減少に伴い、全会員がいずれかの委員会に所属して活動している。
- 保・小・中が連携して取り組んでいる「よりよい生活実践カード（ノーメディアを中心とした生活改善）」
- 平成21年度から、学校生活の諸課題について親子で話し合う「網田親子サミット」に取り組んでいる。

「網田親子サミット」の取組について

平成21年度から継続して取り組んでおり、当該団体役員が中心となって企画・運営を行っている。学校や家庭での課題に即したテーマを決め、講演を受けて班別に話し合いをもったり、班ごとのテーマを決めて親子で協議を行ったりしてきた。

近年、スマートフォン等のメディア使用に関する諸問題が社会的な課題にもなっており、当該校でも同様の課題が見られるようになった。そこで、平成27・28年度と、このような課題について2年間継続して取り組むこととし、平成28年度は「生活習慣を改善し、学習時間や家族とのコミュニケーションの時間を確保するにはどうしたらいいか考えよう」というテーマの基、ルール作りに取り組んだ。班別協議の中では、子供たちの意見に対して、保護者が実社会での経験を基にアドバイスしたり、教え諭したりする場面が見られ、子供たちも真剣に受け止め考えていた。各班からルールが提案され、これを基に各家庭で「我が家のルール」を作成した。最後に、地域の代表の方から、「子供たちが今を後悔のないように過ごせるようにすることが、大人の役割」というまとめをいただき、保護者にとってもその役割を改めて振り返る機会となった。決定されたルールの実践状況については学校評価に係る「教育アンケート」等で引き続き調査を行うとともに、学校便りや保護者、「生活委員会」の広報紙等を通じて啓発を続けている。

平成29年度は、「地域の、学校教育に対する願いや具体的取組について知り、生徒が、地域を支える人材としての自覚を持って学校生活・家庭生活を送る意識をもつ」ことを目的として、「こんな網田（地域・家庭・学校）を創りたい！」をテーマに実施した。

推薦理由

当校は、数年前まで問題行動を起こす児童生徒や不登校児童生徒への対応に大変苦慮する状況であり、これらの生徒が高校に進学できない状況もあった。

そこで、その状況を打破し、児童生徒の出口（終業時、修了時、卒業時）の姿に責任を持つことができるよう、教育を進めていきたいとの思いから、キャリア教育に力を入れるようになった。

当校では、「一人前の社会人・職業人」「一人前の地域人」「一人前の家庭人」を育てることを目指してキャリア教育に取り組んでおり、小学校1年生から中学校3年生までの9年間で系統性・一貫性・継続性のあるキャリア教育となるように教育内容を整理している。

1 子供に基本的な生活習慣を身に付けさせる取組

子供たちを一人前の社会人・職業人・地域人・家庭人に育てるために日常生活の中での実践事項として「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」「返事」「後始末」「お手伝い」「立腰」を重点に置き、小中学校全ての学年で取り組んでいる。

(1) あいさつ、返事、後始末、お手伝いのできる児童生徒

基本的な生活習慣を身に付けさせるために「あいさつ、返事、後始末、家の手伝い」を中心に各学年で指導を積み重ね、各取組について年に2回、児童生徒・教職員・保護者のそれぞれが評価を行い、その結果を分析して、その後の取組の改善に生かしている。

(2) 腰骨を立てて正しい姿勢ができる児童生徒

よい姿勢を保つことにより心身ともに健康でいられることや集中して学習に取り組めることを学級での指導や集会等で確認し、日々、実践している。

2 子供と社会をつなぐ取組

日向市キャリア教育支援センターが平成25年に開設され、日向市内において、産学官の連携によるキャリア教育に積極的に取り組んでいる。当校では、授業の外部講師として当センターに登録されている「よのなか先生」をはじめ独自に発掘した人材も含めて年間200名以上を招へいし、多くの支援を受けている。

(1) 核となる体験活動

児童生徒がなりたい自分を見つける場面やなりたい自分を実現するために努力する過程として位置付けて、各学年の発達段階を踏まえた上で地域の方から学ぶ体験活動を展開する。

(2) 外部人材による授業支援

日向市キャリア教育支援センターの「よのなか先生」をはじめとする外部人材のスキルを活用し、授業を活性化させている。

3 子供に学力を身に付けさせる取組

学力調査の分析による実態把握とそれらに基づく授業改善を継続的、組織的にを行い、児童生徒の理解度と変容を正確に捉えた指導方法の工夫や個に応じた指導の充実を図っている。

(1) 日常の授業改善（授業改善プラン）

児童生徒一人一人が分かる喜びを感じ、学習内容の習熟、定着を図ることができる授業の改善プランを作成し、授業改善に取り組んでいる。

(2) 授業公開

全ての教員が年に2回以上の授業公開を行い、互いに参観することで授業改善に努めている。

(3) 外部人材による学習支援

外部人材の「花まる先生」（3年生の算数）や「はげまし隊」（7年生の数学）の学習支援により、児童生徒の学力向上を図っている。

4 取組の成果

実際に働いている人から話を聞くことで、学校での学びが将来につながることを理解が広がり、学ぶ意義が明確になっている。

あいさつや返事、言葉遣いなどの礼儀作法も改善され、社会人としての基礎を身につける機会になった。

<宮崎県> (種別：学校) 宮崎県立都城西高等学校

推薦理由

当該校では、生徒の学力や進路志望、生活環境などの多様性に対応するため、生徒が進路目標を考える上で土台となり、どのような仕事に就いた場合も必要となる「汎用的な力」を育むため、キャリア教育の推進と充実に取り組んでいる。

1 具体的な取組

(1) 探究的活動：「フロンティア学」

「学校設定教科」と「総合的な学習の時間」の中で、1年次に「特設講座」、2年次に「校外探究講座」を開講し、地域人材の活用や事業所、研究施設との連携、大学の出前講義の実施とともに、教科の授業の成果も生かしながら、課題解決的な学習とその発表会を通して生徒のICT活用能力やプレゼンテーション能力を育てている。

(2) 都城市福祉ボランティア：「※幸子ボランティア」※当該校の生徒がデザインした市のキャラクター

休業日に特別養護老人ホームや障がい者施設、保育園などを訪問し清掃や介助、対話などのボランティア活動を実施している。

1年次には各種の施設を複数回、経験させ、2・3年次は生徒の進路志望に応じて、キャリア教育の視点から同じ施設で継続的に活動させている。

昨年度は延べ800人近い希望者が主体的に参加し、世代や立場を越えたコミュニケーションの重要性を体感している。

(3) 校内清掃ボランティア：「ピカピカの輝き みんなの手で」

株式会社「イエローハット」の創業者が運営するNPO法人「日本を美しくする会」の協力を得て、年2回企画し、職員、3年生も含め、延べ160人の希望者がプロレベルの清掃活動を一般市民と共に経験した。本年度から生徒会に企画・運営を担当させている。

本取組を通じて、謙虚な人になること、感謝の心を芽生えさせること、心を磨くことや、他者に対して主体的・協働的に貢献しようとする姿勢を育てている。

(4) 生き生きインターンシップ：「都西手伝い隊」

希望者が事業所等における職場体験や社会人との交流を通じて、自らの資質・能力を向上させながら、地域の身近な課題を発見し、その解決に向けて考察する姿勢を育てている。

2 取組の成果

キャリア教育を通して、地域社会のさまざまな立場にある人々の多様な声を生徒に直接聞かせ、交流させることにより、自己成長するための実践的な態度や、地域社会と積極的に関わりをもつ姿勢、社会の問題点を解決するための実践的な態度の育成を目指している。

それぞれの取組を通して、参加希望者数が年々増加するとともに具体的な企画や準備、運営など、生徒が主体的に参画する場面を数多く実現することで、生徒に身に付けさせる資質・能力の確実な定着が図られている。

<鹿児島県> (種別：学校) 霧島市立木原小・中学校

推薦理由

当該校は、平成27年度から28年度にかけて、始良・伊佐地区研究協力校として、「生きる力を身に付け、未来に向かって生き生きと輝く児童・生徒の育成 ～併設型小中連携による系統性・継続性のあるキャリア教育を通して～」という研究主題の下、キャリア教育の研究を推進してきた。

「小中連携による9か年を見通した教育活動の中で、各教科等においてキャリア教育との関連を意識した指導の工夫・改善を図ることで、児童生徒の基礎的・汎用的能力を育成することができるのではないか」を研究仮説に、具体的な取組を実践した。

1 キャリア教育の視点に立った9か年を見通した学習指導の工夫

- ・小中別々に作成されていた全体計画を一つにまとめ、「夢をもとう（小1～4）」「夢をふくらまそう（小5～中1）」「夢に向かって進もう（中2～3）」の3つの発達段階を設定した。
- ・9か年の発達段階における「基礎的・汎用的能力」を具体化した上で、年間指導計画では、キャリア教育と

関連が深い総合的な学習の時間や学校行事の体験活動を軸に、特別活動や各教科等の教育活動につなげた。

2 体験活動を通じた授業の実践

- ・職場体験学習等の体験学習を充実させるために、教科・領域の中で事前指導・事後指導を工夫した。その際、主体的に課題に取り組み、他と共に課題解決を図ろうとする態度を育むために、「分かる・できる・認め合う」場面を設定した。

3 その他の実践

- ・地域の特性を踏まえた特色ある学校として、「地域の中の学校」づくりに努め、家庭・地域と連携しながらキャリア教育の充実を図っている。具体的には、地域での自然体験や家庭と連携した学習計画表「テスト積み重ね表」、児童・生徒が将来に向けての目標を綴ったPTA発行の「文集けやき」などの取組をしている。以上のことから、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<鹿児島県> (種別：学校) 枕崎市立立神中学校

推薦理由

当該校では、平成28・29年度鹿児島県研究指定「キャリア教育」研究校として、研究主題に「自ら夢や目標を持ち、力強く未来を切り拓く生徒の育成～『つなぎ』を意識したキャリア教育の取組を通して～」を掲げ、キャリア教育を推進してきた。

1 3つの研究グループの編成

- (1) 心のつなぎ研究グループ (道徳教育を中心に自己肯定感の育成)
- (2) 学びのつなぎ研究グループ (授業改善による対話力の育成)
- (3) 小中高のつなぎ研究グループ (地域理解)

2 「本物のつなぎ」と「認め合いのつなぎ」の取組

- (1) 「本物」を知る。
- (2) 「地域の今」を知る。
- (3) 「多文化共生」を知る。
- (4) 「友達のよさ」を知る。
- (5) 「地域の活力」を知る。
- (6) 「地域の温もり」を知る。

3 職場体験学習、総合的な学習の時間における地域・産業界との連携

- (1) 枕崎市の基幹産業である鰹節工場での全身体験学習
- (2) 鰹節の出汁取り体験学習
- (3) サツマイモの苗植え体験学習
- (4) 枕崎水産加工組合の「世界の鰹節」を見据えた講演会

4 中学生地域コミュニケーターとしての役割

当該校では、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するために、当該校の実態から解決すべき課題を明らかにした。各教科等、職場体験学習、小中連携、中高連携、地域・産業界との連携など、様々な教育活動を通して、「つなぎ」を大切にしながら、組織的・系統的にキャリア教育に取り組み実績を上げている。

以上のことから、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<鹿児島県> (種別：学校) 鹿児島県立蒲生高等学校

推薦理由

当該校では、学校の重点目標に「生徒の適正な進路選択と進路実現及びキャリア教育の推進・充実」を掲げ、地域と協働した特色ある教育活動を展開しながら、キャリア教育に力を入れており、平成28年度には「始良市ボランティア活動育成協力校」にも指定されている。また、数々のイベント型のキャリア教育を取り入れ、先進的な取組として、メディア等でもよく取り上げられている。

《全員参加型のインターンシップ》

2年次に全員参加のインターンシップを10年以上実施している。就労体験を通して自己理解や進路意識、職業観を醸成するとともに、コミュニケーション能力を高め、ビジネスマナーや仕事に対する責任感を身に付けさせることを目的としている。

《地域と協働したボランティア活動》

JR九州豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」のおもてなしボランティア、高速道路サービスエリアでの交通安全啓発ボランティア、「鹿児島マラソン」の給水ボランティア、地域清掃ボランティアなど、定期的に地域と協働したボランティア活動を展開している。

《地区小中高ブロック研修会》

教職員の資質向上を目的とした研修会として、相互の公開授業やキャリア教育の推進について協議している。平成28年度は、公開授業を2回、研修会を1回実施した。また、研修会を通して要請のあった本校生による中学校の出前授業を実施している。

《高大連携「生徒会・学友会交流」》

キャリア教育と主権者教育を相互補完する目的で「生徒会（高校）・学友会（大学）交流」を実施している。交流会の中で、大学の授業体験や施設見学を取り入れている。

《地元ロータリークラブとの連携》

地元ロータリークラブと連携して、就職・進学試験前の面接指導に加えて、就職内定者を対象とした研修会を3回実施している。

《地元商店と連携した商品開発》

地元のシンボルである「大楠」をイメージしたパンを地元商店と共同開発した。「まっくすパン」とネーミングし、企画から商品流通に至る一連の活動に携わった。また、商品のPRキャラクターも販売と同時に発表し、地域貢献活動の一助となっている。

《若者議会への参加》

本年度からの新たな取組として、地元自治体が企画した「若者議会」に参加している。議長役として会の運営、議員役としての行政質問など、キャリア教育の学びの成果を地域社会へ還元する取組として位置付けている。

以上、当該校では、始良市及び蒲生地区の活性化・PRになるように地域協働の視点から、キャリア教育の全体計画及びプログラムを推進している。

平成27年度に当該校は創立110周年式典を終えたところである。今後とも、地域との協働を活性化しながら、キャリア教育について新たなモデルを構築していきたい。

<沖縄県>（種別：学校）那覇市立曙小学校

推薦理由

当該校は、経済的に厳しい状況の家庭が多い地域にあることから、キャリア教育は学校における重要課題である。そこで、キャリア教育は学校課題であり、継続的・発展的な取組につながるよう学校全体で年間を通して職業観・勤労観学習プログラムを作成して、計画的に取り組んでいる。特に、3年～6年と特別支援学級の昨年度までのキャリア教育の実践を下記にまとめる。

1. 3学年の取組

「繁多川公民館長」を講師に、「曙小まちづくり協議会」と保護者も参加し、豆腐づくりの体験学習を行った。また、牛乳工場見学も行い、総合的な学習の時間では、地域のお仕事探検を行い、様々な仕事について学習した。

2. 4学年の取組

7月に「あおみ建設」の協力で、那覇空港滑走路増設工事現場を訪問し、船に乗って海から実際に最新の技術を使った難しい工事の現場を見学した。また、職人による焼き物の学習や「リサイクルセンター」の方を講師に買い物ゲームを通じた体験等を行った。専門的技術者等の職人との触れ合いや体験活動を通して仕事の大切さについて学習した。

3. 5学年の取組

「わくわくセカンドスクール」で「沖縄水産高校」を訪問し、ロープの結び方や手旗信号・摂氏五十度の冷凍庫体験、マグロの勉強と解体ショー、船や南極の話、組みひも作り、海底資源の話があり、カッター実習、福祉体験、「南部工業高校」を訪問し、ロボット自動運転制御（相撲・ラグビー）、旋盤加工、上下水道設備等を見学した。専門学科のある高等学校での体験活動を通して、産業教育の大切さについて学習した。

4. 6学年の取組

「曙ふれあいまつり」で、カレー販売、古本市、おばけ屋敷を企画計画から実施・会計報告まで行い、行列もできるほどの大人気で成功体験も経験することができた。この取組を通して、自分たちで企画・運営することで、働く意義や汗を流した後の爽快感を味わい、人々への感謝の気持ちも育まれた。

5. 特別支援学級の取組

特別支援学級でも社会形成能力を育成するため、野菜の栽培・販売や「暮れの街探検」を通して、仕事の大切さや楽しさを学んだ。

以上、地域の実態に応じ充実した取組により、キャリア教育を推進している。

<沖縄県>（種別：学校）那覇市立壺屋小学校

推薦理由

当該校ではPTCA・地域企業・学校・行政・NPO法人が連携をとった「地域にひらかれた教育課程」キャリア教育を推進した。「なりたい自分」「なれる自分」に向かう意欲・関心を高め児童の社会とのつながりである職業観や郷土愛を育み地域に貢献する人材育成のカリキュラムを編成している。

1 地域の特徴

那覇市のメイン通りに位置した在校生252名の小規模校である。戦後復興のシンボル「壺屋焼き」で知られ、学校裏「壺屋やちむん通り」は観光地でもある。

2 実践の内容

- 開催期間中延べ1万人が訪れる「壺屋陶器まつり」を学校の運動場を開放して行われている（10年程前から）。昨年度は、全児童がオープニングセレモニーに参加をして、エイサーや歌を披露し、PTCA主催の「壺屋つまつり」では陶器まつりを行った。地域に開かれた教育課程の内容として、1、2年生は地域を知り、3、4年生は各陶器出品店で陶工さん等の思いや考えを理解し伝え、壺屋焼きの歴史や思いを育んでいる。5、6年生は、実際に自分たちで作った焼き物を模擬会社をつくり販売している。
- 「平和への願い」へのテーマの下、地域にある企業とコラボし慰霊の日に竹灯籠や「平和の木」を設置し、平和へのセレモニーを国際通りで行い地域から平和のメッセージを発信した。
- 「夢と学校」のテーマの下、校舎の中で、東京ガールズのウォークインを開催し一番身近なファッションについても視点を当てた。また、関係するプロの写真家や芸人、ヘアスタイリスト等の授業も行い、様々な職業観に出合える場を設定し児童の職業観を広げた。
- 「風景学習」をテーマとして、3年生は、NPO関係者や保護者、行政と連携して壺屋焼きを中心とした商店街の歴史やそこで働く人々との交流を通して、これからの地域作りを考え提唱した。

3 児童の変容・成果

- 児童が地域に興味関心をもち、自分たちの住んでいる地域をよりよくしていこうとする郷土愛が高まった。
- 焼き物をつくる楽しさや大変さを実感できた。
- 平和への願いや思いを自分たちだけでなく、地域に発信することで周りの大人や地域の人たちの考えも知ることができるようになった。
- 自分たちが住んでいる地域を過去・現在そして、未来へといかにつなげていくかを考えることができた。
- 教科・領域を横断的に教育編成することで、目標をもち、今自分にできること「なりたい自分」にどうすれば「なれるのか」を考え行動する意欲付けを更に高めることができた。

以上、地域の特徴を生かし、地域に根差した様々な取組をキャリア教育の視点で推進している。

<沖縄県> (種別：学校) 読谷村立古堅中学校

推薦理由

当该校は平成25年度よりキャリア教育の視点による学校経営を継続実践し、校内研究のテーマに取り入れて全職員体制で推進するイメージを共有し共通実践してきた。

1. 学習を支える力の育成⇒キャリアプランニング能力

教科開きや授業、集会等で「なぜ学ぶのか、学ぶ意義」の大切さを生徒に明確に周知した。

2. ドリカムシートからドリカムノートへ⇒「基礎的・汎用的能力」

全生徒を対象に実施し、毎月(週)の目標設定と振り返りによって、個々の生活点検の見直し、他者とのコミュニケーションツールとして活用した。

3. 校内相互授業参観の実施⇒「基礎的・汎用的能力」全て

各教科の研究テーマ、取組・方法、授業内容にキャリア教育の視点と生徒指導の三機能を活かした授業の指導案を作成して参観させ、参観者から授業者へ助言を行った。

4. 学習規律の徹底⇒人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力

「授業の心得10か条」の徹底のために生徒会生活委員会とタイアップして計画的な強化旬間や教科担任と連携した点検活動を実施した。

5. 部活動の生活化⇒「基礎的・汎用的能力」全て

部活動6か条を制定し、部活動で培われた能力を社会生活と結び付けて身に付けなければならない能力と捉え、PDCAサイクルによる毎週のキャプテン会議と部活動通信を発行して自己存在感や共感的人間関係を育成した。

6. PTAと連携した取組⇒「基礎的・汎用的能力」

保護者と地域が中心となり、32の講座を開設して学校独自の職場体験学習を全生徒を対象に学年縦割りで編成して実施した。

以上、キャリア教育優良学校として、キャリア教育の取組は顕著である。

<沖縄県> (種別：団体) 読谷村立古堅中学校PTA

推薦理由

平成25年度、所属学校がキャリア教育を視点とした学校経営・運営をスタートさせ、本団体においても平成26年度から本格的に実践している。各行事の取組事項を、生徒会役員とPTA役員で協議し決定するなど、生徒のボランティア精神の向上等を目指し、様々な行事を開催している。

1. キャリア教育推進のためのPTA総会や学校説明会の開催 → 本校生徒の肯定的自己理解力と自己有用感の獲得の必要性等の課題をデータで提示し、キャリア教育の視点で考えさせることの大切さを説き、本校の課題解決のために他の会員や地域へ協力を要請している。

2. 日曜学校(職場体験学習)の実施 → 「(仮称)日曜学校実行委員会」を立ち上げ、子供たちの「基礎的・汎用的能力」の育成のためにできることを討議した。そこで、32の講座を全校生徒、学年縦割りで編成・実践し、「基礎的・汎用的能力」の育成に努めている。また、開設する講座は生徒へのアンケート結果をもとに決定し、講師は本校OBや地域の方々を中心に構成している。

3. 進路講話の開催 → 1年生と3年生に、自分の生き方や現在の職業を選んだこと等をPTA会員が説明している。講師間でも好評で、継続したいという要望が寄せられている。

4. 小学校6年生を対象にした寺子屋教室の開催 → 小中連携の取組として平成29年度より実施している。

以上の学校・保護者・生徒・地域が一体化したPTA主催による取組は、所属学校が推進しているキャリア教育を深化させるとともに、PTA会員の主体性が育ち、活動のさらなる活性化につながっている。

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立荒巻小学校

推薦理由

当该校は1年生で学校たんけん、2年生では町たんけん、3年生では防災・地域、4年生では福祉・環境をテ

一に地域や人との関わりを重視しながら、小学校6年間を通して、系統的に自分づくり教育(キャリア教育)に取り組んでいる。特に5・6年生は総合的な学習の時間の中で「地域をもっと活性化させ、笑顔あふれる地域にしたい」という児童の願いから、商店街にスポットを当て、荒巻地区の良さを発見し、多くの人に良さを伝えるために、商店街と連携した起業体験学習を展開している。

5年生では児童が数人ずつ16のグループに分かれ、地元商店街の店舗を訪問し、インタビュー等を通して得た「お店のセールスポイント」を入れたポスターを制作している。商店街や地域の方々に招待してポスター発表会を行い、店舗や町内会掲示板、市民センター等に掲示し地域の活性化に役立てている。6年生では商店街を活性化するためのイベントを考え、商店街の協力を得ながら地域の方々を巻き込んだイベント「I♡荒巻～店めぐり人めぐり～」を開催した。学校をスタートし「I♡荒巻」ののぼりを立てているスタンプラリー協力店をめぐり、児童がデザインしたオリジナル缶バッジやオリジナルシールを集めるイベントを行い、約400人の方々(児童150人、保護者150人、地域住民100人)が参加した。児童が店舗と直接交渉し、割引券や商品の引換券ももらえるよう工夫したイベントになり、地域住民から大好評を得ている。

ポスター制作やイベント企画のため、話合いのスキルやキャッチコピー、ポスターデザインとその効果、イベント運営やPR方法等について学ぶため、地元のコピーライターや写真家を授業の講師に招き、児童のスキルを高めている。

当该校は起業体験を推進し3年目を迎え、年々地域商店街や地域の人々との結び付きが強くなり、様々な活動を通して協力体制ができ、自分たちが住む町に対する愛着が深まってきている。本年度は仙台市立三条中学校とも連携し、12月にイベント「We♡荒巻」を計画している。「地域の活性化」「笑顔あふれる地域」を目指し、様々なアイデアを検討し実践する起業体験に係る取組を積極的に行っている。

【ホームページ】<http://www2.sendai-c.ed.jp/~aramaki/>

<横浜市> (種別：学校) 横浜市立老松中学校

推薦理由

当该校では、15年以上前から地域事業所での職場体験学習を実施し、その後、職業インタビュー(1学年)やキャリア週間(3学年)を取り入れる等改善を図りながら、3年間を見据えた独自のキャリア学習を継続的に展開し、地域の教育力を活用して、学びの姿の充実に取り組んでいる。生徒が「学ぶこと」と「働くこと」から『生きる力』について、考えることができるように展開している。また、継続的な取組により、老松中学校の教育課程の地域住民への理解が広がったことで、地域の教育力の向上が図られ、長年にわたり、継続したキャリア教育を実施することができている。

【1学年の取組：職業インタビュー、職業講話】

地域の方々に協力してもらい、職業について質問をする職業インタビューのために、地域事業所の方々(約10名)に来ていただき、生徒が興味のあるブースで、それぞれの仕事について話を聞く職業講話を実施している。

【2学年の取組：職場体験】

地元企業等(平成29年度は約60団体)にお願いをして、9月の2週目に5日間の職場体験学習を実施している。5日間の職場体験学習を経験することで、生徒は、確実に仕事や地域社会に向ける見方や考え方が変わっている。仕事の体験から働くことの厳しさを知り、今の自分にできることやこれからの自分を見つめ直していく機会となり、また、地域社会の中で生活している自分に気付いている。

【3学年の取組：キャリア教育週間】

9月の2週目にキャリア教育週間として、命の尊さを学ぶための人権教室や地域の赤ちゃんとのふれあい教室、また横浜地方裁判での刑事裁判の傍聴等の取組を5日間で集中して行っている。

1年での「学ぶこと」と、2年での「働くこと」を通して、3年で『生きる力』について考え、学びの充実へとつなげている。

<京都市> (種別：学校) 京都市立洛陽工業高等学校

推薦理由

当校は、明治19年に京都染工講習所として創設され、創立130年を越える全国初の公立工業高校で、開校以来、日本の産業界に貢献する人材を輩出してきた。現在は、大学や民間企業、地域等との連携を通して、「ものづくり」の専門教育とともに、課題解決力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努めてきた。なお、同校は伏見工業高校との再編・統合により、平成29年度末で閉校となる。

○ インターンシップの実施(平成11年度～)

平成11年度から試行実施し、平成15年度からは全日制2年生全員を対象にインターンシップを実施している。実際の現場において実践的な知識や技術・技能に触れることにより、学校での学習と職業の関係についての生徒の理解を促し学習意欲を喚起するとともに、生徒に自己の職業適性や将来設計について考える機会を与え、主体的な職業選択の能力や高い職業意識を育てている。

○ キャリア科目の設置(平成19年度～)

基礎学力の定着と、勤労観・就労観を涵養し、自ら進路選択ができる能力を付けることを目的に学校設定科目「キャリア形成」の設置を行った。本科目では、労働法等の働くために必要な知識を学ぶことはもとより、自己分析や卒業生へのインタビュー、企業調べ等、卒業後の進路実現に向けた教育活動を行っている。

○ キャリアサロンの設置(平成22年度～)

2名のキャリアコンサルタントを週2日配置し(平成24年度から週3日)、進路変更希望者や中退者等へのサポートにとどまらず、在校生からの生き方や進路に対する不安・悩みへの相談にも応じる等、進路選択に向けた相談体制を充実してきた。また、教職員とキャリアコンサルタントが連携し、キャリア科目の授業を行う等、効果的なキャリア教育の推進を図ってきた。

○ 地域課題の解決及び模擬会社の設立(平成25年～)

近隣の小学校や福祉施設から要望を受け、これらの施設が抱える課題の解決のためのものづくりに取り組んだり、生徒が学校の中に模擬会社を設立し、商品の開発・生産・販売を行ったりする実践型の教育プログラムを実施する等、生徒の問題解決力や意思決定力の育成を図ってきた。

<京都市> (種別：学校) 京都市立伏見工業高等学校

推薦理由

当校は、大正9年に京都市立工業学校(現洛陽工業高校)の分教場として設立され、「ものづくり」「まちづくり」の実践的な技術の向上を図る教育活動を展開してきた。現在は、大学や民間企業、地域、行政機関等と連携し、地域課題の解決を目的とした研究活動を進めるなど、確かな技術と高い使命感を兼ね備えたスペシャリストの育成を推進し、幅広くキャリア教育の充実に努めている。なお、同校は洛陽工業高校との再編・統合により、平成29年度末で全日制課程を廃止する。

○ インターンシップの実施(平成11年度～)

平成11年度から試行実施し、平成15年度から全日制2年生全員を対象に本格的に実施している。平成19年度に新設した「キャリア実践コース」(27年度入学者選抜より募集停止)では1年次に企業見学、2年次には5日間のインターンシップ、3年次には約2か月の企業長期実習を行ってきた。職業の現場における実践的な知識や技術・技能に直接触れることにより、学校での学習と職業の関係についての生徒の理解を促進し学習意欲を喚起するとともに、生徒に自己の職業適性や将来設計について考える機会を与え、主体的な職業選択の能力や高い職業意識を育てている。

○ キャリア科目の設置(平成19年度～)

学校設定科目「キャリア研求」では、技術者として必要な資質・能力を育成するため、自己理解・自己管理能力の向上を目指し、スクールライフプランやキャリアアッププランの作成を行うとともに、卒業生や外部講師を招聘して進路講和を行っている。また、社会保険労務士を講師として招き、労働契約や社会保障制度等、働くために必要な知識を学ぶ機会とともに、職業観・勤労観の育成を図っている。

○ 企業や自治体等と連携した地域課題解決の取組(平成22年度～)

地域や行政機関、民間企業等と連携し、自然エネルギーを活用した可搬式螺旋水車を開発。農村地域の用水

路に設置し、地域の電力源として活用されている。また、京都市の再生可能エネルギー事業の一環として琵琶湖湖水にも設置し、京都市動物園内の照明電力源として活用された。京都府・滋賀県内10か所以上に水車を設置し発電を行っており、農村の地域資源の活用と地域振興への貢献が評価され、国土交通省等が主催する日本水大賞において未来開拓賞を獲得した。

<京都市> (種別：団体) 特定非営利活動法人 アントレプレナーシップ開発センター

推薦理由

当該団体は、アントレプレナーシップ（起業家精神）溢れる若者の育成とその支援体制づくりを行うことで、日本経済の活性化に寄与することを目的として設立された非営利活動法人である。産官学の各界をつなぐ橋渡し役を行い、学校と地域が協働して人材を育てる教育プログラム開発や研修プログラムの提供、普及活動や教育効果の研究などを実施している。

京都市教育委員会では、約3,700の事業所の協力を得て、すべての中学校2年生が職場体験（3日以上）を行う「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業や、小学校跡地を活用した「京都まなびの街生き方探究館」において、地元企業と連携したモノづくり体験学習（小学校4～6年生対象）、銀行や商店などからなる「街」を再現し、消費者や働く人の立場を学ぶ体験学習プログラム（スチューデントシティ学習、小学校5年生対象）、経済・金融について学ぶ体験学習プログラム（ファイナンスパーク学習、中学校1年生対象）を全校で実施することで、児童生徒の職業観・勤労観を育成するキャリア教育を推進している。

加えて、上記のプログラムが提供されない学年や学校独自のキャリア教育の実践に向け、起業体験分野の専門家である当該団体からの支援を受けながら、小・中・高校において座学と実践を組み合わせた独自の「起業家プログラム」を導入するとともに、文部科学省委託事業「小・中学校等における起業体験推進活動」を活用した起業家教育の展開など、京都市モデルの構築に向けて、起業体験活動の充実を図っているところである。

開発センターの支援による起業家教育の実践校においては、地元商店街等と連携した商品開発・販売やトレードフェアへの出展などを通して、多様な職業観とともに、「人と協力して働く力」等、社会人としての基礎能力、自ら主体的に行動する意欲や態度（起業家的行動能力）の醸成が図られている。また、当該団体や地元商店街との協働で地域の活性化に果たす産業や起業家の役割について理解を深めることで、起業家や事業を実践する人の志や努力等を知り、勤労観や地元への愛着、商売をする方への尊敬の感情等が育成されている。

このように、児童生徒一人一人の生涯学習の視点に立ったキャリア発達の支援、発達段階に応じた系統的・体系的なキャリア教育・起業家教育の推進において、当該団体が果たす役割は非常に大きく、京都市のキャリア教育の推進に特筆すべき貢献をされていることから本表彰に推薦する。

<大阪市> (種別：学校) 大阪市立咲くやこの花高等学校

推薦理由

【概要】

当該校は、府内の公立学校では最初の併設型中高一貫教育校として、平成20年に開校した。総合学科・演劇科・食物文化科の3学科を設置し、大学や産業界との緊密な連携の下でそれぞれの分野におけるスペシャリストの育成を目標に、「本物」に触れる高度な専門教育を多面的・計画的に推進している。

当該校では、生徒一人一人の興味・関心及び進路希望が多様化していることから、生徒のニーズに応えられる教育課程を編成し、きめ細かな指導によるキャリア教育や進路指導に学校全体で取り組んでいる。

【方針】

キャリア教育や進路指導にかかる基本方針として次の①～③を実施している。

- ① インターンシップの機会を数多く設け、幅広い実社会体験をとおして生徒の適切な職業選択や大学の学部・学科選択を支援する。
- ② 「進路を考えることは、生き方を考えること」をスローガンに、生徒が自らのライフプランを確実に設計できるよう、教員による面談やガイダンスを充実させるとともに、外部講師を招聘し、キャリアガイダンスや進路講話などを積極的に実施する。

- ③ 「社会人としてあたりまえのことがあたりまえにできるようになる」ことを目標に、基礎・基本の徹底に努めるとともに、放課後セミナー、長期休業中の集中セミナー、土曜セミナーなど、教育課程外の講習会についても計画的に展開し、生徒の学習意欲と学力の一層の向上を図る。
- ④ 地域との連携関係を活用してコミュニケーション能力等を高め、人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力等の向上を図る。

【取組】

- ・演劇科・食物文化科では、1年次より社会人講師を招聘した講習会を実施。
- ・演劇科の2年生が地域の小学生を招待し、ダンス・歌唱・狂言等の実演によるミニ芸術鑑賞会を開催。
- ・総合学科スポーツ科学系列の2年生が地域の小学校に出向き、体操や体づくり運動の実技指導を実施。
- ・総合学科造形芸術系列（中学校の美術分野を含む）の1・2年生による、JR駅構内のマナーアップポスターの制作、区役所庁舎内の壁画の制作、地域商店街の店舗紹介パネルの制作など。

特に、食物文化科は卒業時に国家資格である調理師免許を取得し飲食関係の事業所に就職する生徒が多いことから、「食のプロ」としての意識を高めるため、次のようなキャリア教育を組織的・系統的に実施している。

- ・1年次：複数の有名ホテルと連携し、テーブルマナーや接客技術を実体験することで学習意欲の向上を図る。
- ・2年次：大学や専門学校と連携し、最新の設備や器具の使用方法を体験し、校内の実習だけでは習得困難な専門的調理技術や即戦力としての力量を高める。
- ・3年次：ホテル・レストラン・病院・保育園等において、長期休業中に2週間から1ヵ月間程度のインターンシップを実施し、社会人としての心構えや望ましい職業観・勤労観の育成を図る。

【成果】

上記のような取組を、生徒・教職員が一丸となって「チーム咲くやこの花」として推進している。毎年改善を加えながら計画的・系統的にキャリア教育や進路指導に取り組むことで、近年の大学進学や就職における進路実績が飛躍的に向上してきている。また、地域や関係機関との深い連携により、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度を育むとともに、PDCAサイクルによる改善を図ることで、より主体的なキャリア教育に取り組んでいる。

<神戸市>（種別：学校）神戸市立真陽小学校

推薦理由

当該校は古くから開けた下町に位置し、国道2号線を挟んで、北側の阪神・淡路大震災後に再開された区域と、南側の古くからの商店街や住宅などが混在する環境にある。地域にある資源（ひと・もの・こと）を生かした学習や活動を取り入れ、子供たちに自己有用感を味わわせるとともに、目標をもち粘り強く物事に取り組む姿勢や自ら進んで人の役に立とうとする態度を育てることを目指して取組を進めている。

実践に当たっては、各学年でキャリア教育につながる内容を見直し、【各学年の取組（教材開発）】【通年の取組】【全校での取組】の3つの柱を立てて取り組んでいる。

○ 具体的な取組の事例

【各学年の取組（教材開発）】・・・「商売繁盛 大作戦」（3年生）

地域の商店街の方々に協力していただきながら、実際の店舗で販売体験や生産体験をさせていただく。（1店舗当たり2～4名の児童が活動）その中で、仕事の大変さや楽しさを体験し、仕事の工夫ややりがいなどもお店の方から直接教えて頂く。それを基に、お店の宣伝ポスターを作ったり、体験したことを新聞にまとめたリして、他の店で活動した友達と伝え合い、情報共有をする。

【通年の取組】・・・「係・委員会活動」（各学年）

決められた自分の役割や責任を果たすことで自己有用感を高めてほしいと願い、常時活動に力を入れて取り組んでいる。特色ある取組として、放送委員会では、関西大学と連携し、地域の方々の協力を得ながら、週に一度、防災に関する放送を行っている。

【全校での取組】・・・「ゲストティーチャーから学ぶ」

ラグビーワールドカップで活躍した神戸製鋼コベルコスティーラーズの伊藤鐘史選手や、リオパラリンピックに出場した水泳の笠本明里選手を招いて講演会を実施した。目標をもつことやあきらめずに努力することの

大切さを子供たちに語って頂いた。

以上のように、当該校は、本市において、地域の特色を生かしたキャリア教育の実践に先進的に取り組んでいる。

<熊本市> (種別：学校) 熊本市立一新小学校

推薦理由

例年、6年生が、総合的な学習の時間に「商い体験」を行っている。平成28年度は文部科学省委託事業「小・中学校における起業体験推進事業」のモデル校として、起業体験学習に取り組んだ。

1 「商い体験」とは

当該校は、城下町として栄えた新町の中にあり、新旧の商店街があり、かつ公共施設や文化財が多数存在している校区にある。伝統ある学校として地域住民の当該校に対する愛着や協力は並々ならぬものがある。「商い体験」は、そんな地元の商店街の協力を得て、子供自身が校区内の店舗から実際に品物を仕入れ、販売を行う、6年生の職業体験学習である。

2 「商い体験」の目標

- ① 自他のよさを知り、生き生きと自己を表現する子供を育成する。
- ② 望ましい職業観や職業に関する知識を身に付け、自分の個性を理解し、自らの力で生き方を選択する能力や態度を育成する

当該校は「生きる力」＝「どうにかする力」と捉え、どんな困難なことに出遭っても、何とかしようとするたくましい心と思いやりのある優しい心をもった子供の育成を目指している。「商い体験」を通して地域の身近な産業や職業について学び、働くことの大切さや苦勞を知り、自己の生き方について考えさせることをねらっている。

3 「商い体験」出店場所の変遷

平成14年より学校近くの味噌店駐車場で「商い体験」を開始し、以来、平成21年からは交通センターコート、平成23年は城彩苑前広場、平成24年からはNTT広場前、そして平成27年からは、熊本市一の繁華街である下通アーケード内で「商い体験」を行っている。

4 成果

- 目標①・ 販売開始直後は声を出すことに抵抗があったようで、うつむき加減で恥ずかしそうにしていたが、お客さんと接したり商品が売れたりしていくたびに次第に声は大きくなり、積極的に笑顔でお客さんに声をかけるようになっていった。学校の授業では見られない一面を見ることもでき、体験活動の重要性を感じた。
- ・ 店長や会計、在庫管理など、自分の役割に責任をもって取り組むとともに、互いに協力し合うことの大切さを学んでいた。商品が売れた時は共に喜び合う姿が見られた。
- 目標②・ 商品の仕入れ数から利益を見込んだ売価の決定までを児童が考えて行った。商品が店頭で並ぶまで、どのように流通するのかを知ることができた。
- ・ 商いの大変さや難しさ、接客の難しさを学ぶ一方で、人と関わる喜びや商品が売れた時の喜びも味わうことができた。体験を将来に生かしたいという思いを持たせることができ、キャリア教育の良い機会となった。

<熊本市> (種別：学校) 熊本市立川尻小学校

推薦理由

伝統工芸が盛んな地域であり、総合的な学習の時間を使って、地域の産業に関する学習に、長年取り組んでいる。平成28年度は、文部科学省委託事業「小・中学校における起業体験推進事業」のモデル校となり、起業体験学習に取り組んだ。

当該校区は、歴史が古く、文化的遺産に恵まれた環境であるとともに、学校周辺には、開懐世利六菓匠（6軒の和菓子職人の団体）、川尻六工匠（6人の建築職人の団体）、刃物鍛冶、桶作り、酒蔵など伝統産業を脈々と現代に受け継いでいる人々がいる。

そこで、地域の人やものを活かし、児童に郷土のよさを見つめ直してほしいという願いから、和菓子を通して積極的に地域起こしを進めている「開懐世利六菓匠」の協力を仰ぎながら「6年生による和菓子販売体験」を学習活動の中心として、次の3点を目標に取り組んだ。

- 川尻で働く人々の様子を調べ、仕事の様子や計画的に物事を進める重要性を知る。
- 学習を通して、人間関係調整能力、情報活用能力、役割把握能力、計画実行能力、課題解徹能力などを育てる。
- 地域と連携した学習を行い、伝統継承の重要性を理解し、郷土愛を育む。

実際の取組においては、次の2点を柱に学習を進めた。

① 地域の諸団体との連携

活動の中心となる開懐世利六菓匠の他、愛育会（PTA）、熊本市南部市民の会、商店街連合会、校区婦人会等の各種諸団体とのしっかりとした協力体制を構築できた。定期的な関係者会議の開催し、取組のねらいについての理解や、学習内容や計画についての情報を共有することで、全面的な支援を得ることができた。具体的な連携としては、「和菓子の歴史やものづくりへの思い、接客の心構えなどについての講演」、「実際の販売までのノウハウの指導」、「新聞折込や児童の学校周辺でのチラシ配付の協力」、「ラジオでのPR活動」等、多岐に渡り、販売会の成功に寄与するとともに、地域の教育力活用のモデルケースとなった。このような地域密着の学習により、児童の郷土への理解を深めることができた。

② 児童の役割を明確にした意欲的で主体的な学習

関係者会議での販売店からの助言を受け、子供たち一人一人が責任を持って取り組めるよう、「肩書き」をつけて役割分担をし、販売会まで活動を行った。実際の学習活動では、それぞれが自分の肩書きを入れた名刺を作成し、企画や、仕入れ、陳列、PR活動などの役割ごとに、販売店との打ち合わせや準備を行っていった。初めての販売活動であったが、明確な役割分担により意欲的で主体的な学習を行うことができた。

以上のような地域と密に連携した起業体験学習には大きな成果が見られたため、取組を継続し、郷土愛や課題解決能力等の育成を図っている。